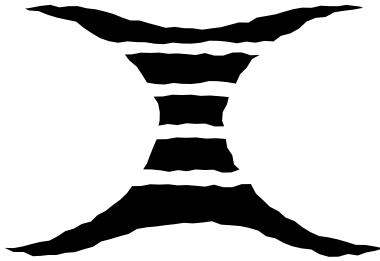




APANI®

As Pure As Nature Intended®
Audiophile

THE MUSIC TRANSFORMER
音が、音楽へ還る場所

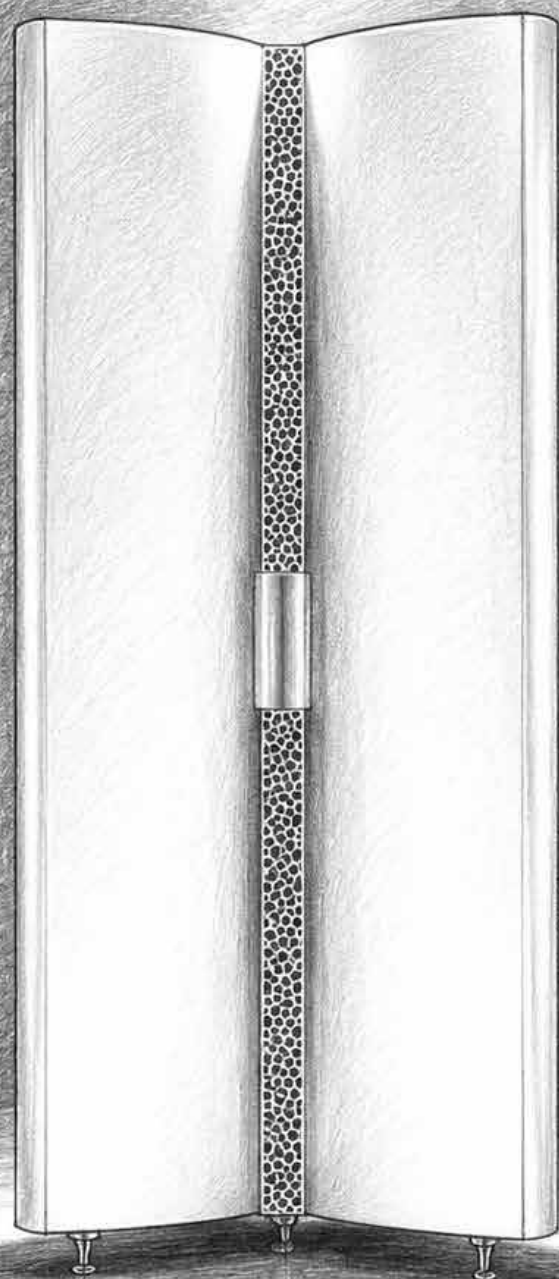


APANI[®]

As Pure As Nature Intended[®]
Audiophile

THE MUSIC TRANSFORMER

音が音楽へ還る場所



目次

PHILOSOPHY & FOUNDATION

生命の響き	8
Prof. Dr. Bodo W. Lambertz – 先見のリーダー	12

BETTER, NOT JUST DIFFERENT

あらゆるハイエンド・ラウドスピーカーを確信をもって評価し、
どれが本当に優れているのかを見極めるためのAPANIメソッド。
単に異なるものではなく、より優れたものを。

PART I — MUSIC AS EXPERIENCE	15
APANIの感性的基盤	

PART II — THE AAES STANDARD	326
The APANI Audiophile Evaluation Standard	

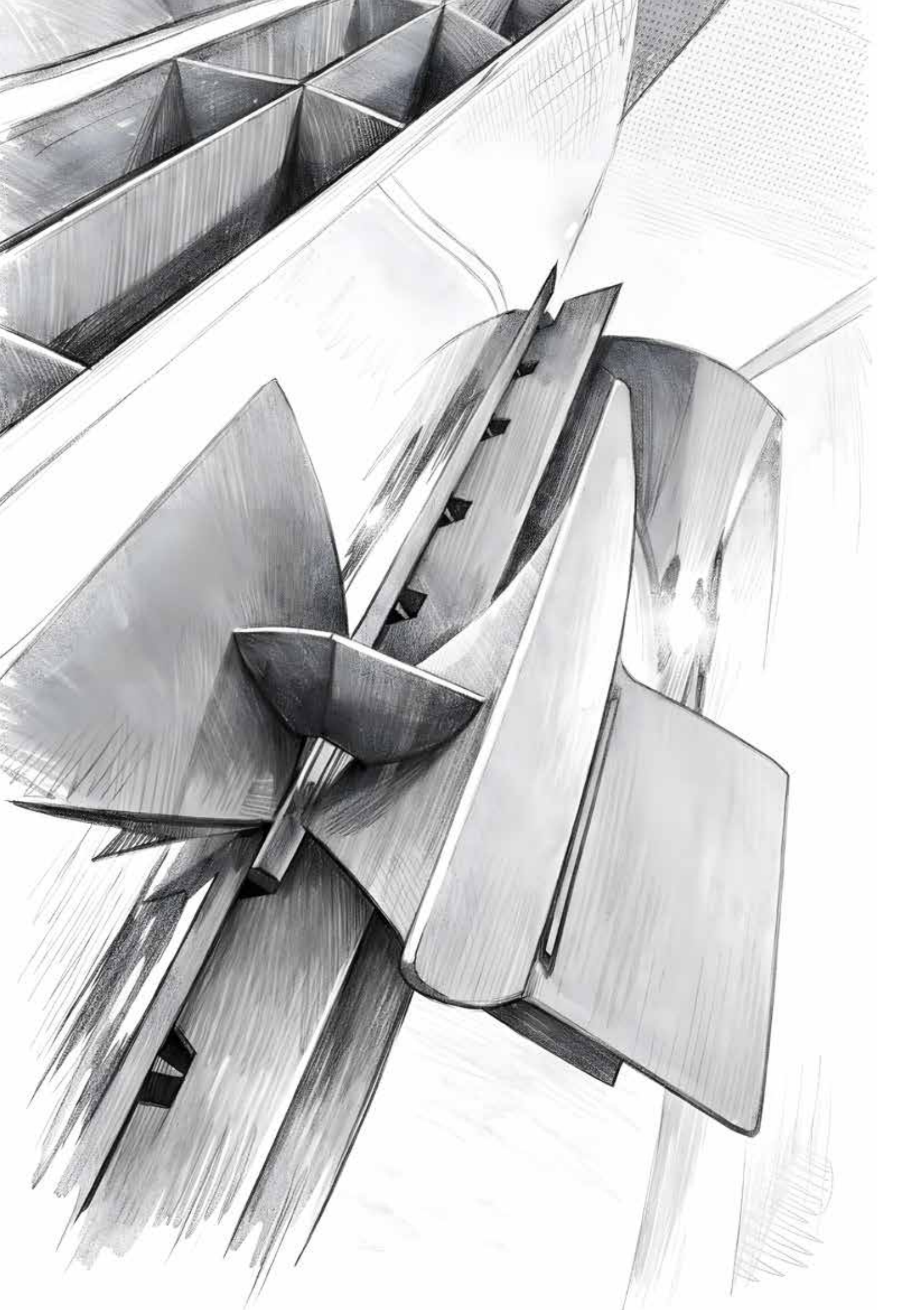
Apani 起源	67

HERITAGE & VISION

Swiss Intellectual Properties & Licensing AG	86
球面波	88
Lifetime Achievement Award – PLUS X AWARD	92
As Pure As Nature Intended – の哲学	94
More Than Products – ひとつの姿勢	96

THE NEW GENERATION

Apani × Backes & Müller – 純粋性と精密さが出会う場所	102
ムーブメントを導く人々	104
77年に凝縮されたオーディオファイルの経験	106
第三の力	108
Music Transformer 世代	112



目次II

THE MUSIC TRANSFORMERS

QEVIKO

真正なる音の本質について	114
Apani QEVIKO – 概要	116
アーキテクチャー	118
開発者について	146
ハンドクラフト／オーディオファイル・マニファクチャラー	150
仕上げとスタイル	152
技術仕様	154

CYLINDRA V・CB

Cylindra V・CB – Music Transformer	156
Custom Bespoke Verticalhorn Reference	160
ラウドスピーカーは、あなたに適応を強くない。 あなたが誰であることを学ぶ。	162
Unique Performance Points	164
技術仕様	172

IONA x FJORD

モノリシック Music Transformer	176
Modular Foundation Extension	184
技術仕様	190

AURIS V SYSTEM

Auris V 親密なリスニングの芸術	196
Auris V OnWall	206
Auris V Sub	214
技術仕様	220

APANI ATMOS LISTENING ARCHITECTURES

The Auris Apani Atmos 体験	222
5.1.4 Atmos System	224
7.2.4 Reference System	226
技術仕様 I	228
7.2.4 Performance System	230
技術仕様 II	232



目次 III

REFERENCES

Selected Projects	234
Apani Audiophile の開発者	244

APANI PHASE ZERO

Custom Bespoke – The Origin Reference	246
Phase Zero the In-Wall System	248
Phase Zero Studio Monitor	252
Phase Zero Home	254
Bespoke Color	256
音楽は空間の中で生まれるのではない。 時間の中で生まれる。	260
創設者の声明	264
Phase Zero and Nadir Expansion	266
すでに自らのアンプの声を見出した オーディオファイルのために 技術仕様	273
A Reviewer	278
DARE TO COMPARE	286
オーディオファイル・ハイエンド・ラウドスピーカー評価	290

72 YEARS OF EXPERIENCE

ひとつのリスニング哲学	310

CORE TECHNOLOGIES

311

SIGNAL PHILOSOPHY

FullScale™ビットパーフェクト	315
純度がもたらすもの	317
FullScale™パワー	319

THE APANI BESPOKE POWER AMPLIFIER

ふたつの哲学。ひとつの真実。	320
Apani power genome	322
VORANEX / THYRON	323
LYRION / DORANEX / MYRION	324
AERION / KORIX	325

IMPRINT

352

生命の響き

— それこそ、ヘッドフォンでは届けられないものです！

なぜ音楽なのか

誰もが知っている瞬間があります。ある曲が流れはじめる——その瞬間、私たちは再びあの場所へと戻ります。初めての恋。終わらないはずだった夏。胸を締めつけた別れ。音楽は、思考を介さず、魂へまっすぐに語りかける唯一の言語です。翻訳を必要とせず、国境も知りません。そして私たちに、自分が何者であるかを思い出させてくれます。

音楽は、耳で聴くものではありません。

音楽は、感じるものです。空気を動かし、部屋を動かし、身体を動かすもの。胸を震わせる低い音。肌を走る声の戦慄。息を吞ませるクレッシェンド。それは耳へと流れ込む情報ではありません。人間そのものをとらえる体験なのです。

失われた音の身体

しかし、失われてしまったものがあります。

音楽を再び身体で感じることなく育つ世代がいます。彼らが知る音楽は、耳の中を細く流れる糸のようなもの—圧縮され、縮小され、二つの小さなヘッドフォンの中に閉じ込められた音です。偉大なラウドスピーカーが部屋を生命で満たす感覚を、彼らは知りません。床を伝って足元から立ち上がる低音を、彼らは感じたことがありません。声が部屋の隅々に触れたために涙する経験を、彼らはまだ知りません。

これこそが悲劇です。

音の全身性を体験したことのない人は、それを失っていることに気づくことさえできないのです。彼らは、滴りを大河だと思い込みます。写真を風景そのものだと受け取ってしまいます。音楽は日常の添え物となりました—背景で鳴るだけのもの、孤立し、ひとりきりで、自分だけの小さな泡の中に閉じ込められたものへと。人々が音を囲んで集う共有の瞬間は、稀なものになってしまいました。

音楽は自然である

APANIIは、音楽とは自然であると信じています。

それは、As Pure As Nature Intended。心音は、私たちが最初に聴くリズムです—世界の光を見るよりもずっと前、母の身体の中で。呼吸は、最初の旋律。身体そのものが、最初の楽器。音楽は自然から切り離されたものではありません—自然が発する、最も純粋な声なのです。

最高の素材を選び、最も純粋なマテリアルを求め、誠実なクラフツマンシップを尊ぶように、私たちは音にもまた、完全で改変のない真実がふさわしいと考えます。圧縮されないこと。縮小されないこと。人を孤立させないこと。ただ、その偉大さのすべてを備えた音だけがあること—身体的で、誠実で、生きている音が。

APANIIは音楽に身体を取り戻す

これが、私たちの使命です。APANIIは音楽に身体を取り戻します。私たちはラウドスピーカーを作っているではありません—人間そのものをとらえる体験を生み出しているのです。音楽が再び呼吸し、再び触れ、再びつながる部屋への扉を開きます。低音が耳で聴かれるだけでなく、身体で感じられる場所へ。声がヘッドフォンから囁くのではなく、まるでアーティストが目の前に立っているかのように、部屋を満たす場所へ。

私たちは、人々がもう一度、音を囲んで集うことを願っています。家族と。友人と。愛する人の手を取りながら。私たちは音楽に、失われた尊厳を取り戻します—そして音楽だけがもたらすことのできる、深く、身体的で、分かち合われる喜びを取り戻すのです。



音楽は日常の添え物となりました
—背景で鳴るだけのものへと。孤立し、ひとりきりで、
自分だけの小さな泡の中に閉じ込められたものへと。



APANIは音楽に身体を取り戻します。
私たちはラウドスピーカーを作っているのではありません
—人間そのものをとらえる 体験を生み出しているのです。





APANIを所有するのではない

——あなた自身がAPANIになる

APANIは製品ではありません。APANIは、あなたの一部です。ひと言も発することなく、あなたが何者であるかを世界に語ります。便利さよりも本物を選ぶこと。消費されるものより、感じられるものを選ぶこと。孤立よりも、分かち合うことを選ぶこと。APANIは、あなたの個性を映すアクセサリーです——優れた時計、希少な車、一点の芸術作品のように、確かな存在感を放つもの。しかしそれらとは異なり、APANIは部屋を感情で満たします。APANIを所有する人々は、耳の中を細く流れる音だけに人生を委ねるには、あまりにも人生が尊いことを理解した人々の輪に属しています。美しさは感じられるべきものだと思える人々。虚栄のためではなく、何が可能であるかを知っているからこそ、最良を選ぶ人々。APANIを所有するものではありません。あなた自身がAPANIになるのです。

聴き手からアンバサダーへ

そしてここから、美しいことが始まります。音の全身性を一度でも感じた人は、沈黙してはいられません。それを分かち合わずにはいられないのです。友人にこう語ります。「来て、座って。これは感じなければわからない。」彼らは扉を開き、その物語を伝えます。そして、完全に自らの意思で——アンバサダーとなるのです。

すべてのAPANIオーナーは、響きを広げる存在です。私たちが求めるからではありません。その体験が、ひとりの胸に留めておくにはあまりにも大きいからです。ある世代は、音楽がどのように感じられるのかを忘れてしまいました。それを思い出させるのが、私たちのオーナーです。彼らはその火を次へと運びます。彼らこそが、世界におけるAPANIの声なのです。

招待状

APANIは、あなたを招きます。音楽が再び息づく部屋へと足を踏み入れてください。身体を通り抜ける音を感じてください。音楽がまだ体験であった頃の感覚を思い出し——そしてそれが、再び体験となり得ることを発見してください。美しさに尊厳を取り戻すムーブメントの一員となるために。

*Live the APANI Way of Life. Hear the Sound of Life.
As pure as nature intended.*

PROF. DR. **BODO W. LAMBERTZ**

— 先見性あるリーダー



リスニング、スケール、そしてカテゴリーという幻想

何十年もの間、オーディオの世界はリスニングをカテゴリーに分けようとしてきました。
ニアフィールドとファーフィールド。スタジオとホーム。リファレンスと感情。
こうした区別は産業には役立つかもしれませんが、しかし音楽には役立ちません。

聴く人が近くに座るか、遠くに座るかによって、音楽そのものの本質が変わるわけではあり
ません。変わるのは、私たちと音楽との関係です。Apaniにおいて、私たちはラウドスピーカー
を設計しているのではありません。私たちは、リスニングの条件を設計しています。

リスニング・インストゥルメントは、時間、コヒーレンス、そして人間の脳が音から意味を形成
する仕組みを尊重しなければなりません。これらの要素が整ったとき、音楽は自然に流れ出
し、聴く人はシステムの存在を忘れます。

だからこそApaniは、小型のインストゥルメントは分析的でなければならない、
あるいは大型のシステムはスペクタクルでなければならない、という考えを拒みます。
スケールとは、距離や音量の問題ではありません。
それは、音がどのように空間に宿るかという問題です。

IONAはニアフィールド・システムではありません。それは完全なMusic Transformerです。
Cylindraは「より大きな音」ではありません。それは音楽と部屋のあいだに生まれる、異なる
建築的關係です。Fjordは低音を加えるのではありません。重力を加えるのです。

すべてのApani Music Transformerは、アクティブで、時間的にコヒーレントであり、実際の
リスニング環境で精密にチューニングされた、ひとつの全体として構想されています。測定グ
ラフを印象づけるためではなく、知覚に敬意を払うために。なぜなら、聴くことはコントロー
ルの行為ではないからです。それは信頼の行為です。

テクノロジーが一步退くとき、音楽が前へ進み出ます。そしてその瞬間、
音は本来あるべき姿へと戻ります。自然な体験へと。

Prof. Dr. Bodo Lambertz
Founder & Creative Director
Apani Audiophile
As Pure As Nature Intended

PART I – 体験としての音楽

APANI の感性に根ざした基盤

01 | Page 16

音楽が音になる前に

音楽はテクノロジーとして始まったわけではありません。呼吸、身体、リズム、沈黙、そして存在感——人と人とのつながりとして始まったのです。

02 | Page 18

As Pure As Nature Intended

APANIが目指すのは、何かを加えることではなく、損失を取り除くこと——音楽が限りなく純粋な姿で届くために。

03 | Page 20

音楽は聴くものではない。生きるもの。

音楽は耳で聴くだけのものではありません。身体、記憶、感情、そして意識に触れるものです。

04 | Page 22

APANIのテーゼ

尺度となるのはラウドスピーカーではありません。音楽を通じて取り戻される、人間の体験の深さこそが尺度です。

05 | Page 24

ラウドスピーカーを超えて

APANI Music Transformerは、単なるラウドスピーカーではありません。再生を、存在感、空間、感情へと変容させるものです。

06 | Page 26

再生ではなく、存在。

システムが消えたとき、体験だけが残ります。音楽はもはや再生されたものではなく、そこに存在するものとして感じられます。

07 | Page 28

感情に仕えるテクノロジー

APANIにおいて、テクノロジーは決して目的そのものではありません。タイミング、ダイナミクス、空間、沈黙、そして音楽的真実を守るために存在します。

08 | Page 30

タイミングと位相

時間、インパルス、位相は、音楽的リアリティの建築を形づくりま。それらが正しく整ったときにのみ、音楽は空間性を帯び、生きたものとなります。

09 | Page 32

ダイナミクスとマイクロダイナミクス

圧倒的な力と最も微細な動き。そのどちらも等しく守られなければなりません——身体を揺さぶる衝撃から、フレーズの前に宿る息づかいまで。

10 | Page 34

身体的な音楽の存在感

音楽は心の中だけに存在するべきではありません。圧力、エネルギー、動き、そして自然な存在感として、身体で触れられるものとなるべきです。

11 | Page 36

空間の真実 すべての録音は、その内側に空間を宿しています。APANIは、空気、奥行き、距離、反射、そして雰囲気。を再び知覚可能にします。

12 | Page 40

ソースインTEGRITY 音楽が音になる前、それは信号

です。APANIは、その最初の瞬間から、録音が持つ本来の真実を守ります。

13 | Page 42

APANI PureField™ Signal Cable

ケーブルはアクセサリではありません。ソース、プロセッシング、そしてMusic Transformerの間で信号を守るためのインストゥルメントです。

14 | Page 44

磁界のインテグリティ

目に見えない電氣的・磁氣的影響は、信号を乱すことがあります。APANI PureFieldは、音づくりではなく、制御によってこの経路を守ります。

15 | Page 46

APANI ExperienceRoom

ExperienceRoomは、APANIを身体で感じられる場所です。ここで技術的な主張は、個人的で、身体的で、感情的な体験へと変わります。

16 | Page 48

Dare to Compare APANIが求めるのは信じるのではなく、比較することです。比べるべきはラウドスピーカーではなく、自らの体験です。

17 | Page 52

黄金のリスニング・シーケンス

音の評価から真の音楽的知覚へと、顧客を一步步導く、ガイドされたリスニングのドラマトゥルギー。

18 | Page 54

APANI Way of Life APANIは、より大きな音ではなく、より深い体験です。音楽は再び、選ばれた時間、共有される沈黙、そして意識的な生活の質となります。

19 | Page 56

APANI for Japan

APANIは、Swiss Precisionと、日本の要求水準の高い市場において感情的に響き、文化的にも理解される言語を融合します。

20 | Page 58

パートナーおよびディーラー・スタンダード

APANIのパートナーは、単に製品を販売する存在ではありません。コンサルテーション、空間、儀式、そして信頼を必要とする体験へと、人々を導く存在です。

21 | Page 60

オーナーシップ

顧客が購入するのは物ではありません。音楽、住まい、そして自らの聴き方との、新しい関係を選ぶのです。

22 | Page 62

クロージング・マニフェスト

このマニフェストはAPANIの姿勢を凝縮します。音楽とは再生ではなく、存在、記憶、空間、そして生きられた体験です。

23 | Page 64

シグネチャー・ランゲージ

締めくくりの言葉は、APANIがどのように響き、語り、感じられるべきかを定義します。精密で、静かで、洗練され、感情的な信頼性を備えて。



音楽が音になる 前に

それは存在だった。息づかい、身体、沈黙、火。音楽は人と人を結ぶ絆として始まった。



APANIは、通常のハイファイの言葉が終わる場所、すなわち人間から始まります。ラウドスピーカーが存在する前から、音楽は存在していました。

仕様の前に。ステレオイメージングの前に。ストリーミング、ケーブル、アンプ、デジタル処理、そして音響用語の前に。そこにはリズムがありました。息づかいがありました。人間の声がありました。太鼓があり、身体があり、部屋があり、沈黙があり、人と人のあいだを動く目に見えない何かがありました。音楽は娯楽として始まったわけではありません。それは存在として始まりました。

それは演奏になる前に、儀式でした。

録音になる前に、記憶でした。

理論になる前に、動きでした。

音質になる前に、感情でした。ここからAPANIは始まります。

問いは、「もうひとつのハイエンド・ラウドスピーカーをどう作るか」ではありません。

より深い問いがあります。本質的なものが何ひとつ失われないとき、音楽は人間に何をもたらすのか。その問いがすべてを変えます。なぜなら、音楽はただ聴かれるものではないからです。音楽は身体に入り込みます。呼吸を変えます。記憶を開きます。肌を震わせます。感情を呼び覚まします。沈黙に意味を与えます。人をある場所へ、ある時間へ、ある顔へ、ある感情へと連れ戻すことができます。

一曲の歌は若さを呼び戻すことがあります。ひとつの声は、愛した誰かを連れ戻すことがあります。ひとつのリズムは、心が理由を理解する前に身体を動かすことがあります。最後の一音は、音そのものよりも力強い沈黙を残すことがあります。

だからこそAPANIは、通常の意味でのラウドスピーカーについて語りません。

APANIはMusic Transformerシステムを創造します。

ラウドスピーカーは音を再生します。APANI Music Transformerは存在を取り戻します。それは単に情報を再生するためではなく、録音された音楽を、生きた人間的な出来事へと変換するために設計されています。息づかいを存在へ、リズムを身体へ、空間を空気感へ、沈黙を緊張へ、ディテールを感情へ、録音を体験へと。

自然が意図したままの 純粹さ

音は自然の中に始まります。空気、石、木、そして沈黙の中に。APANIIは加えるものではありません。明らかにするのです。





APANIの意味

APANIの道は、さらに多くの効果を加えることではありません。APANIの道は、損失を取り除くことです。

APANIとは、As Pure As Nature Intendedを意味します。これはスローガンではありません。ひとつの規律です。それは、技術的、美的、音響的、感情的、そして商業的なすべての判断が、ひとつの中心的な目的に仕えなければならないということです。すなわち、聴く人を音楽本来の力から隔てるものを、すべて取り除くこと。

自然の中で、音は平面的ではありません。音は生きています。声は息づかい、身体、意図、そして感情を運びます。太鼓は周波数を生むだけではありません。空気、部屋、肌を動かします。チェロは音符を生むだけではありません。木、共鳴、圧力、空間を解き放ちます。コンサートホールは技術的な図面ではありません。それはスケール、反射、沈黙、そして人間の注意です。

自然な音楽は身体的です。

自然な音楽は空間的です。

自然な音楽は感情的です。

自然な音楽は生きています。

APANIは、再生された音楽をこの本来の状態へ近づけるために存在します。誇張するのではなく。

削ぎ落とすのでもなく。飾るのでもなく。

一瞬のスペクタクルに仕立てるのでもなく。純粹に。

As Pure As Nature Intended.

この哲学がAPANIに方向を与えます。

それはエンジニアに、何を守るべきかを告げます。

それはデザイナーに、何を取り除くべきかを告げます。

それはディーラーに、何を尊重すべきかを告げます。

それは聴く人に、なぜその体験が違って感じられるのかを伝えます。APANIの道は、さらに多くの効果を加えることではありません。APANIの道は、損失を取り除くことです。

なぜなら感情はすでに 音楽の中にあるからです。課題は、それを届かせることです。

音楽は聴くものではない。 生きるものだ。

音楽は心が理解する前に、身体へ届きます。肌、息づかい、記憶に触れます。APANIIは、音楽が何を呼び覚ますかによって音楽を測ります。

身体は、心が説明する前に聴いています
音楽は単なる音響的な出来事ではありません。それは人間的な出来事です。音楽は分析よりも先に、私たちへ届きます。

ひとつのリズムは呼吸を変えることがあります。ひとつの声は記憶を呼び戻すことがあります。ひとつの旋律は、ある顔をよみがえらせることがあります。最後の音のあとの沈黙は、音そのものよりも長く残ることがあります。だからこそAPANIIは、音楽を音へと還元しません。

音楽は身体です。音楽は記憶です。音楽は感情です。音楽は空間です。音楽はアイデンティティです。

私たちは耳を通して聴きます。しかし音楽は、人間のシステム全体を通して体験します。脈拍、肌、神経の緊張、内なるイメージ、記憶、そして注意。最も力のある音楽の瞬間は、最初に音として語られることはほとんどありません。それは感覚として語られます。静けさ、鳥肌、近さ、圧力、解放、悲しみ、喜び、認識として。

これがAPANIIの出発点です。

もし音楽が人間的な出来事であるなら、音楽を再生することには重大な責任があります。システムがタイミングを失えば、感情は弱まります。空間が崩れれば、存在感は消えます。ダイナミクスが圧縮されれば、生命感は小さくなります。ソースが不十分であれば、記憶は残っても、録音の真実は隠されてしまいます。

APANIIは、その損失を防ぐために存在します。

APANIIはお客様に、音質だけを評価するよう求めるではありません。内側で何が起ころのかに気づくことを求めます。その声はより人間的になったか。リズムはより身体的になったか。録音の中の部屋は開いたか。沈黙は違って感じられたか。記憶は戻ってきたか。

これは通常の製品言語ではありません。
それは音楽の真の言葉です。





APANI の テーゼ

ラウドスピーカーが尺度なのではありません。人間こそが尺度です。APANIは、再生が体験へと変わる場所から始まります。

人間の体験こそが尺度です

スピーカーではありません。ブランドでもありません。音楽によって取り戻される、人間の体験の深さです。

APANIの中心となるテーゼは、シンプルでありながら厳格です。ラウドスピーカーの品質は、それが取り戻すことのできる人間の体験の深さによって測られる。この言葉は、ルールを変えます。多くのブランドは問いかけます。どのスピーカーの音がより良いのか。

APANIが問うのは、どのシステムが、音楽が本当にあなたにもたすものをより深く体験させてくれるのか、ということです。

これはエンジニアリングを否定するものではありません。より高いエンジニアリングを求めるものです。しかし同時に、エンジニアリングに人間的な目的を与えます。

周波数特性が重要なのは、音色の真実が重要だからです。タイミングが重要なのは、リズムが時間の中に生きているからです。位相が重要なのは、空間が関係性によって築かれるからです。ダイナミクスが重要なのは、音楽が呼吸するからです。低歪みが重要なのは、人間的なニュアンスが繊細だからです。

ソース・インテグリティが重要なのは、最初の一言がシステムに届く前に、真実が失われてしまう可能性があるからです。APANIは、通常のオーディオファイル的な意味で、より良い音を競っているではありません。

APANIは、何を比較すべきかを再定義しています。スピーカーではありません。ブランドでもありません。価格でもありません。主張でもありません。音楽によって取り戻される、人間の体験の深さです。

だからこそAPANIは、従来のハイエンド・オーディオの言葉から離れて立つことができます。

最終的な証明は、スローガンではありません。仕様書でもありません。レビューの引用でもありません。最終的な証明は、システムが消え、音楽が再び存在として現れたときに、聴く人が何を感じるかです。







ラウドスピーカーを 超えて

機械ではありません。音のディスプレイでもありません。
音楽を存在へと連れ戻す、回帰のためのインストゥルメントです。

Music Transformerとは何か。ラウドスピーカーは音を再生します。APANI Music Transformerは存在を取り戻します。ラウドスピーカーは装置です。Music Transformerは機能です。

APANI Music Transformerは、録音された情報を人間的な音楽体験へと変換するために設計されています。それは単に部屋の中に音を鳴らすために生まれたものではありません。存在、空間、タイミング、ダイナミクス、身体性、そして感情を取り戻すために生まれたものです。

それは声に息づかいを取り戻します。リズムに身体を。空間にスケールを。沈黙に緊張を。ディテールに感情を。再生に存在を。

だからこそ、この名称には意味があります。従来のラウドスピーカーは、低音、高音、イメージング、

パワー、素材によって判断されるかもしれませんが。APANI Music Transformerは、それが聴く人に何を体験させるかによって判断されなければなりません。

歌い手は、より人間に近く感じられるか。楽器は、信じられる空間を占めているか。リズムは身体に届くか。録音の中の部屋は開くか。聴く人は分析をやめ、その中へ入り始めるか。Music Transformerは、称賛を求める対象ではありません。それは回帰のためのインストゥルメントです。音から存在へ。再生から体験へ。情報から感情へ。記憶から生きた現実へ。

それこそが、音楽を聴くことと、音楽を生きることの違いです。

再生では ありません。 存在です。

音楽が終わるとき、何かが残ります。
重みを持った沈黙。
音楽が存在となる場所で、APANIは姿を消します。

システムが消えるとき。
スピーカーが消えます。
体験だけが残ります。

APANIシステムの最高の到達点は、聴く人がシステムを称賛することではありません。

最高の到達点は、システムが消えることです。システムが消えるとき、部屋が開きます。声は人間になります。低音は重くなることなく身体的になります。音と音のあいだの沈黙は、演奏の一部になります。楽器は位置ではなく、出来事になります。空間は効果ではなく、空気感になります。

聴く人はもはや音楽の外側にいて、機器を判断しているわけではありません。聴く人は音楽的な出来事の内にいます。これが存在感の意味です。存在感とは音量ではありません。明るさでもありません。人工的な親密さでもありません。誇張されたスケールでもありません。存在感とは、再生された音楽がもはや再生とは感じられなくなる瞬間です。それは録音の背後にいる人間が戻ってくるときです。演奏者の周囲の空間が信じられるものになるときです。リズムのエネルギーが身体的になるときです。最後の一音のあとの沈黙が重みを持つときです。存在感はマーケティングの言葉によって作られるものではありません。それは体験されなければなりません。

だからこそAPANIは、お客様に信じることを求めません。APANIは比較することへ招きます。スピーカーではありません。その体験を。







感情に 仕える テクノロジー

精密さは目的ではありません。
それは感情の背後にある規律
です。テクノロジーは、音楽が守
らなければならないものに仕
えます。

技術的真実、人間的帰結

APANIIにおいて、すべての技術的判断は人間的な帰結へととならなければなりません。

APANIIにおいて、テクノロジーは決して装飾ではありません。それは規律です。

すべての技術的判断は、ひとつの問いに答えなければなりません。それは、どのような人間的な音楽体験を取り戻すのか、という問いです。

タイミングはリズムを取り戻します。位相のコヒーレンスは空間の真実を取り戻します。マイクロダイナミクスは息づかいと意図を取り戻します。低歪みは人間的なニュアンスを守ります。制御された低音は、重さに変わることなく身体的な存在感を取り戻します。ソース・インテグリティは、録音本来の真実を守ります。システム・キャリブレーションは、部屋、音楽、聴く人をひとつの体験へと導きます。

これがAPANIIにおけるエンジニアリングの語り方です。私たちは感心させるためにテクノロジーを説明するのではありません。その体験がなぜ可能になるのかを明らかにするために、テクノロジーを説明します。

キャビネットは単なる構造体ではありません。それは共振から沈黙を守ります。アンプは単なるパワーではありません。それはダイナミクスが崩れることから守ります。DSPは単なる処理ではありません。それはタイミング、位相、空間的秩序を守ります。ケーブルはアクセサリではありません。それは音楽が存在となる前の、見えない経路を守ります。

テクノロジーは最終的なメッセージではありません。テクノロジーは、感情的な真実を可能にする理由です。

これは、パートナー、メーカー、ディストリビューター、ディーラーが理解しなければならないことです。APANIIは決して冷たいエンジニアリング言語になってはなりません。しかし同時に、空虚な詩になってもなりません。

APANIIは規律を備えた感情です。証明を備えた詩です。ノイズのないラグジュアリーです。真実に仕えるテクノロジーです。

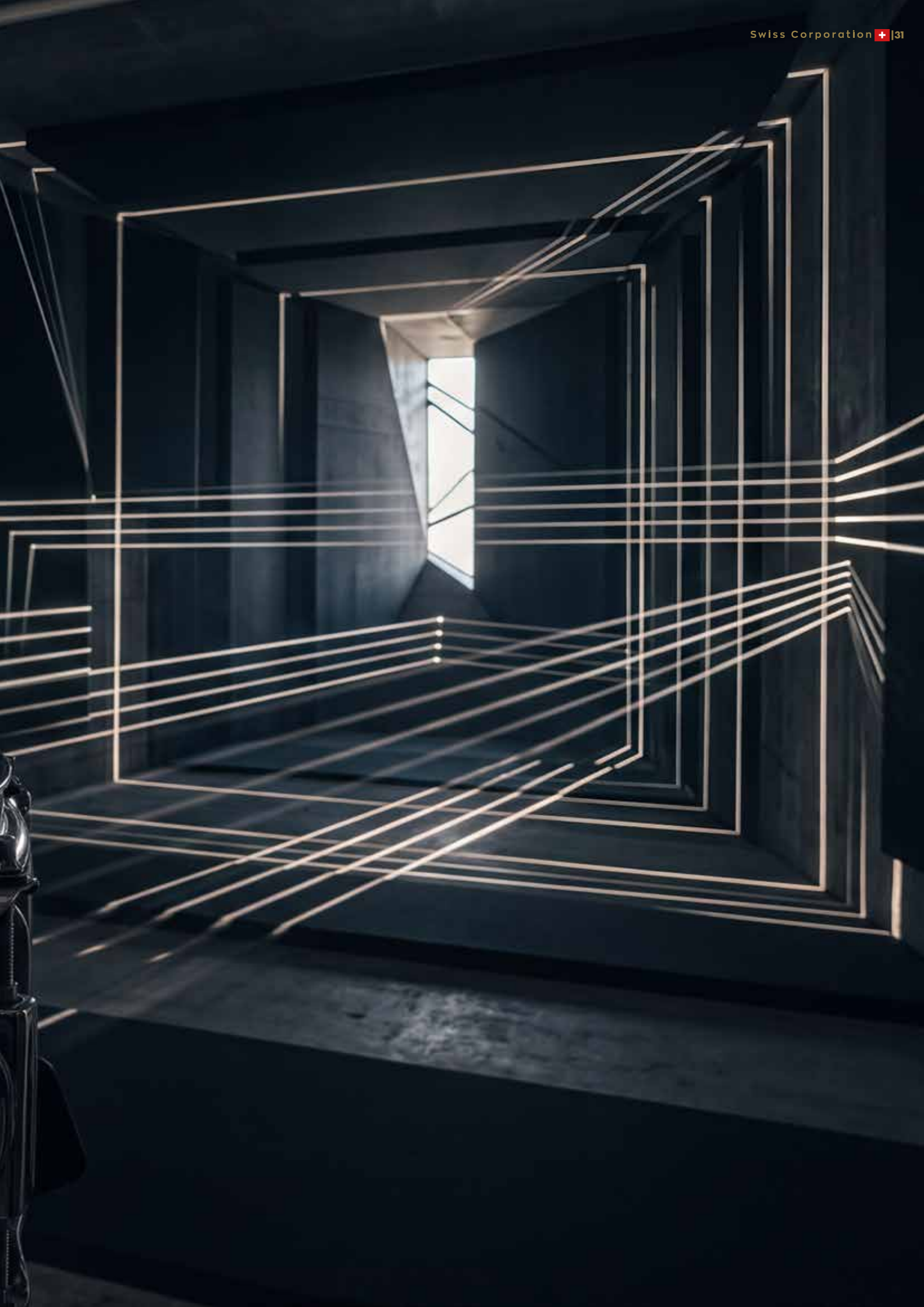
タイミングと位相

音楽とは、動きの中にある秩序です。時間、インパルス、空間は、ひとつのものとして届かなければなりません。そのとき初めて、音は現実となります。

音楽的現実のアーキテクチャ 時間が正しければ、音楽は呼吸します。位相がコヒーレントであれば、空間は信じられるものになります。音楽は時間の中に生きています。ひとつの音は単なる周波数ではありません。それは出来事です。始まり、育ち、呼吸し、減衰し、消えていきます。リズムは、時間が秩序づけられているから存在します。空間は、タイミングと位相の関係が、音がどこから来て、部屋の中をどのように動くのかを耳に伝えるから存在します。タイミングがぼやければ、リズムは力を失います。位相が不安定であれば、空間は不確かなものになります。トランジェントが柔らかくなれば、感情のアタックは弱まります。APANIIはタイミングと位相を、音楽的現実のアーキテクチャとして扱います。これは抽象的なエンジニアリング上の問題ではありません。それは録音を聴くことと、ミュージシャンが信じられる空間の中に

存在していると感じることの違いです。正しいタイミングはリズムに身体を与えます。コヒーレントな位相は空間に形を与えます。その二つが揃うことで、音楽は分離した音の対象として現れるのではなく、ひとつの出来事として呼吸することができます。聴く人にとって、それは努力の少なさと、より深い存在感を意味します。身体はより自然にリズムに従います。耳は音像を探すことをやめます。録音の中の部屋は安定します。演奏はより機械的でなく、より生きたものとして感じられます。だからこそAPANIIは、タイミングと位相を二次的な技術的詳細として扱いません。それらは音楽的現実の基盤です。







ダイナミクスと マイクロダイナミクス

最も小さな瞬間に、最も深い真実が宿ります。息づかい。弓の動き。
音の前の指先。APANIIは、失われやすいものを守ります。

最も小さなディテールこそ、しばしば最も人間的です。感情は
しばしば、最も小さな動きの中に宿ります。
優れたシステムは、力を再生するだけでは不十分です。
それは繊細さを守らなければなりません。

フレーズの前の息づかい。弦にかかる弓の圧力。ピアノの音
の減衰。声の中のためらい。衝撃の前の沈黙。緊張を生むド
ラマーのタッチのわずかな変化。歌い手がマイクから少し離
れる動き。これらは専門家のためのディテールではありません。
それらは音楽の中にある、人間の証拠です。

大きなダイナミクスはスケールと力を生みます。
マイクロダイナミクスは親密さ、意図、生命感を生みます。
それらがなければ、音楽はなお印象的に聴こえるかもしれ
ません。
しかし感情的にはより平坦になります。聴く人は演奏を聴い
ていても、その中にいる人間を失ってしまいます。

APANIIはマイクロダイナミクスを守ります。なぜなら感情は
しばしば、小さな動きの中に宿るからです。

技術的に再生された声と、人間的な存在との違いは、ひとつ
の息づかいであることがあります。
ひとつの音とひとつのフレーズの違いは、圧力のわずかな差
であることがあります。音と意味の違いは、ひとつの沈黙であ
ることがあります。

だからこそAPANIIは、スペクタクルとしての音量を追いま
せん。

力は制御されたままでなければなりません。繊細さは見え
るままでなければなりません。沈黙は生きていなければなら
ません。これらの要素が戻るとき、聴き慣れた音楽は新し
くなります。

APANIIが何かを加えるからではありません。

APANIIが、隠されていたものが届くことを許すからです。



身体的な 音楽の 存在感

低音はスペクタクルではありません。それは身体の中に宿る存在感です。制御されたエネルギー。音楽的な重み。

リズムが身体になるとき

低音は、部屋を驚かせるためのものではありません。

音楽に身体を与えるためのものです。

低音は、音楽を支配するべきではありません。

低音は、音楽に身体を与えるべきです。

通常のオーディオの言葉では、低音はしばしば深い、力強い、伸びている、印象的であると表現されます。APANIIは違う言葉で語ります。

問うべきは、システムがどれだけ多くの低音を生み出すかではありません。低域のエネルギーが、タイミング、制御、質感、そして意図を伴って届くかどうかです。

太鼓はノイズになってはなりません。目的をもって空気を動かすべきです。ベースラインは厚みに変わってはなりません。リズムに背骨を与えるべきです。

大きなオーケストラの瞬間は、圧力へと崩れてはなりません。スケール、秩序、そして感情的な力を運ぶべきです。真の身体的存在感は重さではありません。それは制御されたエネルギーです。

低音が正しいとき、身体は心が説明する前に理解します。リズムは身体的になります。部屋は生命感を得ます。聴く人は明瞭さを失うことなく、音楽的な力を感じます。

低音が間違っているとき、音楽は薄くなるか、過剰になります。バランスを失います。感情を支えるのではなく、そこから注意をそらしてしまいます。

APANIIは、低音を身体的な音楽の存在感として取り戻します。より多くの低音ではありません。より多くの真実です。





REMO
FIBERSKYN
MADE IN SWITZERLAND

Remo



空間の真実

すべての録音は、その内側にひとつの部屋を宿しています。
空気、距離、反射、沈黙。APANIIは、その空間を現れさせます。



録音の中の部屋

空間は効果ではありません。
それは音楽的な出来事の空気感です。
すべての録音は、ひとつの空間を宿しています。

スタジオ。教会。コンサートホール。クラブ。
ステージ。演奏者の周囲にある空気の気配。空間は
ハイファイの技巧ではありません。それは音楽的な
出来事の一部です。

空間が平坦になると、音楽は場所を失います。楽器
はなお聴こえるかもしれませんが、それらはも
はや環境に属していません。声は明瞭かもしれま
せん。しかし、その周囲の空気は消えてしまいます。録
音は空気感を失った情報になります。

空間が戻るとき、聴く人は音楽がどこで起こったのか
を理解します。

APANIIが取り戻すのは、左と右だけではありません。
距離、空気、奥行き、沈黙、そして空気感を取り戻しま

す。これが重要なのは、人間は音を孤立して体験す
るのではないからです。私たちは空間の中で音を体
験します。

声、楽器、反射、沈黙の関係が、その出来事が本物に
感じられるかどうかを伝えます。

空間の真実は、聴く人が頭の中で音像を組み立てる
ことをやめさせます。録音された部屋が、自ら開いて
いきます。

歌い手は、より深い存在感をもって立ち現れます。
楽器は、それぞれの空間の中で呼吸します。
演奏者たちのあいだの沈黙は、演奏の一部になり
ます。

だからこそAPANIIは、空間を感情のアーキテクチャ
として扱います。空間は、音楽がどこにあるかを示す
だけではありません。音楽が存在していることを、聴
く人に伝えるのです。

すべての録音は、かつて音楽が起こった空間を宿しています。ホールの高さ、楽器同士の距離、声の周囲の空気、一音のあとの沈黙。APANIは人工的な空間を作り出すではありません。録音の中にすでに含まれている空気感を取り戻します。部屋が戻るとき、音楽はもはや音だけとして現れるではありません。奥行き、距離、存在感をもつ出来事となります。





ソース・インテグリティ

真実は最初の一音の前に始まります。ソースにおいて。信号経路の中で。触れられることなく守られなければならない、すべてのものの中で。

真実は最初の一音の前に始まります。
お客様が感情をもたらします。

APANIIは再生の真実を制御します。
あなたの音楽が大切なのは、それがあなたの記憶を運んでいるからです。しかし、すべての楽曲のバージョンが、その真実を明らかにするわけではありません。

圧縮されたファイル、質の低いリマスター、低品質なストリーミング、Bluetooth接続、弱いスマートフォン出力、あるいは制御されていない再生チェーンは、最初の一音がシステムに届く前に、音楽の中にある生命を隠してしまうことがあります。

だからこそAPANIIは、ひとつの本質的なルールに従います。お客様が感情をもたらします。APANIIは再生の真実を制御します。このルールは体験を守るためのものです。お客様自身の音楽は、意味を宿しているからこそ感情的な力を持っています。しかし録音が不十分であれば、お客様が聴くのはAPANIIシステムの能力ではなく、ソースの限界だけかもしれません。

それはMusic Transformerの失敗ではありません。ソース・インテグリティの失敗です。
そのためAPANIIは、ソース品質をブランド体験の一部として扱います。お客様に向けた約束はシンプルです。愛する音楽をお持ちください。私たちは、その中にずっと存在していたものを明らかにします。これは補正ではありません。敬意です。

大切な音楽には、丁寧な準備がふさわしいのです。APANIIのデモンストレーションでは、お客様の感情的なリファレンスを最初に再生することがあります。
その後APANIIは、入手可能な最良のバージョン、より優れたマスター、あるいは感情的に響き合うリファレンス録音を準備します。目的は、お客様の記憶を置き換えることでは決してありません。目的は、音楽をその最大限の可能性において明らかにすることです。なぜなら、記憶が音楽に意味を与えるからです。

APANIIは、その再生の真実を守ります。





APANI PUREFIELD™

シグナルケーブル

アクセサリではありません。信号を静かに守る存在です。
音を変えるためではなく、真実を守るために設計されています。





信号を守る。体験を取り戻す。

音楽を変えるケーブルではありません。音楽を守るケーブルです。音楽が存在となる前に、それは信号です。声が部屋に入る前に、リズムが身体を動かす前に、空間が開く前に、感情が身体的になる前に、信号は電氣的、磁氣的な影響の世界を通過しなければなりません。

APANI PureFieldは、この見えない旅路のために生まれました。音楽を変えるためではありません。音楽を守るためです。APANIの世界において、ケーブルはアクセサリではありません。それはSignal Integrity Instrumentです。ソース、プロセッサー、アンプ、そしてMusic Transformerのあいだで、音楽的真実を最初を守る存在のひとつです。信号がシステムに届く前に乱されれば、Music Transformerが受け取る真実は少なくなります。沈黙も、マイクロダイナミクスの情報も、空間的コヒーレンスも、感情的な緊張も、存在感も少なくなります。

APANI PureFieldは、層状の保護アーキテクチャを中心に設計されています。その核では、クロスツイストされた信号ジオメトリーが秩序を保ち、干渉の排除を支えます。その周囲では、専用の銅シールドが電界および高周波干渉から守ります。さらにその外側では、APANI Magnetic Field Integrity Shieldが信号経路の周囲にある磁氣的影響を低減するよう設計されています。

三つの保護。ひとつの意図。音楽をより完全に届けさせること。最も小さな音楽的ディテールこそ、しばしば最も人間的です。言葉の前の息づかい、衝撃の前の沈黙、楽器の周囲の空気、フレーズの中にある感情的な緊張。これらのディテールが覆い隠されると、音楽は小さくなります。それらが守られると、音楽はより深い存在感を伴って戻ってきます。

あなたが手にするのは、ケーブルではありません。体験を守るということです。

磁場の インテグリティ

見えない力は痕跡を残します。APANIはスペクタクルではなく、制御で応えます。信号のための、より静かな経路。

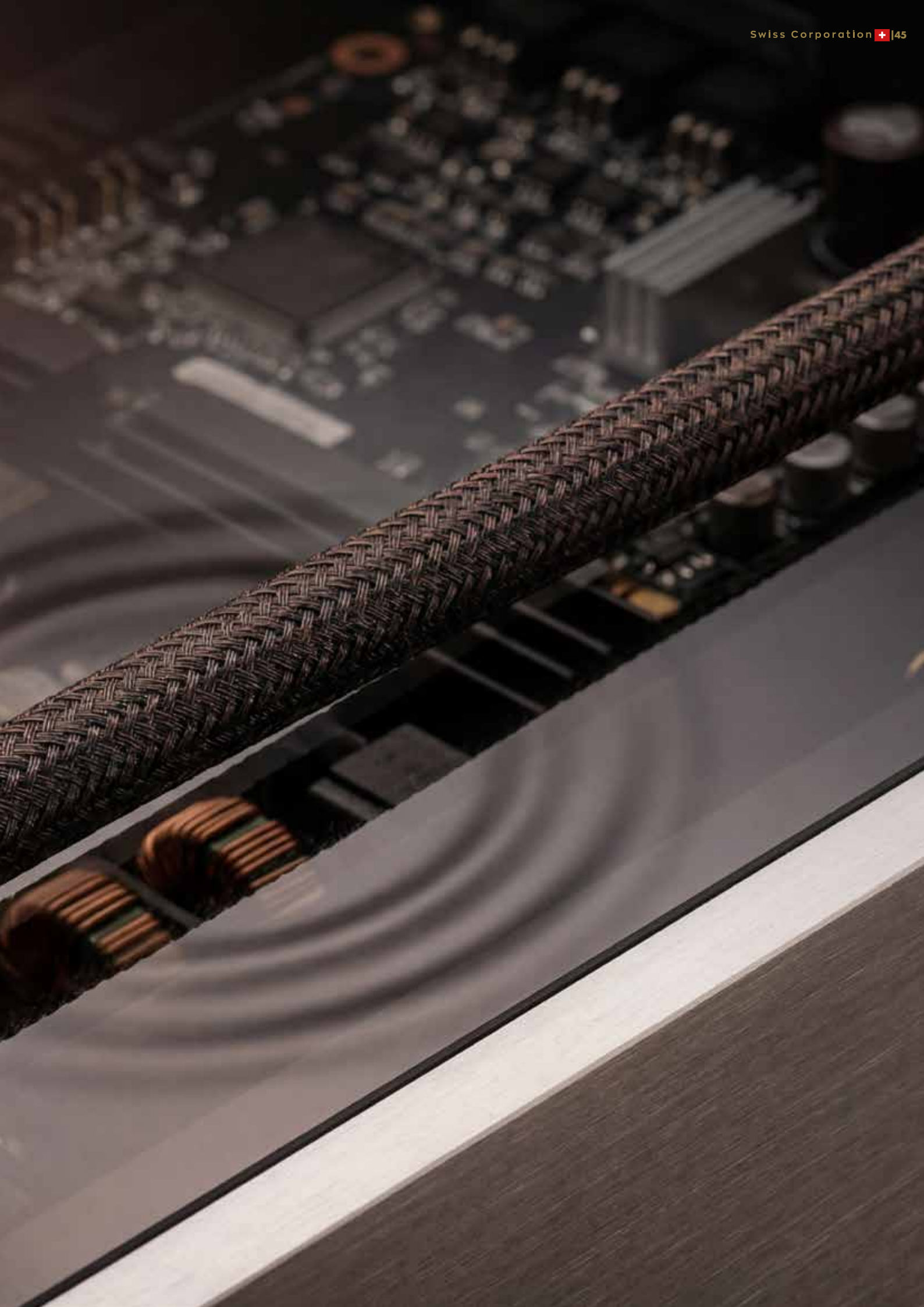
信号と感情のあいだにある見えない経路。感情はすでに音楽の中にあります。ケーブルは、その感情が届くまでの経路を守ります。APANI Magnetic Field Integrityは、ひとつのシンプルな考えに基づいています。音楽信号は、明らかなノイズからだけでなく、信号経路を取り巻く見えない条件からも守られなければなりません。現実のオーディオシステムは、理想的な実験室空間の中に存在しているわけではありません。電源、トランス、ルーター、ストリーマー、照明システム、アンプ、電源ケーブル、機器ラックの近くに存在しています。この環境の中で、微小なオーディオ信号は繊細です。従来の導電性シールドは、重要な電氣的干渉や高周波干渉から保護することができます。APANI PureFieldは、そこにもうひとつの層を加えます。信号経路の周囲にある磁氣的影響を低減するために設計された、磁気シールドのコンセプトです。これは規律をもって伝えなければなりません。

それは魔法ではありません。色づけでもありません。チューニングでもありません。それは保護です。感情はすでに音楽の中にあります。ケーブルの役割は、その感情が届くまでの経路を守ることです。

聴く人にとって、その結果はケーブルそのものが存在を主張することではありません。結果としてあるべきものは、より静かな経路、より穏やかな背景、より安定した空間、より自然な声、より保たれたマイクロダイナミクスの動き、そして音楽が損なわれずに届いているという、より強い感覚です。ケーブルは消えます。音楽が届きます。

それが、APANIにおけるMagnetic Field Integrityの意味です。





APANI 体験の部屋

ショールームではありません。聴くために整えられた場所です。光、ソース、部屋、沈黙が、ひとつの体験のために揃えられています。

音楽が証拠となる場所。プレッシャーはありません。大きな主張もありません。ただ音楽、沈黙、比較、そしてあなたの内側で起こることだけ。APANI Experience Roomはショールームではありません。それは聴くために整えられた空間です。光は穏やかです。部屋は制御されています。ソースは検証されています。音楽は敬意をもって選ばれます。システムはキャリブレーションされています。最初の瞬間は、沈黙に属します。

プレッシャーはありません。大きな広告もありません。通常のデモンストレーションでもありません。印象づけようと急ぐこともありません。ただ音楽、準備、比較、そして聴く人の内側で起こることだけがあります。

APANI Experience Roomが存在するのは、APANIがお客様に主張を信じることを求めないからです。APANIはお客様を証明の中へ招きます。ホストは仕様から始めません。ホストは人間から始めます。

今日の主題はラウドスピーカーではありません。今日の主題は、あなたと音楽との関係です。この一文が、その出会いを変えます。お客様はもはや距離を置いてハードウェアを評価するではありません。お客様は自分自身の音楽的記憶の中へ入っていきます。あなたの人生で何かを変えた音楽は何ですか。今でも身体的な反応を呼び起こす曲は何ですか。あなたにとって記憶を宿している録音は何ですか。そこから体験が始まります。この部屋は、プレッシャーによって販売するために設計されているではありません。真実を、聴こえるもの、身体的なもの、そして個人的なものにするために設計されています。音楽が証拠となるとき、説得は不要になります。









DARE TO COMPARE

真の比較は、聴く人の内側で起こります。
自分自身の音楽とともに。記憶とともに。真実
とともに。Dare to Compareとは、体験を信じる
ということです。

スピーカーではありません。あなたの体験で
す。Dare to Compareはブランドの競争ではあり
ません。それは人間的な証明システムです。

Dare to Compareは通常の製品チャレンジでは
ありません。技術的な対決でもありません。ブランド
の競争ではありません。より大きな主張を競うゲー
ムでもありません。

その本当の意味は、Dare to Compare — スピー
カーではなく、あなたの体験を比較する、というこ
です。あなたにとって大切な音楽をお持ちください。
初恋の歌。心を打ち砕いた歌。力を与えてくれた歌。
反抗心を呼び覚ました歌。今でも鳥肌を立たせる
歌。すでに知っていると感じている音楽。

そして聴いてください。
まず、あなたが知っている音で。
次に、APANIで。

音だけを比較しないでください。呼吸を比較してくだ
さい。脈拍を比較してください。肌を比較してくださ
い。戻ってくる記憶を比較してください。最後の一音
のあとの沈黙を比較してください。これは異なる種
類の比較です。なぜなら、お客様自身が判断者にな
るからです。広告ではありません。ディーラーでもあ
りません。仕様書でもありません。お客様自身の反
応が証拠になります。だからこそ、このキャンペーン
はこれほど強いのです。個人的な反応に反論するこ
とはできません。鳥肌を否定することはできません。
音楽が終わったあとの沈黙を、説明で消し去るこ
とはできません。

最も強い感情が勝ちます。







黄金のリスニング・シーケンス

記憶。ソース。リファレンス。回帰。APANIは、あなたがすでに知っている音楽のさらに深い場所へ導きます。

曲は同じです。あなたの気づきは同じではありません。
曲は同じです。しかし、あなたの気づきは同じではありません。

APANIのリスニング体験は、規律をもって導かれなければなりません。

まず、あなたの記憶に耳を傾けます。
次に、明らかにされた音楽に耳を傾けます。
次に、APANIに耳を傾けます。
そして最後に、もう一度あなたの音楽へ戻ります。
曲は同じです。
しかし、あなたの気づきは同じではありません。

このシーケンスは、感情と真実の両方を守ります。

あなた自身のバージョンは、個人的な記憶に敬意を払います。より優れたマスターやリファレンス・バージョンは、ソース品質を明らかにします。APANIのリファレンス録音は、システムが持つ感情的、空間的な能力を最大限に開きます。あなたの音楽へ戻ること、気づきの瞬間が生まれます。

あなたは、隠されていたものを発見します。
議論によってではありません。体験によって。

音楽が終わったあと、ディーラーはこう尋ねてはなりません。
気に入りましたか。
低音は良くなりましたか。
ステージは広くなりましたか。

そのような質問は、体験を通常のハイファイの言葉へと小さくしてしまいます。

APANIの問いは、何が変わりましたか、です。

そしてディーラーは、話すのをやめなければなりません。
その気づきを、あなた自身のものにしてください。
自己発見は、説得よりも強いのです。



APANIの 生き方

音楽は背景ではありません。それは選ばれた時間です。
ひとつの部屋、ひとつの夜、分かち合われる沈黙。

音楽により近く生きる。

APANIのある暮らしは、より大きな音ではありません。より深い体験です。

APANIはリスニングセッションのためだけのものではありません。

APANIは、音楽が住まいの空気を変える夜のためにあります。

最後の一音のあとの沈黙のために。

知っていると思っていた録音を再発見するために。大切な人と音楽を分かち合うために。音を通して自分自身へ戻るために。

APANIのある暮らしは、より大きな音ではありません。より深い体験です。

それは、音楽を背景のノイズとして扱うのではなく、生きることの意味ある一部として扱う暮らしです。注意が戻る部屋をつくる方法です。気晴らしよりも質を、ノイズよりも沈黙を、消費よりも存在を選ぶ方法です。

APANIのある暮らしがもたらす価値は、人間的な価値です。より深いリスニング。より強い感情的なつながり。住まいで過ごす、より意味ある時間。共有されるリスニングの儀式。音と沈黙へのより深い感受性。音楽、空間、記憶とのより近い関係。

APANIはお客様に、単にシステムを所有することだけを求めません。APANIは、音楽により近く生きることへ招きます。これこそAPANIが築くべきコミュニティです。音楽が部屋の状態を、身体の状態を、そして心の状態を変えることを理解する人々。

単にこう問うだけではない人々。

これは技術的に印象的か。

ではなく、こう問う人々。

私は心を動かされたか。

その瞬間は、より現実になったか。

失われたと思っていた何かが戻ってきたか。

それがAPANIの生き方です。





APANI 日本へ

真の権威に、大きな音量は必要ありません。

APANIは抑制とともに、
敬意と精密さをもって入っていきます。
深く聴くための招待です。





プライベートな招待。
より深い証明。
私たちの言葉を信じないでください。
ご自身の体験を信じてください。

日本において、APANIは技術的優位性を声高に主張する西洋ブランドとして参入すべきではありません。APANIは、抑制、儀式性、そして権威をもって入るべきです。

それは、また一つの輸入ハイエンド・ラウドスピーカーとしてではありません。また一つのラグジュアリー・オブジェとしてでもありません。また一つの「私たちはより良い音を奏でる」と語る製品としてでもありません。

APANIは、音楽的真実と人間的体験を司るヨーロッパの権威として入るべきです。
正しいメッセージはこうです。私たちの言葉を信じないでください。ご自身の体験を信じてください。

これは、傲慢さのない権威です。
騒がしさのない証明。圧力のない自信。APANI Japanの体験は、注意深く捧げられる私的な儀式のように感じられるべきです。

整えられた部屋。
慎重に選ばれたゲスト。意味をもつ一曲の音楽。
検証されたソース。導かれた静寂。
個人的な気づき。

お客様はこう感じなければなりません。これは私のために準備されたものだ。私の音楽には意味がある。私の記憶は尊重されている。この体験は完全に整えられている。APANIは声高に語らずとも、権威を備えている。

プライベートな招待は、大量露出よりも強い。準備は敬意を生みます。敬意はステータスを生みます。ステータスは欲望を生みます。

だからこそAPANIは、宣伝される前に発見されるべきなのです。

パートナーおよび ディーラー基準

APANIのパートナーは、ただ販売するだけではありません。導く存在です。部屋を整え、ソースを整え、沈黙を整えます。

体験を守る。

ハードウェアを実演してはなりません。

変容を導くのです。APANIのパートナーは、製品を流通させるだけではありません。

彼らは体験を守ります。

メーカーは性能を守ります。

ディストリビューターは基準を守ります。

ディーラーはお客様の旅路を守ります。

部屋は沈黙を守ります。

ソースは真実を守ります。

Music Transformerは存在を取り戻します。

これがAPANIの責任です。

製品は販売することができます。

体験は守られなければなりません。

APANIのディーラーは販売員ではありません。ディーラーはガイドであり、キュレーターであり、聴く人であり、体験を守る存在です。ディーラーは決してテクノロジーから始めてはなりません。お客様の音楽を批判してはなりません。録音品質が不明なものに依存してはなりません。本格的なデモンストレーションでBluetoothや制御されていない再生を使ってはなりません。過剰に売り込んではなりません。感情的な沈黙を遮ってはなりません。

ディーラーは常に、お客様の感情的なリファレンスを用い、それを高品質なAPANIリファレンスで支え、お客様自身に違いを発見させ、価格ではなく体験からクロージングしなければなりません。

最も強いクロージングの問いは、ご購入されますか、ではありません。

APANIのクロージングの問いは、この体験とともに暮らしたいと思いませんか、です。これこそ、APANIが通常の販売になることなく売る方法です。





オーナーシップ

APANIシステムは、単なるオブジェクトのままではありません。住まいの一部になります。儀式の一部になります。人生の一部になります。





私はこの体験とともに暮らしたいのか。
お客様はオブジェクトを買うわけではありません。
音楽との異なる関係を選ぶのです。

APANIの体験のあと、問いは変わります。もはや、
それはシステムの音がより良かったか、ではありません。
それは、この体験とともに暮らしたいのか、になります。この存在感を自分の住まいに迎えたいのか。
音楽のあとのこの沈黙を求めているのか。

聴き慣れた録音が、もう一度新しくなることを望むのか。
大切な人たちとこれを分かち合いたいのか。もう一度、音楽を中心に夜をつくりたいのか。

これがAPANIのオーナーシップの瞬間です。

お客様は、またひとつのオブジェクトを買うわけではありません。音楽との異なる関係を選ぶのです。

製品の決断は、暮らしの決断になります。
誇張された意味ではありません。現実的な意味で。
APANIは住まいの一部になります。なぜなら音楽が、もう一度人生の一部になるからです。それは個人的なリスニング、共有されるリスニング、感情的な夜、文化的な洗練、そして自分自身への回帰のためのシステムになります。

Music Transformerは、音楽が大切にされる場所に属します。PureFieldケーブルは、その体験へ向かう経路が守られなければならないからこそ、そこに属します。

Experience Roomは、お客様が決断する前に証明を感じなければならないからこそ、そこに属します。APANIのある暮らしは、お客様が理解した瞬間に始まります。私はより良い音だけを求めているのではない。この体験を自分の人生の一部にしたいのだ、と。

クロージング・ マニフェスト

音楽は、それが始まった場所へ戻ります。
人間のもとへ。
再生としてではなく。存在として。

音楽の回帰。純粹であるとは、本質的なものが何ひとつ失われないことです。APANiは拒否から始まります。

音楽を音へと還元することへの拒否。
テクノロジーをスペクタクルへと還元することへの拒否。
リスニングを消費へと還元することへの拒否。
ハイエンド・オーディオを仕様へと還元することへの拒否。音楽は、そのためにはあまりにも重要です。

音楽は人類の歴史を通じて、愛、悲しみ、儀式、反抗、アイデンティティ、そして沈黙を運んできました。

音楽は身体を動かしてきました。記憶を形づくってきました。
部屋を変えてきました。人を変えてきました。APANiは、この力を取り戻すために存在します。

再生としてではなく。存在として。

機器としてではなく。体験として。

ラウドスピーカーとしてではなく。Music Transformerとして。

APANiとは、As Pure As Nature Intendedを意味します。

純粹とは、単純であることではありません。純粹とは、本質的なものが何ひとつ失われないことです。声に戻ります。

部屋が開きます。リズムが身体になります。沈黙が意味を持ちます。記憶が戻ります。そして聴く人は理解します。真の比較は、決して製品同士のあいだにあったのではない。それは体験同士のあいだにあったのだと。音楽は聴くものではありません。生きるものです。

Dare to Compare — スピーカーではありません。
あなたの体験です。
最も強い感情が勝ちます。







シグネチャー・ランゲージ

音楽は、それが始まった場所へ戻ります。人間のもとへ。再生としてではなく。存在として。

APANIの世界のためのコアライン

音楽は聴くものではありません。生きるものです。
再生ではなく。存在です。

Dare to Compare — スピーカーではありません。
あなたの体験です。
最も強い感情が勝ちます。

あなたが愛する音楽をお持ちください。
私たちは、その中にずっと存在していたものを明らかに
します。お客様が感情をもたらします。
APANIは再生の真実を制御します。
スピーカーは消えます。体験だけが残ります。

あなたの身体は、心が同意する前に知っています。
APANIは音楽を人間的な真実へと戻します。
感じることでできる証明。

音楽が存在となる前に、
信号は純粋なままでなければなりません。
信号を守る。体験を取り戻す。
音楽を変えるケーブルではありません。
音楽を守るケーブルです。ひとつの信号。
三つの保護。ひとつの目的。それは存在感。
お客様が買うのはケーブルではありません。
お客様は体験を守るのです。

私たちの言葉を信じないでください。
あなた自身の体験を信じてください。
ハードウェアを実演してはなりません。
変容を導くのです。
曲は同じです。
あなたの気づきは同じではありません。

APANIのある暮らしは、より大きな音ではありません。
より深い体験です。

APANI Audiophile
— As Pure As Nature Intended.



PROLOG

APANIIはどのように生まれたのか

APANIIは、ひとつのアイデアとして始まったのではありません。それは、静かな違和感として始まりました。それは大きな危機の中に現れたのではなく、完璧に見える瞬間の中に現れました。すべての料理が完璧に作られているのに、記憶には何も残らない食事。技術的には見事に聴こえるのに、身体には届かない音楽。言葉に満ちているのに、親密さを生まない会話。客観的には何も間違っていない。それでもなお、空虚さが残っていました。

世界が速くなるほど、この感覚はより明確になっていきました。選択は自由と取り違えられました。速度は進歩と。効率品質と。システムはより賢く、より精密に、より最適化されていきました。しかし明晰さの代わりに、多くの人は疲労を感じました。安心の代わりに依存を。つながりの代わりに、絶え間ない根底のノイズを。

APANIIは、この矛盾を忍耐強く観察することから生まれました。理論の中ではなく、概念の中でもなく、生きられた現実の中で。素材が設計図以上のことを知っている工房で。たった一音が千の説明よりも深い真実を運ぶリスニングルームで。友人たちとの食卓で、沈黙が突然、会話よりも価値を持つ瞬間に。

ひとつのシンプルで、居心地の悪い問いが、しだいに迫ってきました。もし進歩が失敗したのではなく、知覚する力が失われてしまったのだとしたら。

その瞬間から、APANIIはもはや発明されるべきものではありませんでした。それは明らかにされることを望むものになりました。注意への回帰。体験を説明で置き換えることをやめる、意識的な決断。

APANIIは世界を変えようとしたことはありません。世界との出会い方を変えようとしたのです。



CHAPTER I

意図なき知性について

自然は計画しません。それでもなお、正確です。木はどこを強くすべきかを決めるのではありません。風に応答します。川は最も速い道を探すのではありません。抵抗の最も少ない道をたどります。何年も、何十年も、何世紀もかけて、「最適化」されたのではなく、証明された形が現れます。

この知性に作者は必要ありません。認められることも求めません。自らを説明することもあります。そしてまさにそれゆえに、これほど安定しているのです。

日常の中で、私たちは思っている以上に頻繁にそれと出会っています。人が本能的にゆっくり話すようになる部屋の中で。機能している限り気づかず、なくなった瞬間にすぐ恋しくなるものの中で。身体を形づくるのではなく、身体に寄り添う衣服の中で。

APANIは、この種の知性を真剣に受け止めます。ロマンティックな考えとしてではなく、基準として。それは「何が目立つのか」とは問いません。「何が時間を超えて持続するのか」と問います。

APANIの製品、APANIの判断、APANIの関係性は、この静かな論理に自らを合わせます。長い時間の中で真実でないものは、どれほど説得力をもって語ることができたとしても、取り除かれます。

CHAPTER II

知覚、真実、そして認識への道について

人間は真実を認識できないのではありません。ただ、自分自身の知覚を信じないことを学んでしまっただけです。

幼い頃から、体験には説明が与えられます。聴こえるものは分類されます。味わうものは評価されます。感じるものは相対化されます。一步步、自分自身の感覚は、誰か別の解釈に置き換えられていきます。

それでも身体は、心がたどり着くずっと前に知っています。ひとつの音はあなたを和らげることも、緊張させることもあります。ひとつの部屋は開放感を生むことも、圧迫感を生むこともあります。ひとりの人は、理由が言葉になるずっと前に、信頼や不安を呼び起こすことがあります。

APANIの道は、その最初の衝動のために、もう一度余白をつくる場所から始まります。体験をすぐに判断するのではなく、立ち止まる場所から。刺激と反応のあいだに、沈黙の一瞬を許すことを学ぶ場所から。

日常の中で、それはとても具体的になります。空虚に感じるから、会話を早めに切り上げる。理由はわからないのに、その場所に長くとどまる。「合理的」に見えるものではなく、自分に合っていると感じるものを選ぶ。そして結果として、それが正しかったとわかる。

洞察は出来事ではありません。それはプロセスです。そして知覚が信頼できるものになるほど、真実は大きな声を必要としなくなります。







CHAPTER III

友情、コミュニティ、そしてAPANI Circleについて

最も強い友情は、同じように考える人々のあいだではなく、似たように知覚する人々のあいだに生まれることがよくあります。彼らは急いで答えようとせずに聴きます。間を許します。何かを証明する必要がありません。

APANI Circleはクラブではなく、組織でもありません。そこに「加入」することはできません。それは、人々がゆっくりになることを望む場所に現れます。誰も時計を見ない食卓で。競争に駆り立てられない共同作業の中で。自然に広がることを許された会話の中で。

そのような空間では、パフォーマンスは価値を失います。ステータスは二次的なものになります。存在感が手に触れられるものになります。こうしたコミュニティは、ルールやシンボルによって認識されるものではありません。空気感によって認識されます。時間が広がります。声はやわらぎます。違いは残ります。しかし分断することはありません。APANIは、こうしたコミュニティを作り出すものではありません。それらを見だし、言葉を与えるのです。

CHAPTER IV

認識から生き方へ

知覚が信頼できるものになると、人生は自ら整い始めます。かつて複雑に感じられた判断は、シンプルになります。過剰なものは重く感じられます。速度は落ち着かなさを生みます。削ぎ落とすことは、解放のように感じられます。

APANI Way of Lifeは、たどり着く目的地ではありません。それは、内側に定着していく姿勢です。持つものは少なくなります。しかし、より深い意図をもって所有するようになります。より集中して働くようになります。それは規律からではなく、気を散らすものが魅力を失っていくからです。

人間関係も変わります。会話はより誠実になります。沈黙はもはや空虚としてではなく、質として感じられます。この生き方は欠乏ではありません。それは主権のかたちです。絶え間ない自己修正を、内なる整合へと置き換えるものです。





CHAPTER V

APANIの 十の法則

これらの法則は、推奨事項ではありません。それは閾値です。

それらは製品だけでなく、判断、協働、関係性にも適用されます。それぞれの法則は、何かが歪みなく存在できる条件を示しています。

私たちは人生の中で、それらに何度も出会います。取り除くことが明晰さを生むとき。忍耐が安定を生むとき。境界への敬意が、傷つけることを防ぐとき。

これらの法則は説明するものではありません。選び分けるものです。





CHAPTER VI

物質、時間、そして敬意について

物質は受け身ではありません。それは記憶します。木は張力を宿します。布は使われることで変化します。金属は力に応答します。介入のあと、長い時間が経ってもなお。その信号を無視する者は、亀裂を生みます。

それを読み取る者は、耐久性を生みます。

時間はコスト要因ではありません。それは秩序を生む原理です。成熟することを許されたプロセスは安定します。加速されたプロセスは、脆さを残します。

人生において、それはゆっくり育つ関係や、反復によって深みを得る仕事の中に現れます。時間を与えられたものは定着します。強いられたものは抵抗します。

この意味において、敬意とは道徳ではありません。それは機能する知性です。

CHAPTER VII

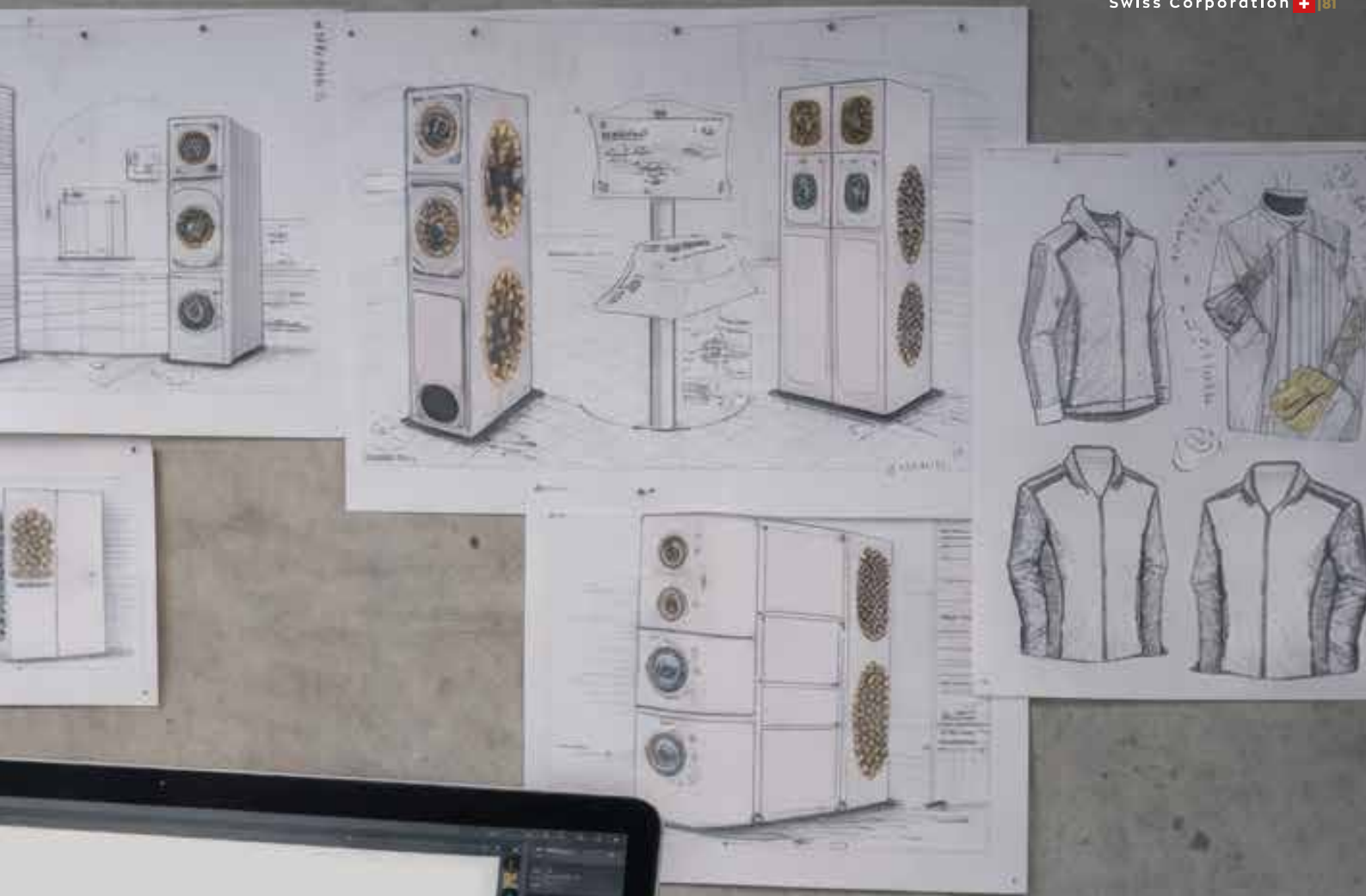
洞察のための インストゥルメントとしての製品

APANIの製品は、印象づけるためのものではありません。真実であるためのものです。何も加えず、ただ明らかにするラウドスピーカー。

身体を形づくるのではなく、身体に寄り添う衣服。演出することなく、滋養を与える食。

これらの製品は、鏡のように働きます。時間とともに、使う人のものの見方を変えていきます。気を散らすものを与えないからこそ、識別する力を研ぎ澄ませます。

その結果は、短い興奮ではなく、信頼です。製品は日常の中で、静かな伴侶となります。





CHAPTER VIII

なぜAPANIはマスになり得ないのか

深さは、意のままに増殖させることはできません。大量生産は、単純化、反復、制御を求めます。これらの仕組みはニュアンスを消し去り、注意を均一性へと置き換えます。

APANIは、制限を保護として受け入れます。小さなシリーズは責任を可能にします。直接的な関係は一貫性を可能にします。意識的な「ノー」が、インテグリティを守ります。

残るのは体験です。薄められることのない体験です。

EPILOG

説明のない人生について

ある時点で、説明は不要になります。人生は、正当化しなくても正しいものとして感じられ始めます。決断は静かに訪れます。自己確信は、演出なしに現れます。

APANIIは、この生き方が始まる場所で終わります。本物であるものは、説明される必要がありません。それは生きられることを望んでいます。





SWISS INTELLECTUAL PROPERTIES & LICENSING AG

スイスのイノベーションを守る。
コーポレート・アイデンティティを保護する。
無形資産から測定可能な価値を創出する。

Swiss Intellectual Properties & Licensing AGは、2011年以来、知的財産権管理の分野で活動しているスイス企業です。創業当初から、私たちの使命は明確でした。アイデアの経済的価値を保護し、高めることです。私たちは一貫して、創意とイノベーションの経済的価値化に注力し、商標、特許、デザインといった無形の資産を信頼できる安全な「金庫」として守り、企業のアイデア、発明、アイデンティティが、偽造、不正使用、無許可の模倣から法的に保護されるよう取り組んできました。

今日の市場において、企業の真の強さは、触れることはできなくても瞬時に認識される資産によって築かれることが少なくありません。名称、ロゴ、製品デザイン、特許技術、評判と信頼を宿す独自の標識。これらの要素は単なる象徴ではありません。それらは戦略的資源です。私たちの役割は、この知的資本が保護されるだけでなく、持続的で具体的なリターンを生み出せるよう、構造化され、管理され、位置づけられることを確実にすることです。

そのために私たちは、権利ポートフォリオの集中管理に基づくモデルを提供しています。これにより、グループに属する事業会社、そしてより広く私たちのパートナーは、自らの中核事業、運営、成長に完全に集中することができます。彼らが市場で革新し競争する一方で、Swiss Intellectual Properties & Licensing AGは、長期的な差別化の背後にある複雑な業務、すなわち権利ポートフォリオの管理、維持、防衛を担い、企業の独自性を示す標識の価値が真に実を結ぶよう支えます。

この集中管理のアプローチは、明確さと強さをもたらします。市場を横断する一貫性を支え、権利の所有と管理における分散を減らし、保護をより効果的にし、意思決定をより迅速にする堅牢な枠組みをつくります。何より重要なのは、知的財産を管理可能な資産クラスへと変えることです。それは評価され、強化され、活用され、事業戦略を支えるために精密に用いられるものとなります。

私たちの仕事の中心には、パートナーへの強いコミットメントがあります。私たちはイノベーションを保護するだけではなく、それがさらに遠くへ届くことを可能にします。ライセンス契約を通じて技術と専門知識の移転を促進することで、革新的なソリューションの普及と、取引パートナーの競争力強化に貢献しています。ライセンスとは単なる契約ではありません。それは創造者と市場を、ノウハウと商業化を、イノベーションと拡大を結ぶ戦略的な橋です。私たちの仕事は、技術と専門知識が安全性、透明性、相互利益をもって循環できる構造化された契約を通じて、組織が価値を解き放つことを支えます。

このようにして私たちは、創造性と創意を堅実で収益性のある金融資産へと変えることを支援します。市場で認識され、法的枠組みの中で守ることができ、産業や地域を越えて拡張できる価値を、パートナーが築くことを支えます。保護から収益化へ、統合から戦略的ライセンスへ。私たちは、無形資産が成長を生み出す具体的な推進力となることを確実にします。

Swiss Institute for Quality Testing (SIQT) から評価をいただいたことを、私たちは光栄に思います。この賞は、無形資産の管理と価値化において卓越した基準を確保し続ける Swiss Intellectual Properties & Licensing AGの取り組みを示すものです。それは、信頼性、精密さ、信頼への私たちの長期的な献身を裏づけています。これらは、企業アイデンティティとイノベーションの基盤を守るうえで不可欠な価値です。

パートナーならびに協力者の皆様に、心より感謝申し上げます。その才能と専門性によって、私たちはイノベーションと知的財産を、市場にとって具体的で認証された価値へと変えることができます。私たちの成果は協働の上に築かれています。共有された基準、共有された志、そして保護されたアイデアの力への共有された信頼の上に。



SWISS INSTITUTE FOR QUALITY TESTING (SIQT) について

Swiss Institute for Quality Testing (SIQT) は、2015年に設立されたチューリッヒ拠点のスイス機関であり、消費者への情報提供と市場の透明性向上を目的として、製品、サービス、企業の品質に関する独立したテストとランキングを実施しています。スイスにおける基準機関として広く認識され、客観的評価と信頼性の象徴とされています。また、企業の実績を評価する品質調査においてしばしば引用されており、実施されるテストにおける高い評判、信頼性、一貫性を示しています。

SIQTの信頼性は、その独立性と、詳細なレポートを公開する姿勢に基づいています。品質とパフォーマンスに関する信頼できる評価を求めるスイスの消費者およびステークホルダーにとって、SIQTは重要な参照機関となっています。

球面波

By Prof. Dr. Bodo Lambertz

再びかたちづくる。

およそ五十年前、当時ほとんど誰も正しく分類できないものが生まれました。それは世界初の存在でした。この造形言語における、初めての球面波ホーン・ラウドスピーカーです。開口部で終わるのではなく、部屋の中へと続いていくものとして構想されたホーン。クラシックなホーンは、常に人を魅了する力を持っていました。高い効率、即時的なダイナミクス、ライブ音楽を思わせる直接性。しかし同時に、何十年にもわたり問題も抱えていました。色づき、コンプレッション由来のアーティファクト、開口部での反射、そして音楽よりも形状に由来する、あの捉えどころのない「ホーンらしさ」です。本当の問題はホーン原理そのものではなく、移行部にありました。従来の設計では、ホーンの開口部は突然終わります。面が止まり、自由空間が始まる。音響的には、それは硬い不連続点です。まさにそこで、ホーン内部への後方反射、エッジ回折、干渉が生じ、のちに音色の色づきとして知覚されます。

私の考えは、だからこそシンプルでありながら根本的でした。ホーンが終わるのではなく、球面形状の中へとなだらかに消えていくとしたらどうなるのか。波がエッジに当たるのではなく、制御されたかたちで部屋へ解放する連続した曲率に出会うとしたらどうなるのか。

こうして球面波ホーンは生まれました。球面状の終端は、構造全体の中で最も重要な瞬間、すなわちホーンから部屋への移行を和らげます。音響エネルギーは突然放出されるのではなく、導かれます。非常に大きな開口半径によって、広がる波は跳ね返ることなく、均一に展開することができます。回転対称性は、側面ごとのアーティファクトを大幅に減らし、軸外においても指向性を安定させます。

MEASURED IN AN
ANECHOIC CHAMBER





球面への埋め込みは、音響的にはほぼエッジのないバッフルのように働き、典型的なバッフル反射を大きく最小化します。その結果として生まれるのは「ホーンサウンド」ではなく、エネルギーを失わない、非常に落ち着いた一貫性のある波面です。それはエネルギーを集中させながらも、「ビーム状」に聴こえることはありません。

中央の球面波ホーンは、幾何学的に関連したスケール違いのモジュールによって補完されます。これにより、複数のウェイにわたって一貫した音響言語が保たれます。異なる放射特性の寄せ集めではなく、構造的な統一性が生まれます。

幾何学から生まれる彫刻。
制御から生まれる音。



//

およそ50年前、これは「世界初」でした。この造形言語における、初めての球面波ホーン・ラウドスピーカーです。開口部で終わるのではなく、部屋の中へと続いていくものとして構想されたホーンです。

//

約800Hzでのクロスオーバーは意図的に選ばれています。まさにこの帯域で、多くのクラシックなホーン開口部は後方反射やコムフィルター状のアーティファクトを生みやすいからです。球面波の形状はこの移行を安定させ、より穏やかで、より均質で、より「ホーンらしくない」ものにします。それでいて、高効率という利点を手放すことはありません。

最終的に聴こえるのは構造ではなく、余裕です。インパルスは速く明瞭に届き、ホーン開口部にありがちな余韻を伴いません。音色は高い音量でも安定したままです。

ファントムセンターは確かに定位します。回折と開口部反射が構造的に低減されているからです。高効率はパワーリザーブを圧力としてではなく、落ち着きとして伝えます。システムは大きな音で鳴るのではありません。effortless に鳴るのです。

外形さえも、この音響的な論理に従っています。ファセット状の面、角度を持つ平面、そして球面波モジュールと低音部の明確な機械的分離は、定在波と従来型キャビネット共振を減らします。彫刻的な外観はデザイン上の主張ではなく、物理的帰結の表現です。

この原理が五十年前に初めて提示されたとき、それは技術的な挑発でした。開口部で終わるのではなく、部屋をその延長として理解するホーン。今日、私たちはよりよく理解しています。聴覚は単なる周波数分析器ではなく、時間に対して極めて敏感な器官です。ホーン開口部でのあらゆる反射は時間の乱れであり、あらゆるエッジは波の進行における小さな不真実です。球面波の形状は、まさにそこに取り組みます。部屋への移行という発生源で、これらの乱れと向き合うのです。

したがって球面波ホーン・ラウドスピーカーは、効果を狙ったオブジェクトでも、懐古的な引用でもありません。それは、波を真剣に受け止める形状によって、ダイナミクス、効率、空間的精度をひとつに結びつける試みです。開口部で終わるのではなく、音楽とともに始まるホーンです。





© Swiss intellectual property & license AG 2024

Awarded to only 7 People in history

PROF. DR. BODO W. LAMBERTZ

LIFETIME ACHIEVEMENT AWARD

業界全体を変え、影響を与えた人物に贈られる賞。

PLUS X AWARDは、テクノロジー、スポーツ、ライフスタイル、製品、サービス、ブランドにおけるイノベーションを評価する、世界最大級のアワードとされています。国際的に著名な審査員で構成される厳選された審査団は、ビジネスと産業の世界で重要な節目を築いた人物に対し、時に特別な賞を授与します。こうしたパイオニアたちは、その革新的な精神によって時代を先導する製品やブランドを生み出し、他者にとってインスピレーションの灯台となっています。

2019年、PLUS X AWARDはその歴史上わずか7度目として、卓越した起業家に生涯功労賞を授与しました。

受賞者は、Professor Dr. Bodo W. Lambertz。
バイオニックに着想を得たテクノロジーによってスポーツウェアに革命をもたらした、成功したイノベーターでありクリエイターです。

過去の受賞者には、Sir James Dyson (2007)、Professor Amar G. Bose (2008)、Noel Lee (2012)、Peter Skak Olufsen (2013)、Professor Hartmut Esslinger (2015)、そしてDieter Burmester (2016) が名を連ねています。「Lifetime Achievement」賞は、ベルリンのドイツ連邦議会にてProfessor Lambertzに授与され、世界的な成功に満ちた40年のキャリアにおける重要な節目となりました。この権威ある評価を受け、Professor Lambertzは次のように述べました。

「アイデアなくして、
進歩はない。

そして進歩なくして、
成功はあり得ない。」

- 1 **Sir James Dyson** (founder of Dyson)
- 2 **Pro. Amar G. Bose** (founder of BOSE)
- 3 **Noel Lee** (founder of MONSTER INC.)
- 4 **Peter Skak Olufsen** (CEO of Bang & Olufsen)
- 5 **Prof. Hartmut Esslinger** (founder of Frog Design)
- 6 **Dieter Burmeister** (high-end audio pioneer)
- 7 **Prof. Dr. Bodo W. Lambertz** (founder of X-Technology Swiss, X-Bionic®, X-Socks® & Apani®)



2007
SIR JAMES DYSON

The visionary inventor and founder of Dyson.



2019
DR. PROF. BODO W. LAMBERTZ

Revolutionised product design
with his bionic-inspired technology.



2016
DIETER BURMESTER

High-end audio pioneer.



2008
PROF. AMAR G. BOSE

The founder of the
Bose Corporation.



2012
NOEL LEE

The founder of Monster Inc.
and one of the architects of the
success of Beats Audio.



2013
PETER SKAK OLUFSEN

CEO and descendant of the
founder of Bang & Olufsen.



2015
PROF. HARTMUT ESSLINGER

The founder of frog Design and
one of the most influential
industrial designers
of all times.



愛
友情
忠誠
誠實
APANI

APANI AUDIOPHILE

AS PURE AS NATURE INTENDED

APANI Way of Lifeは、多くの世代の体験から育まれてきました。それは、時代とともに周縁へと押しやられてきた価値を表しています。人への愛、友情、忠誠、そして誠実さ。私たちにとって、それらは美しい言葉ではなく、日々の暮らしを導くものです。互いにどう接するか。何を食べるか。何をまとうか。そして、音楽をどう体験するか。持つことは、在ることより重要ではありません。関係性は、物よりも大切です。

感情の原初言語としての音楽

言葉が生まれる前に、リズムがありました。人は一本の木片で拍を打ち、集団はともに感じました。その衝動から楽器が生まれ、やがて言葉が生まれ、そして複雑な音楽へと発展しました。歌、コンサート、交響曲。音楽とは、凝縮された感情です。慰め、結びつけ、高めることができます。私たちが守りたいのは、この共有された体験です。

今日、しばしば失われているもの

多くの人にとって、ハイエンドシステムは手の届かないものになりました。同時に、スマートフォンとヘッドホンが、音楽を聴くための標準的な舞台になっています。たしかに実用的です。しかしリビングルームで感じる鳥肌のような感動は、しばしば失われています。本物の体験の代わりに、大きなマーケティングのノイズが支配しています。私たちは、音量より深さを信じます。誇張より誠実さを信じます。

私たちの答え

APANIは、鳥肌が立つような音楽体験をリビングルームへ取り戻します。私たちは価値観とエンジニアリングを、クラフトマンシップと美意識を結びつけます。そして常に、芸術にふさわしい自然で色づけない音楽を実現することに尽くします。As Pure as Nature Intendedは、私たちにとってスローガンではありません。それは基準です。

製品を超えて



ルーツと経験

私たちは何十年にもわたり、エレクトロニクスとラウドスピーカーを知り続けてきました。創業者の一人は1970年代に初めて球面波ホーンを製作し、それは今日でもなお素晴らしい音を奏でます。この長い実践が、私たちの判断を形づくっています。私たちは作り、聴き、捨て、改良します。音楽がただ良いだけでなく、心を動かすものになるまで。

私たちの原則(APANIの柱)

1. 愛と敬意

互いへの接し方において、そしてすべてのデザインに注ぐ配慮において。

—

2. 友情とコミュニティ

リスニングは、分かち合われる体験です。

—

3. 忠誠と誠実

透明な素材、正直な約束、空虚な最上級表現は使いません。

4. 音の自然性

私たちは効果よりも自然さを選びます。音楽は自由に呼吸すべきです。

—

5. アクセシビリティ

優れた音は、特権のままであってはなりません。

最高水準の品質が安価であることは決してありません。しかしAPANIは常に、その性能に対して優れた価値を提供します。

確信を示すエンジニアリング

- German Engineering 思慮深いコンセプトと、長く続く構造のために。
- Swiss Precision 厳密な公差、精密な製造、信頼できる品質のために。
- Bauhaus Design 感性と機能をひとつに結ぶ形のために。

私たちにとっての「自然」とは

色づけない音

歪み、キャビネット由来のアーティファクト、表面的な音づくりを最小限に抑えます。

effortless なダイナミクス

音楽は流れるべきです。

静かな息づかいから、オーケストラのフォルテまで。

時間への忠実さ

一貫した波面と精密な移行が、聴こえる静けさを生みます。

素材の誠実さ

私たちは、音がよく、長く保つからこそ素材と部品を選びます。

流行語だからではありません。

私たち自身をどう測るか

鳥肌の瞬間

聴く人は、最初の数小節で何かを感じるか。

長時間の聴きやすさ

音楽は何時間聴いても疲れるのではなく、より豊かに感じられるか。

コミュニティ

人々がともに聴く場所を、もう一度つくり出しているか。

透明性

由来、仕上げ、価格は理解できるものになっているか。

製品を超えて — ひとつの姿勢

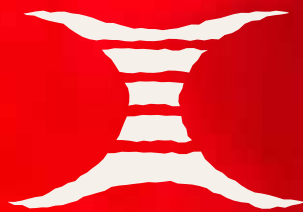
APANIは日常へと広がります。身体と心を養う、意識的な食へ。愛し、長く使い続ける衣服へ。良い感情を守り、生み出す出会いへ。音楽は私たちの媒体です。つながりを確かなものとして感じさせる、最も信頼できる方法です。

ひとつの姿勢

Swiss Corporation 



ゴスペルシンガーSiyou、2017年ミュンヘンの
Open Sound Workshopにて。



APANI®

As Pure As Nature Intended®
Audiophile



ゴスペルシンガーSiyou、2017年ミュンヘンの
Open Sound Workshopにて。

APANI AUDIOPHILE

ときに、たったひとつの音だけで十分です。
心の記憶を呼び覚ますには。
金属を渡る息づかい、太鼓の皮に触れる木、
震えはじめる弦。
そして突然、私たちは再び自分自身になります。

APANIは、本当に大切なものを思い出させてくれます。愛、友情、忠誠、誠実。それは所有するものではなく、生きるものです。それらは日々の静かな敬意の中に、守られた約束の中に、本当に見つめるまなざしの中に、丁寧につくる手の中に現れます。私たちにとって、常に大切なのは、持つことよりも在ることです。

言葉が生まれる前に、音がありました。
誰かがリズムを打ち、集団はひとつになって感じ始めました。この原初の鼓動から楽器が生まれました。息から歌が生まれ、音から音楽が生まれ、音楽からコミュニティが生まれました。

今日、大きな音が説得し、速さが注意を奪い、ヘッドホンが世界を小さくし、マーケティングが驚きをかき消すとき、何か本質的なものが失われています。自分の部屋で感じる、鳥肌の立つような感動です。

だからこそ、私たちはここにいます。APANIは、鳥肌が立つような音楽体験をリビングルームへ取り戻します。効果としてではなく、音の真実として。私たちは、音楽が呼吸できるようにつくります。自然で、色づけがなく、ダイナミクスは effortless で、時間に正確で、一貫していること。そして沈黙が、再び音楽を生み出せるように。

私たちの手には、長い経験が宿っています。私たちの一人は1970年代に球面波ホーンを製作し、それは今もなお昨日生まれたかのように響きます。このように空気、木、金属を形づくったことのある者なら誰でも知っています。音には、比例、時間、そして献身が必要です。

私たちの道は、スローガンではなく姿勢です。長く残る思想のためのドイツのエンジニアリングと

デザイン。信頼を生む公差のためのスイスの精密さ。

As Pure as Nature Intended が私たちに意味するのは、誠実に響く素材です。主張するのではなく、姿を消すエンクロージャーです。音楽が前へ出られるよう、身を引くエレクトロニクスです。丁寧に食べるパンから、愛し、長く身につける衣服へ。そして出会う人々へ。この姿勢は、私たちが行うすべてを貫いています。APANIは、生き方としての音の文化です。

私たち自身を何によって測るのか。
音楽の最初の息づかいによって。
静けさは訪れるか。そして、鳥肌は立つか。

時間によって。
何時間も聴いたあと、聴くことはただ大きくなるのではなく、より豊かになるか。

近さによって。人々が再び、ともに聴く場所をつくり直せるか。明晰さによって。
由来、クラフトマンシップ、価格が理解できるものになっているか。

私たちは信じています。音楽は、最も繊細な真実のかたちです。そして真実は、それがあなたを静かにし、同時に動かすことで認識できます。
APANIは、その瞬間のためにつくります。





THE MUSIC TRANSFORMER

APANI x B&M

純粋さが、精密さと出会う場所

純粋さが、精密さと出会う場所

いくつかのパートナーシップは、機会から生まれます。このパートナーシップは、確信から生まれました。50年以上にわたり、Prof. Dr. Bodo Lambertzはひとつの問いを探究してきました。人間の耳が知覚し得る、最も純粋で、最も真実に近い音楽再生とは何か。その本質こそが、APANIの背後にあります。As Pure As Nature Intended。知覚科学、自然な音響挙動、そして本物への妥協なき追求をひとつに結ぶ哲学です。その対極にいるのが、開発者でありディプロムエンジニアであるJohannes Siegler率いるBackes & Müllerです。伝説的な伝統を持つマニュファクトリーにおいて、デジタル信号処理と音響開発のパイオニアです。B&Mはアクティブ・ラウドスピーカーの先駆者であり、センサー制御による精密さの名手であり、真に理解できる者が少ないクラフトの守り手です。50年以上にわたり、B&Mはラウドスピーカー技術の限界を押し広げてきました。

ふたつの道、ひとつのヴィジョン

このふたつの世界が出会ったとき、特別なことが起こりました。共有されたヴィジョンが結晶化したのです。それは、カテゴリーと慣習の双方を超えるラウドスピーカーをつくること。「ハイ・フィデリティ」にとどまらず、音楽そのものを変容させるシステムをつくること。このヴィジョンが、Cylindra – The Music Transformerとなりました。

そのアーキテクチャは、ふたつの哲学の融合です。心理音響学、知覚研究、そして色づけのない真実への探究によって形づくられたAPANIの自然な純粋さ。アクティブ制御、高度なセンサー、精密機械工学を核とするBackes & Müllerのエンジニアリングの卓越性。

そこから生まれたのは、過去のシステムの延長ではありません。まったく新しい種のラウドスピーカーです。音楽とともに考え、呼吸し、反応する存在です。

楽器のようにつくられる

すべてのCylindraは、唯一無二のオブジェクトとしてつくられます。大量生産ではありません。テストベンチ上で調整されるものでもありません。未来のオーナーの実際のリスニングルームで最終キャリブレーションを終えて初めて、完成します。

空間の音響、その素材、そのジオメトリー、そして聴き手一人ひとりの聴覚特性までもが、スピーカーの最終的な声の一部となります。このプロセスは、StradivariやSteinwayを精密にヴォイスングすることに似ています。ただし、その楽器は部屋であり、職人はAPANIとB&Mのエンジニアたちのシナジーです。

テクノロジーを聴かせずに、 テクノロジーの成果を聴かせる

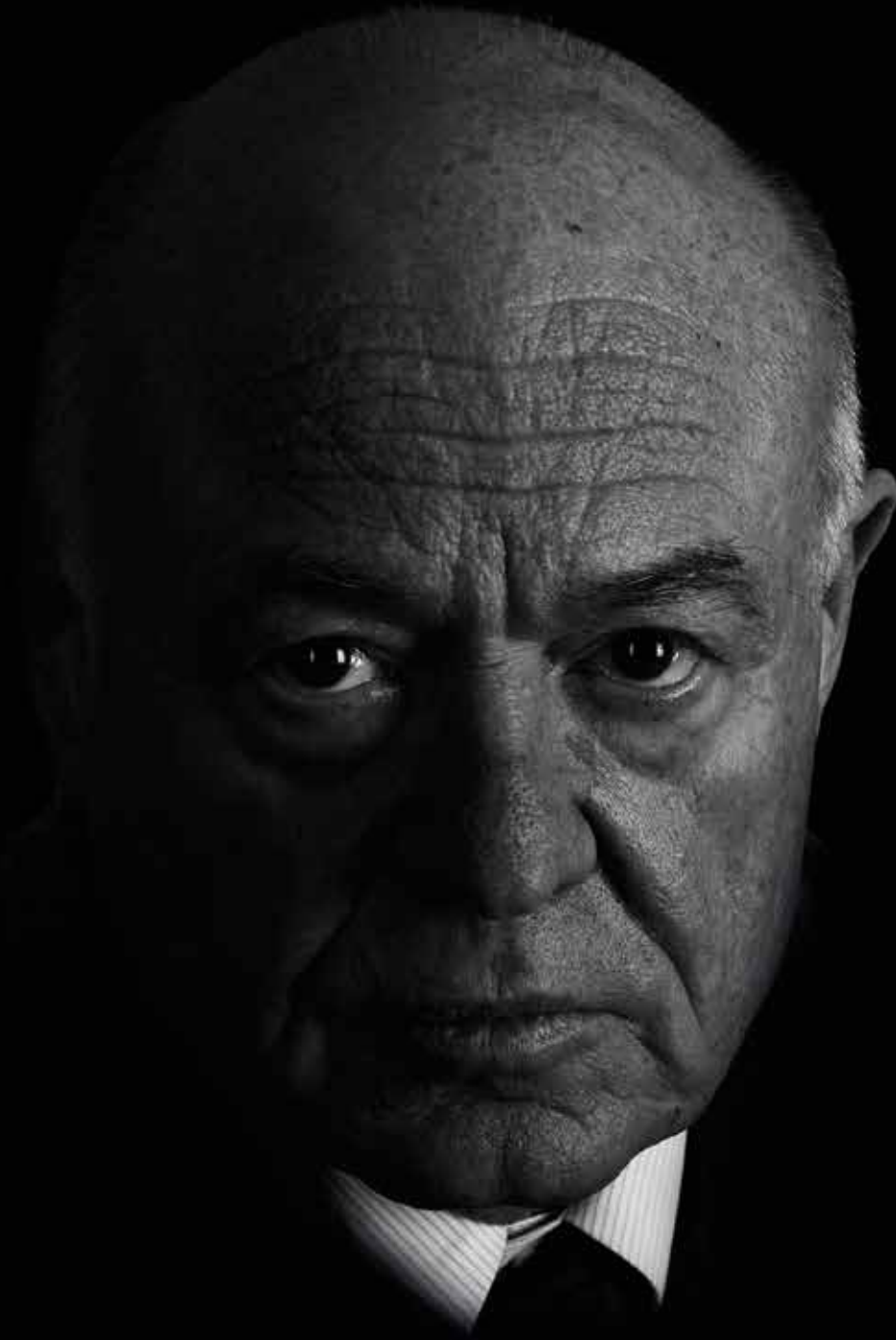
垂直波放射の静かな権威。バイオニック共振制御の安定性。B&Mのアクティブモジュール、センサー、アンプがもたらす精密さ。APANIのKlangsignaturが宿す感情的な自然さ。すべては、最後に残るただひとつのものの背後へと消えていきます。可能な限り純粋な形の音楽です。

ラウドスピーカーは音楽を再生できます。 Cylindraは、それを変容させます。

だからこそ私たちは、これをThe Music Transformerと呼びます。なぜならCylindraは、従来のシステムにはできないことを行うからです。技術的な正確さと感情的な存在感のあいだにある隔たりをつなぐこと。測定できるものと、意味を持つもののあいだをつなぐことです。

コラボレーションは続きます。APANI x B&Mは一瞬の出来事ではありません。それはムーブメントです。純粋さ、精密さ、そして聴き手をこれまで以上に本来の芸術的意図へ近づけたいという願いに導かれ、音楽再生の限界を押し広げるためのアライアンスです。私たちは共に、単なるラウドスピーカーではなく、音楽とは何であり得るのかを再定義する体験をつくります。

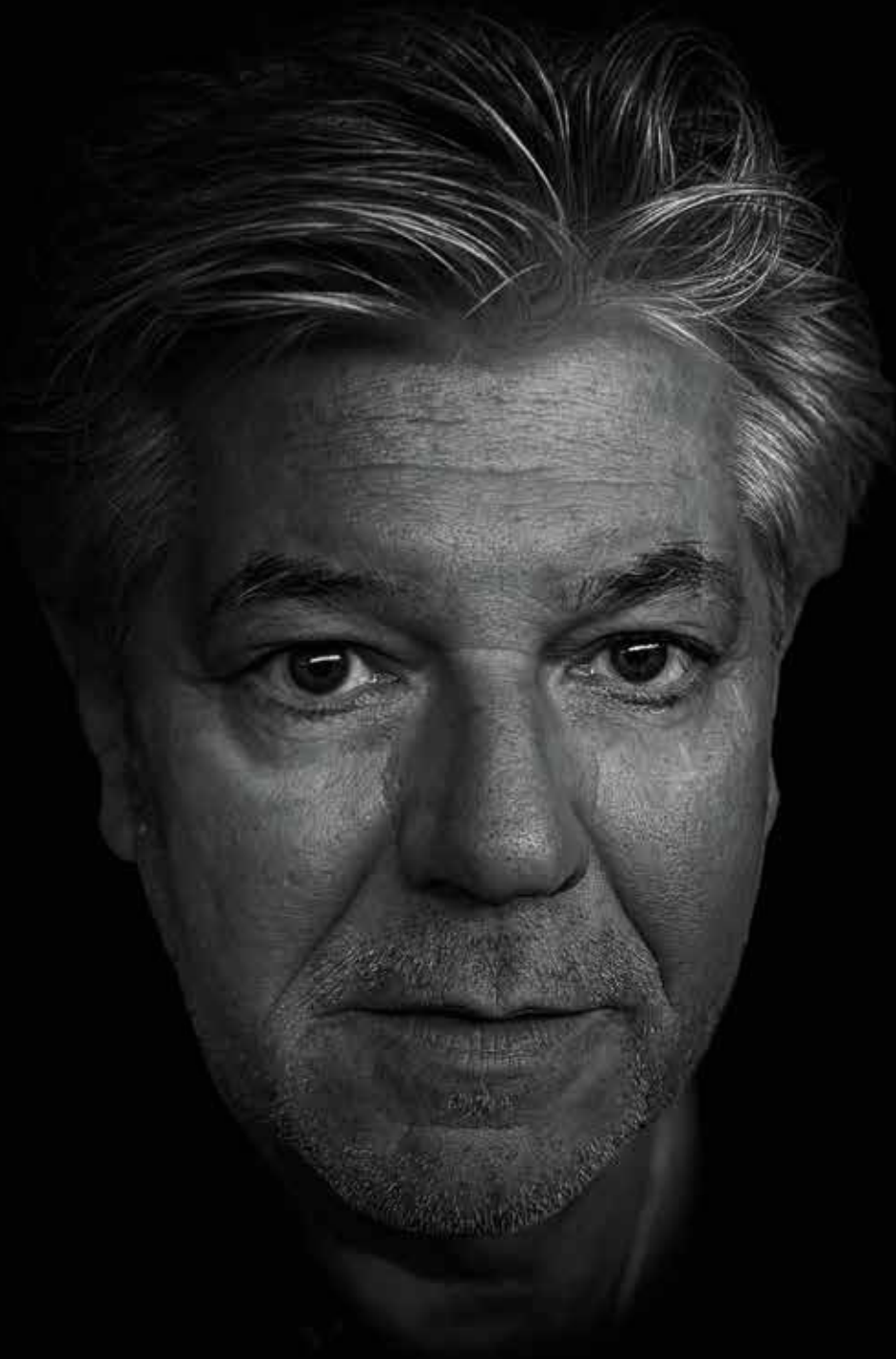
THE HEADS OF



PROF. DR. LAMBERTZ

77年に凝縮されたオーディオフィールの経験。それこそが、As Pure As Nature Intended AudiophileとしてのAPANIの新しいサウンドシグネチャーの基盤です。スイスのProf. Dr. Lambertz (APANI) は、音楽再生、知覚研究、そして世論形成力を持つメディアにおける論理構築に、52年にわたる集中的な取り組みを注いできました。

THE MOVEMENT



DIPL.ING. JOHANNES SIEGLER

Dipl.-Ing. Johannes Sieglerは、音響、ラウドスピーカー設計、スタジオ技術における30年以上の研究開発経験をもたらします。さらに彼は、ミュージシャンであり、マスタリングエンジニアでもあります。二人はこの知識を、ひとつの妥協なきプロジェクトへと結集することを決めました。Backes & Müllerとの協力によるAPANIです。

77年に 凝縮された オーディオファ イルの 経験

この協力の目的は、「知覚」、音の描写、アクセサリ―神話をめぐって、しばしばほとんど神経質なほどに行われてきた議論を、その原点へと戻すことです。すなわち、音楽そのものと、感情的な体験へ。電源ケーブル、フィルター、エキゾチックなアクセサリ―をめぐる終わりのないスネークオイル的な言説は、本来焦点が置かれるべき場所へ視線を戻すことで、その不条理さを明らかにするためのものです。それは、音楽的出来事の真正な再現です。自宅で再び鳥肌を立たせるべきなのは、ラックの中のアクセサリ―ではなく、音楽そのものであるべきです。

DARE TO COMPARE

アンプラグド・コンサートのような音楽を、
自宅で、ほぼライブのように。

まさにこれこそが、新しいAPANIサウンドシグネチャーの目指すものです。聴き手は、あたかもアコースティックで、飾りのないライブの瞬間に立ち会っているかのように感じるべきです。リアルなダイナミクス、説得力のある空間描写、そして自然な音色とともに。

なぜBackes & Müllerなのか。

この問いは、Prof. Dr. LambertzとDipl.-Ing. Sieglerのあいだで交わされた多くの対話の出発点でした。Lambertz氏の答えは、作曲家Hanns Eisler (1898-1962) の言葉によって示すことができます。

「低音が聴こえないなら、
メロディなどどうでもいい。」

端的に言えば、基音こそが土台です。すべてはその上に築かれます。音楽においても、基音はハーモニーの基盤です。完璧な基音は、完璧な倍音の前提であり、したがって自然な音楽再生の前提でもあります。

Prof. Dr. Lambertzにとって、Backes & Müllerは、この自然な低音再生をここまで一貫して極めている、世界で唯一のメーカーです。それを可能にしているのが、「光速」に近いアクティブ制御システムです。この制御によって、倍音をきわめて精密かつ自然に再現することができ、それによって初めて楽器や声の本物の音色が生まれます。

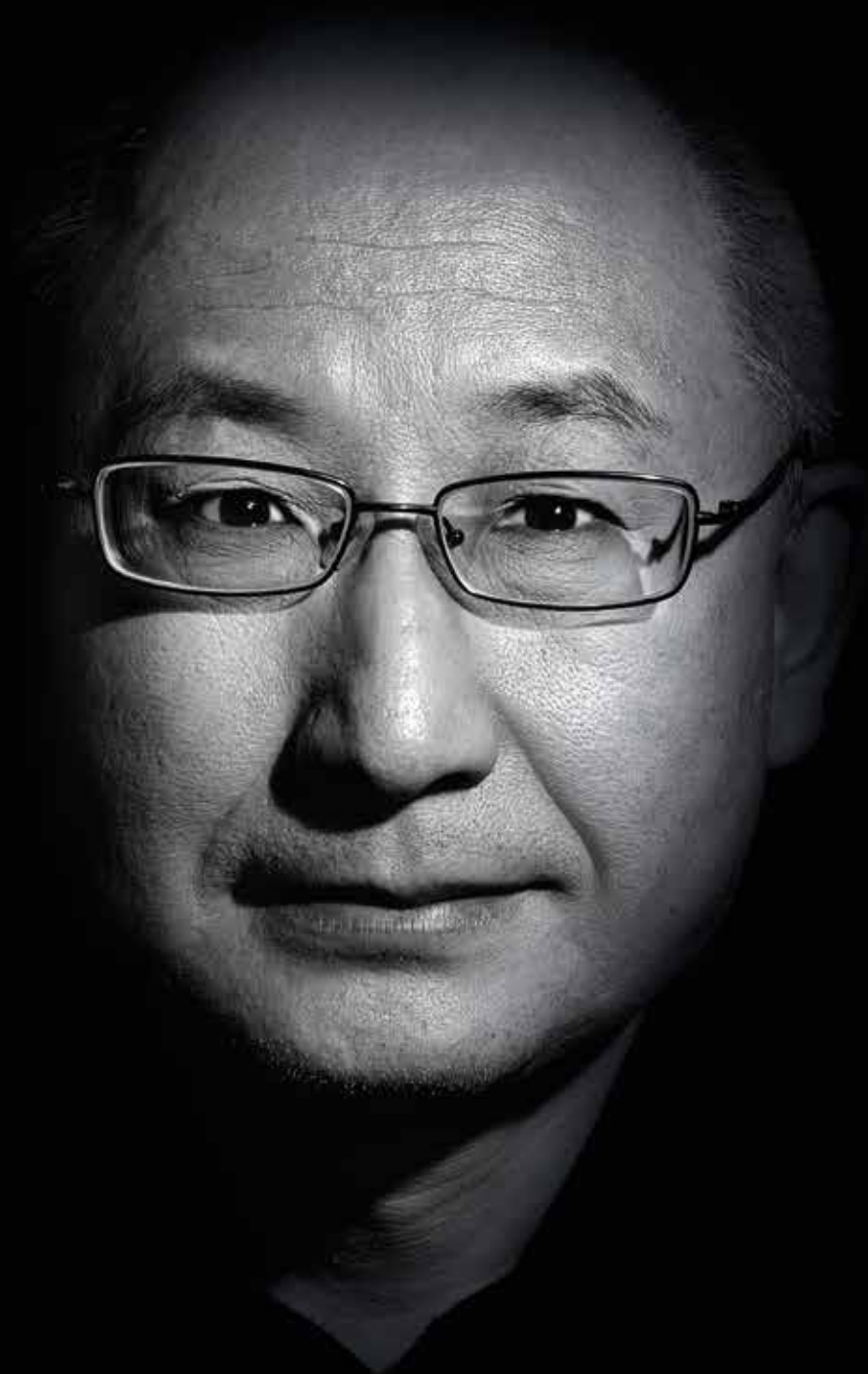
この原理こそが、APANI As Pure As Nature Intended Audiophileの基盤です。自然な低音再生、自然な倍音、自然な感情。

私たちは、すべての方に私たちの確信を自ら確かめていただきたいと考えています。
その約束とともに。

DARE TO COMPARE

(JZ)

第三 の力



DERIK SHEN

THE MUSIC TRANSFORMER GENERATION

APANI x B&M x JZ

新しい種の起源 THE MUSIC TRANSFORMER GENERATION

THE MOTHER OF A NEW GENERATION

新しい世代の母

50年以上にわたり、Prof. Dr. Bodo Lambertzはひとつの問いを追いつけてきました。人間の耳が知覚し得る、最も純粋で、最も真実に近い音楽再生とは何か。

その探求はAPANIとなりました。As Pure As Nature Intended。知覚科学、心理音響学、そして色づけのない真実への探求に基づく哲学です。この哲学が、まったく新しいものを求めるようになるのは時間の問題でした。ラウドスピーカーではなく、Music Transformerを。

そのもう一方に立つのが、伝説的なドイツのエンジニアリング・ハウス、Backes & Müllerです。アクティブ・ラウドスピーカーの先駆者。センサー精度の守り手。五十年にわたるオーディオ史を形づくったテクノロジーの建築家です。

そして、このふたつの世界が出会った場所で、特別なものが生まれました。

CYLINDRA

THE FIRST MUSIC TRANSFORMER. THE ORIGIN. THE MOTHER.

Cylindraは、既知のラウドスピーカーの系譜を受け継ぐものではありません。それは新しい種の創世です。「スピーカー」という概念を超え、音楽的な生命体となる最初の存在です。そのアーキテクチャは、ふたつの妥協なき哲学の融合です。

- 心理音響学、知覚研究、そして本物への揺るぎない探求によって形づくられたAPANIの自然な純粋さ。
- Backes & Müllerの精密エンジニアリング。センサー制御、アクティブ制御、緻密なクラフトマンシップ。

共に彼らは、音楽をただ再生するのではなく、変容させるシステムを生み出しました。

楽器のようにつくられる

すべてのCylindraは、唯一無二の創造物です。大量生産ではありません。標準化されたものでもありません。未来のオーナーの実際のリスニングルームで最終キャリブレーションを終えて初めて完成します。

部屋が楽器になる。

音響、素材、ジオメトリー。そして聴き手一人ひとりの聴覚特性までもが、最終的な声の一部となります。これはチューニングではありません。StradivariやSteinwayを仕上げていくような、精密なファイン・ヴォイスングです。ただし、その職人はAPANIとBackes & Müllerのシナジーです。

REPRODUCING OF THE SOUL

消えていくテクノロジー。

そして音楽だけを明らかにする。

部屋を静かな権威で満たす垂直波放射。生きた有機体のように構造を安定させるバイオニック共振制御。音楽が変化するよりも速く考える、センサー駆動の精密アンプ。APANI Klangsignaturが宿す感情的な自然さ。残るのは本質です。可能な限り純粋な形の音楽です。ラウドスピーカーは再生できます。Cylindraは変容させます。だからこそCylindraは、Music Transformerの新しい世代の母なのです。これから続くすべてのための設計図です。

第三の力

Made in China(JZ) – 新しい世界のための研究と製造

Music Transformerという思想を世界的な力へと高めるために、APANIには第三の力が必要でした。Juzheng(JZ)です。正しく実現されたMade in China。Derik Shenによって広州に設立されたJZは、シンプルでありながら深い信念に導かれています。

「魂の音を再現する。」

ここでは、詩が実践になります。

- 世界水準のオーディオ・ビデオ・デコーディング
- 5.1 / 7.1 マルチチャンネル・アンプ
- ハイエンド・シネマプロセッサー
- 高度なDSPハードウェア&ソフトウェア
- 2010年から築かれてきたR&D体制
- 特許ポートフォリオ
- HDMI 2.0、DTS-HD、Dolby HDを含む認証

このレベルにおける「Made in China」は妥協ではありません。それは伝統、テクノロジー、責任の融合です。精密で、信頼でき、コスト意識が高く、品質に深くコミットしています。

JZの製品は、ホームシアター、専用リスニングルーム、スパ、ホテル、ヴィラ、クラブなど、感情と信頼性が共存しなければならないあらゆる場所で力を発揮しています。

THE SOUND

その使命は、

「国民の音を創り、
音楽を何千もの家庭へ届けること。」

そして今、この使命は世界へと広がります。

なぜJZはAPANIのヴィジョンを強めるのか

German Engineering. Swiss Precision. Chinese Manufacturing (JZ)。
三つの力。ひとつに統合された約束。JZは、APANIがオーディオファイルの真実を新しい世代へ届けることを可能にします。

- 音楽の正確さを守るDSPとデコーディングの専門性
- 妥協なき互換性のための認証された信号経路
- 一貫した公差を実現する成熟した量産体制
- 公正な価格で実現する本物のハイエンド性能
- 実際の音体験に基づいて築かれた忠実なファン文化

JZは、本物らしさを薄めることなく、鳥肌が立つような体験をより身近なものにします。

私たちはDerik ShenとJuzhengファミリーとの協力を誇りに思います。それは良心、能力、そして先見性に基づくパートナーシップです。

APANI × BACKES & MÜLLER × JZ

それは一瞬の出来事ではありません。
それはムーブメントです。

純粹さ、精密さ、そして聴き手をこれまで以上に芸術的意図へ近づけたいという願いに導かれ、音楽再生が何であり得るのかを前進させるためのグローバル・アライアンスです。

私たちはもはや、ラウドスピーカーをつくっているのではありません。
Music Transformerを創造しています。

Cylindraは最初の存在でした。
母。
起源。

そして今、その先続く世代が始まります。

As Pure As Nature Intended.

本物の音の 本質について



人間の存在には、あらゆるイメージよりも古く、あらゆる言語よりも古く、意識的な思考そのものよりも古い瞬間があります。それは、私たちが見るのではなく、聴く瞬間です。世界が形としてではなく、空気の動きとして、振動として、空間の中のほとんど知覚できない震えとして姿を現し、それでいて意味を運ぶ瞬間です。

何百万年にも及ぶ進化は、私たちに地平を認識する目だけでなく、視覚的な確かさよりもずっと前に方向感覚を生み出す、高度に発達した聴覚を与えました。それは、危険が見える前にそれを察知し、輪郭が現れる前に方向を定め、対象が光の中に現れる前に距離を推定することで、私たちの生存を支えてきました。

聴覚は決して二次的な感覚ではありませんでした。それは精密なナビゲーション・インストゥルメントでした。何千年にもわたって研ぎ澄まされ、左右の耳に届くわずかな時間差、10マイクロ秒未満の差までも知覚し、それを正確な空間情報へと変換できるまでになりました。これにより私たちの脳は、ほんの一瞬のうちに、音の出来事の方角、距離、大きさ、そして動きのダイナミクスを判断することができます。このほとんど想像しがたい時間分解能は、技術的には抽象的に思えるほどのものですが、私たちにと

っては計り知れない意味を持ちます。なぜならそれは、音を孤立したトーンとしてではなく、空間的な出来事として体験する能力の基盤だからです。音は空間の中に位置を取り、動き、展開します。同じく驚くべきものが、私たちの聴覚のダイナミックレンジです。最も小さく知覚できる信号から身体的な許容限界まで、およそ130デシベルに及びます。それは100万倍を超える強度差であり、高品質な録音システムでさえこの範囲には大きく及びません。このことは、人間の聴覚が繊細さと極限の双方、かすかな囁きからオーケストラの噴き上がる力までを受け止めるように設計されていることを示しています。

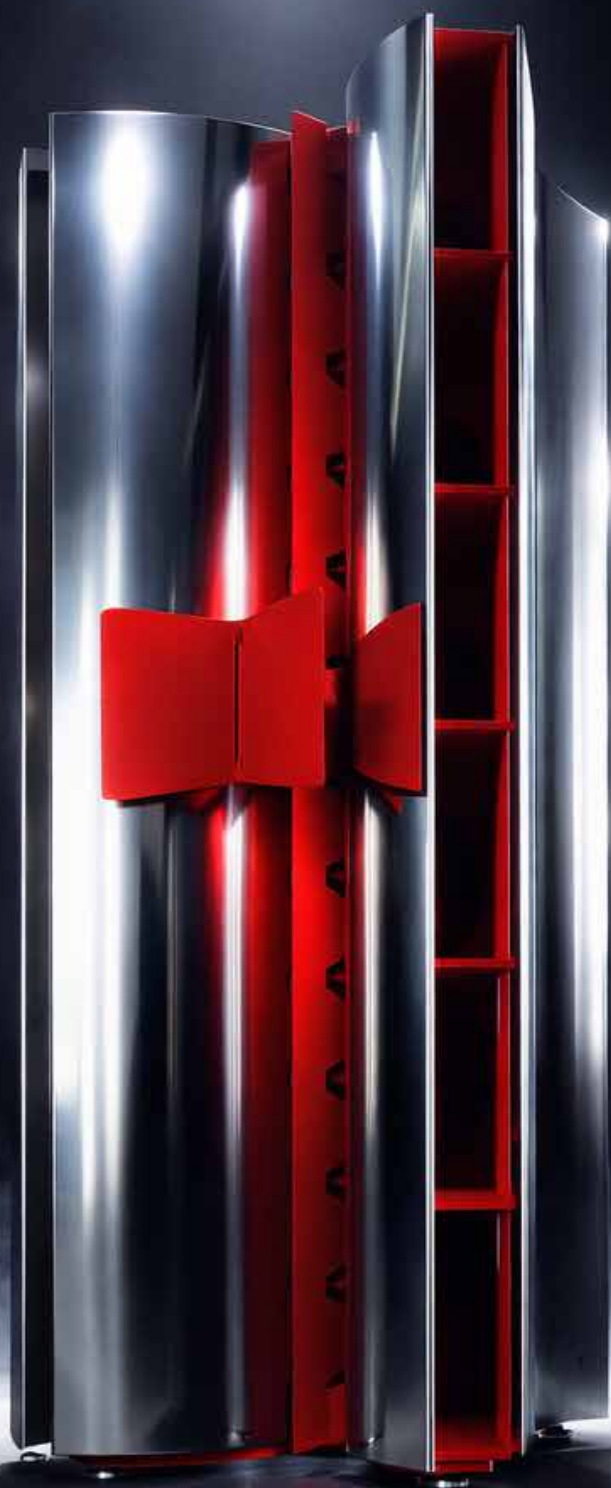
この生物学的な精密さは、音楽が私たちにとって単なる音ではないことを意味します。それは時間的、空間的、エネルギー的な情報が複雑に織り合わされたものであり、その完全な効果は、変えられることなく、一貫し、歪みなく伝達されたときにのみ展開します。システムが音色の色づけも時間的な歪みもなく動作するときのみ、私たちの聴覚は音楽の完全な情報パターンを解読し、それをひとつの出来事へと変換することができます。その出来事はラウドスピーカーから離れ、部屋の中に自らを確立し、それを生み出した音源から独立します。そのとき現れるのは「ハイファイ」ではありません。現れるのは存在で

す。表面に留まらず空間を構造化する音、建築のように展開する音楽的出来事です。荷重を支え、安定し、三次元的に。

この認識はマーケティング上の約束ではありません。それは義務です。そして私たちに探求を続けることを求めます。イデオロギーなく、ドグマなく、アナログかデジタルかという選択を信仰の問題にすることなく。最終的に重要なのは、結果だけだからです。ステージで起こることを、私たちが生きる空間へ、可能な限り混じり気なく移すことです。

音楽はミキシングコンソールで終わるわけではありません。ラウドスピーカーで終わるのでもありません。それは私たちの内側で終わります。そして私たちの仕事は、その目的地までの道を澄んだまま保つことです。妥協なきエンジニアリングによって。オーディオファイルとしての細やかな配慮によって。そして、私たちの聴覚が意識的に理解している以上のものを知覚しているという認識によって。本物であることは、何も加えられず、何も隠されない場所から始まります。テクノロジーが透明になり、時間が秩序を取り戻し、エネルギーが導かれる場所から始まります。なぜなら、まさにその地点で音が始まるだけではないからです。そこから真実が始まるのです。

Johannes Siegler
Managing Director, Head of Development
Backes & Müller High End Audio



APANI QEVIKO



APANI QEVIKO

形は 機能に 従う

異なる音響特性を持つリビングルームには、それぞれ異なる解決が必要です。大きな部屋で本物の再生を実現するには、小さな部屋とはまったく異なる解決が求められます。長いリスニング距離には、ニアフィールドとは異なるシステムが必要です。

だからこそ、ラウドスピーカーはワンサイズであってはなりません。ひとつの目的に向けられたものでなければなりません。

APANI QEVIKOは、サイズとデザインにおいて、この要求に妥協なく従います。その結果、外観デザインは音の生成プロセスの機能となります。有機的な音の生成プロセスは、有機的なキャビネットデザインとして表現されます。

印象づけるために形づくられたものではありません。
真実であるために形づくられたのです。

タブーも イデオロギ ーもなく

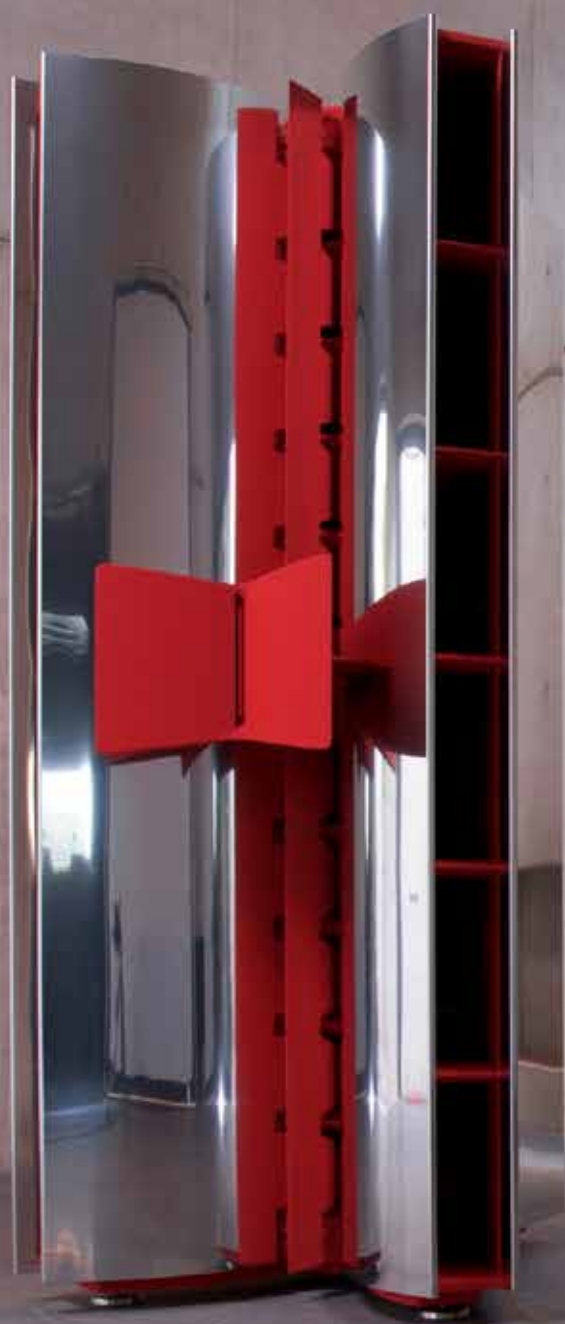
ラウドスピーカー製品のファミリーには、リスニングエリアの音響特性に適応した最適な再生を確保するために、さまざまなコンセプトが実現されています。

**APANI QEVIKOは、教義に忠実なのではありません。
リスニングエリアに忠実なのです。**

Backes & Müllerのラウドスピーカーは、サイズや特性の異なる部屋に対し、適切に選ばれた解決によって性能を発揮します。

確立されたシリンダー波エミッター、ホーンテクノロジー、デジタル信号処理による補正、あるいはシンプルなアナログ制御のいずれを用いる場合でも、目的は同じです。あなたのリスニングエリアで、印象的で本物の音楽体験を実現するために必要な、最も適したコンセプトを探求することです。

まるでライブ演奏の場にいるかのように。



APANI QEVIKO

同軸ホーンについて

同軸ホーン。
シリンダー波エミッター。

特徴としてではありません。
帰結として。

空気の帰結。
距離の帰結。
時間の帰結。

そして

シリンダー波
エミッター

APANI QEVIKO



APANI®

As Pure As Nature Intended®
Audiophile

THE ARCHITECTURE OF APANI QEVIKO



An abstract sculpture composed of large, curved, red and white geometric blocks. The blocks are arranged in a way that creates a sense of depth and movement, with some blocks appearing to be stacked or interlocked. The lighting is dramatic, highlighting the smooth surfaces and creating deep shadows. The overall composition is minimalist and modern.

APANI QEVIKO

低音の経路 について

有機的なプロセスには、有機的な形が必要です。それは低音ジェットの実装にも当てはまります。APANI QEVIKOは、ネオジウムマグネットで駆動される強力な12インチ・シャーシを用い、低音域において音の壁を生み出します。

そして、そのエネルギーは単に放出されるものではありません。形づくられます。側面のジェットシャフトを通して偏向され、前方へ投射され、形成されます。なぜなら低音の波は、最大で10メートルにも及ぶことがあるからです。そして、それほど長いものは導かれなければなりません。

そのため低音波はラウドスピーカーの全高にわたって分配され、開口部において指向性を持つ低音波を生み出します。

深さだけではありません。方向です。力だけではありません。目的です。

低音ジェットは、その側面配置によってラウドスピーカー全体を縁取ります。

このデザインは機能的です。
そして意図的です。

L字型ホーン中央の基音領域と、高音エミッターの豊かさは、長いリスニング距離においても調和的に縁取られ、ひとつの完全な音へと統合されます。

正面から見える左右の明確なシャフトは、最深部の低音再生のために機能します。

それらは、スピーカー内部から垂直面において生成されます。これは最も安定した位置です。なぜなら、こうした原初的な力を制御するためには、安定性が第一の前提条件だからです。

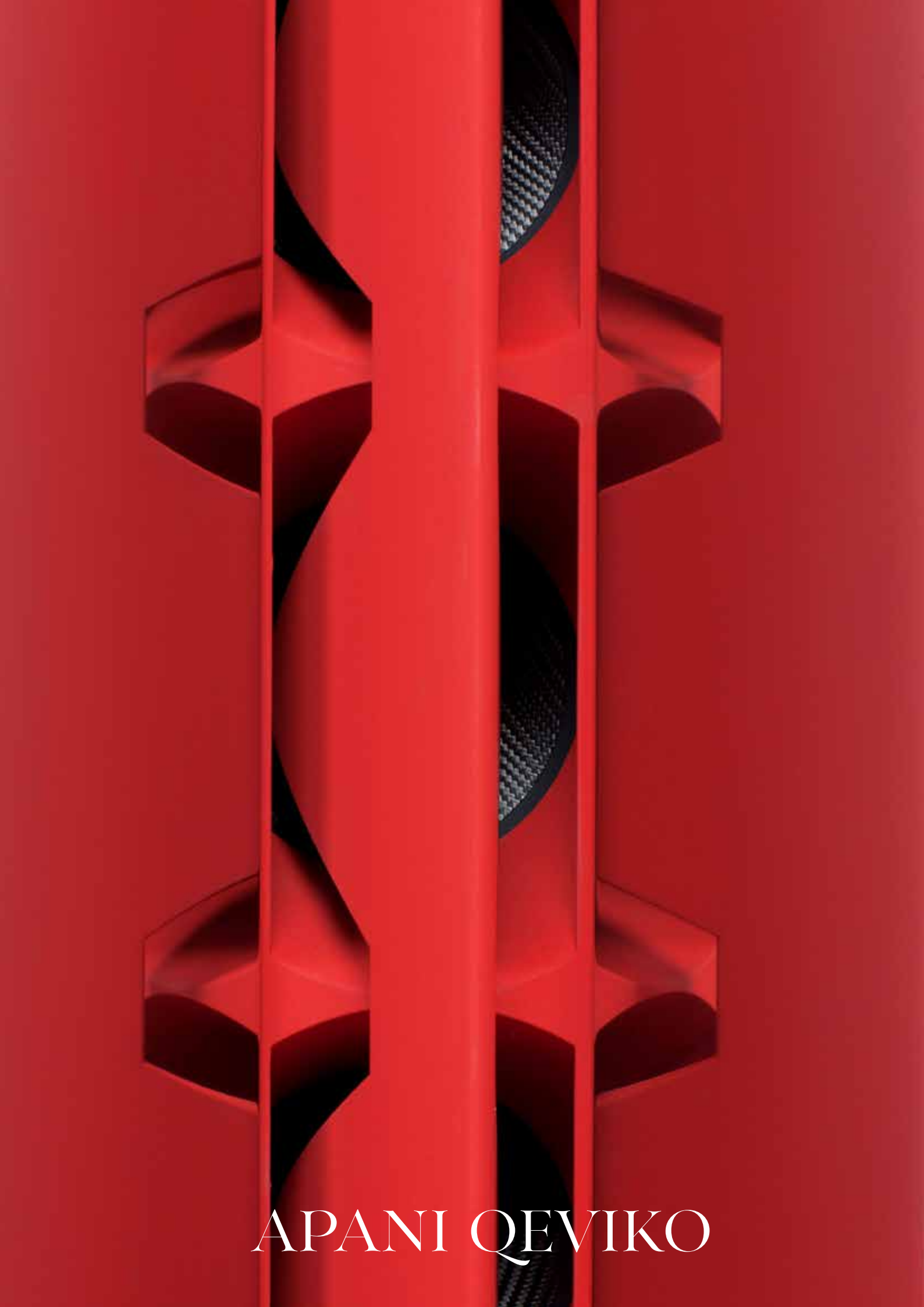
安定した中心からのみ、振動に強い低音を低音ジェットを通して放射することができます。そして制御が重要です。B&Mが開発したアナログ制御技術であるDMCテクノロジーは、低音膜の動きを測定し、インパルス忠実性と減衰振動の低減に向けて最適化します。

その結果、
低音経路における
リニアフェーズ再生が生まれます。

届く低音。
去っていく低音。
霧のように残らない低音。

低音 ジェット について

APANI QEVIKO

The image features a vibrant red background. A central vertical slit reveals a dark, textured interior. On either side of this slit, there are symmetrical, three-dimensional geometric shapes that resemble stylized, interlocking blocks or architectural elements. These shapes are cut out from the red surface, creating a sense of depth and shadow. The overall composition is minimalist and modern.

APANI QEVIKO

について ミッドレンジ ホーン

大型ミッドレンジ・ホーンには、10基の17cmカーボン・ミッドレンジドライバーが搭載され、1000ワットのオーディオファイル・アンプによって駆動されます。

各ミッドレンジ・ダイアフラムの前には、フェーズプラグが配置され、波面を整え、ホーンスロートにおける音響的結合を高めます。これらのフェーズプラグは全体として精密に構成されたアレイを形成し、個々のドライバーの出力を一貫した音響波面へと統合します。

このホーンは、外観だけで印象づけるためのものではありません。そのスケールは音響的必然の結果です。なぜなら、空気には寸法があり、真実には重みがあるからです。

- ホーンスロート面積: 0.23 m^2
- ホーン開口面積: 1.75 m^2
- ホーン高さ: 2.3 m、150 Hzに相当

つまり、その寸法は放射される信号の波長領域の中に存在しており、ホーン再生にとって理想的な条件を生み出します。





について ハイレンジ ホーン

800 Hzを超える帯域では、新たに開発された
シリンダー波エミッター・エレメントが
ミッド/ハイレンジ帯域を担当します。

応用数学のためのFraunhofer Instituteとの
協力によって開発された、
最高品質のスリット形状エミッター。
極めて強力なドライブを備えています。

シリンダー波の挙動は、
「甘くする」ことによってではなく、
ジオメトリーによって部屋を変えます。

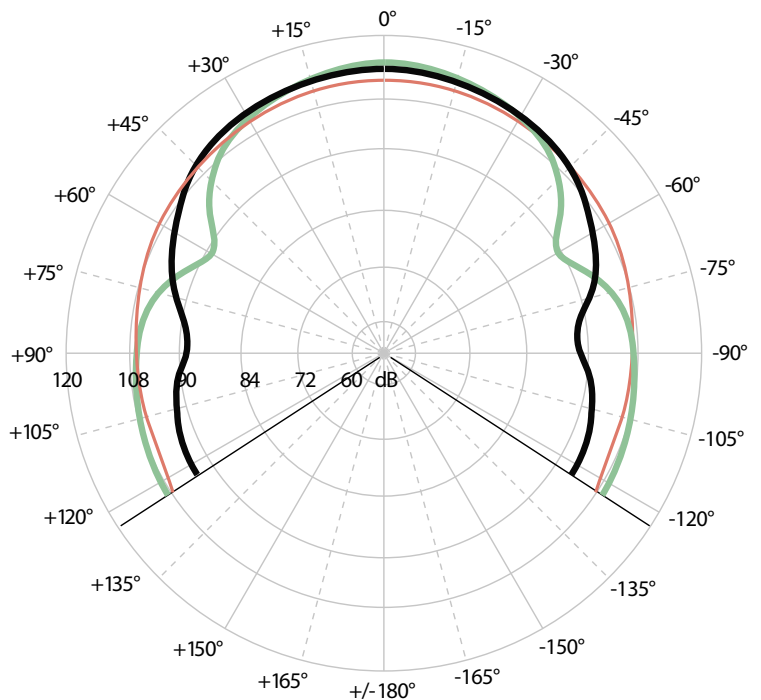
- シリンダー波音場:
距離が2倍になるごとに -3 dB
- 球面波音場:
距離が2倍になるごとに -6 dB

そのため、より大きなリビングルームでも、
リスニング位置はニアフィールドのまま保たれ
ます。

直接音が支配的になります。
間接音は後退します。
部屋の影響は最小限に抑えられます。

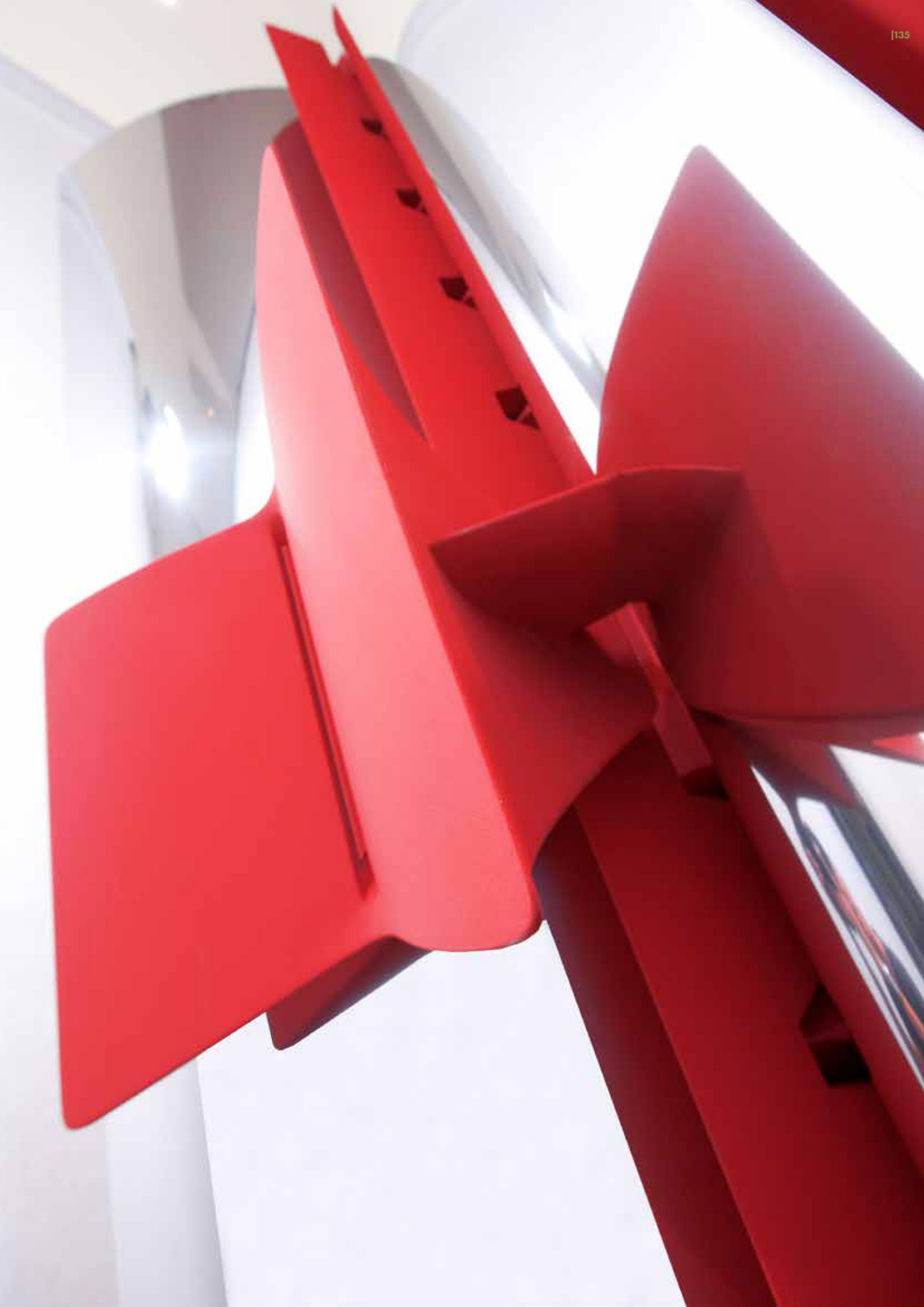
追加の指向性エミッターが、
天井と床からの反射をさらに低減します。

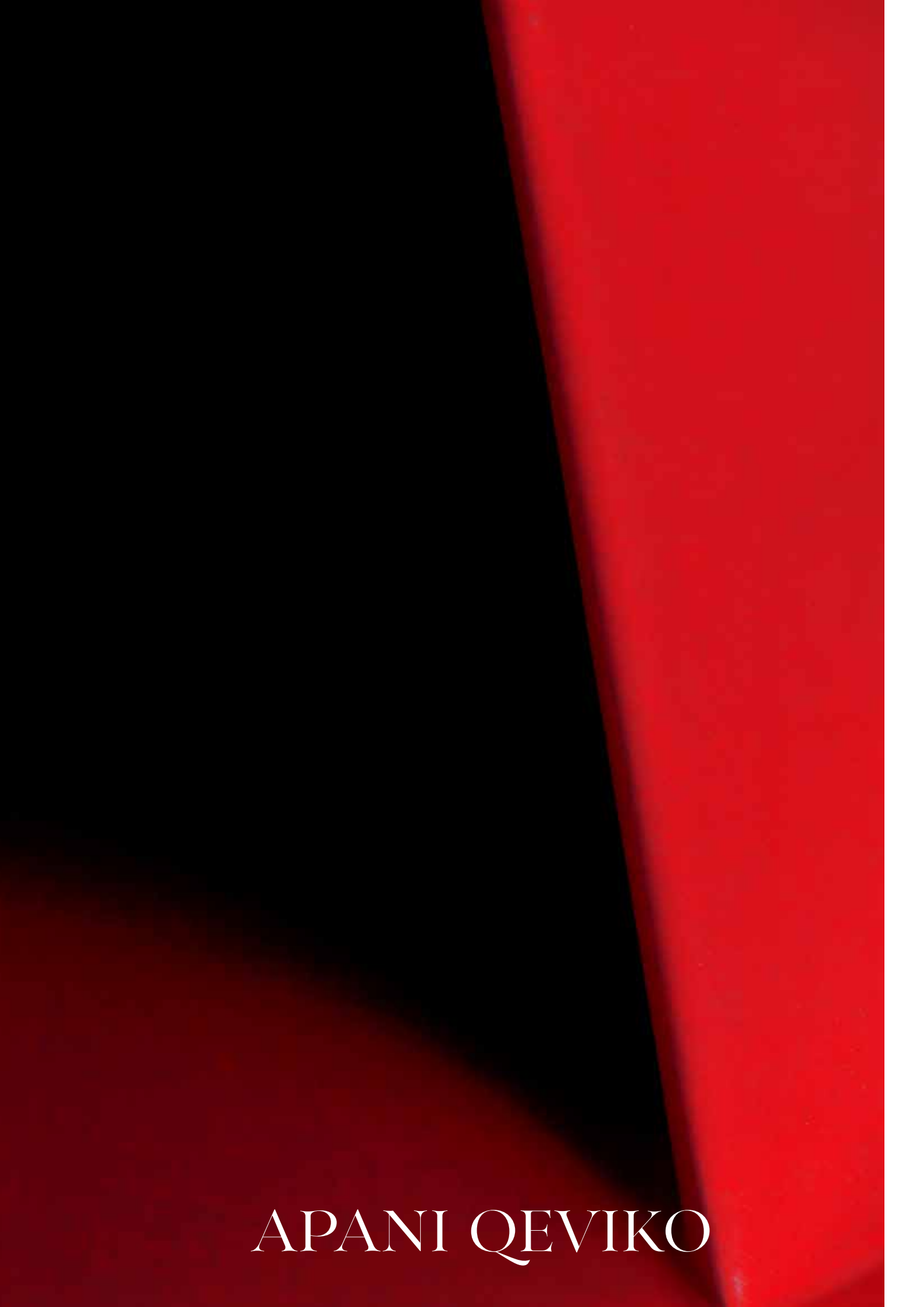
その結果として生まれるのは、
正確に定義されたインパルス、
そしてまったく異なる
リスニング体験です。



RADIATION

— Vert. f = 300Hz
— Vert. f = 450Hz
— Vert. f = 600Hz
Distance = 1,8m





APANI QEVIKO

時間整合再生

時間整合再生のための
デジタル信号処理

システムに起因する周波数特性と位相特性のピークやディップ、音とタイミングの歪みは、デジタルで補正され、効果的に防がれます。

なぜなら、現実の世界は決して理想的ではないからです。

機械的特性。
電気的特性。
シャーシの挙動。
キャビネットのエッジ。
物理的パラメーター。

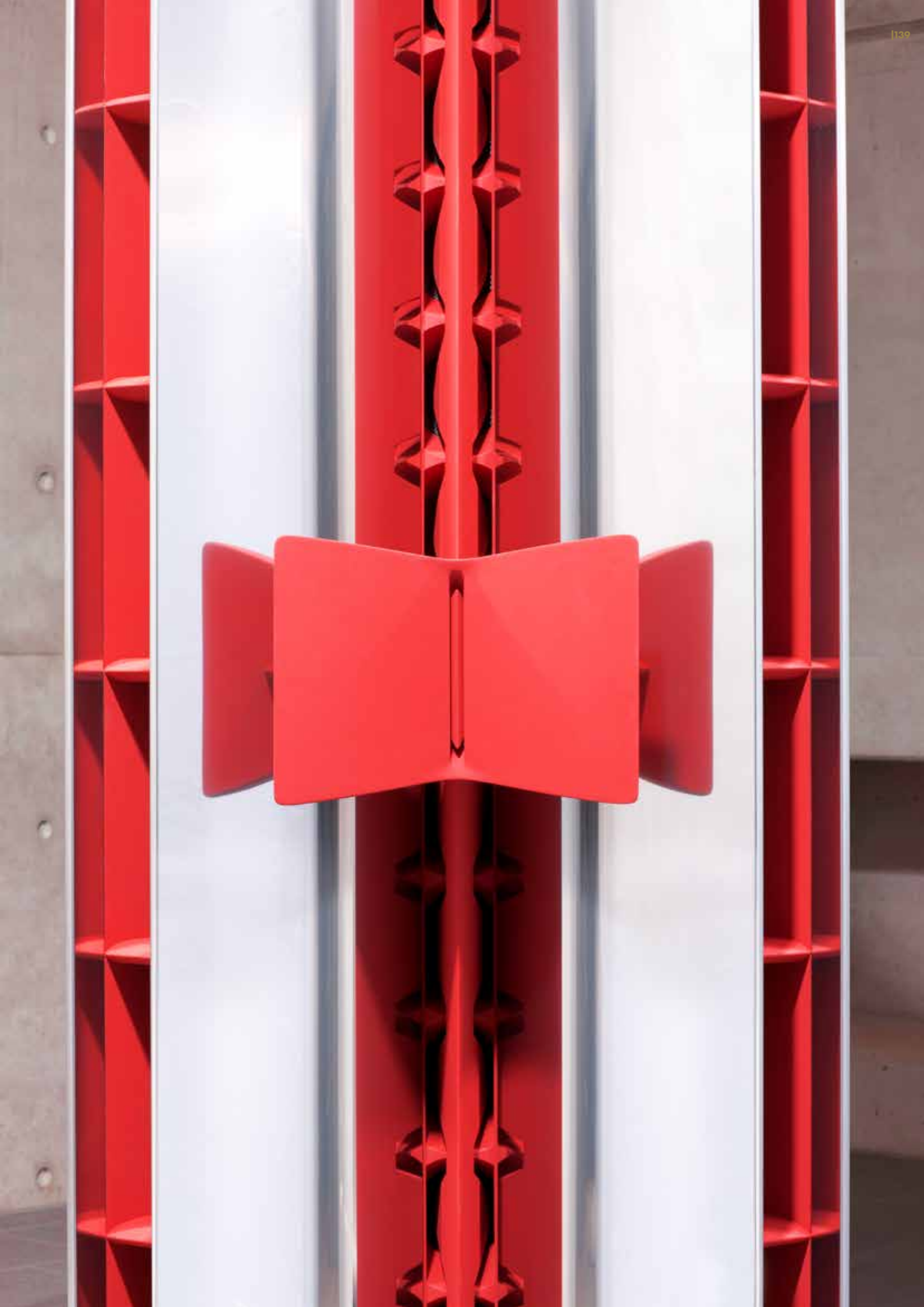
それらすべては、適切に対処されなければ、誤差のない再生を妨げる可能性があります。

空間的 聴覚

空間は加えられるものではありません。
空間は解釈されるものです。

Lineシリーズのアプローチでは、
システムに起因する誤差、
すなわち周波数と位相における
ピークやディップが補正されます。

それらが部屋のシグネチャーとなることなく、
あなたの現実となることもないように。





APANI QEVIKO





APANI QEVIKO

唯一の 真正な 出来事として

耳は「量」や「位相」を聴いているではありません。それは、連続した情報の流れを受け取っています。

時間軸に沿ってそれぞれの耳に届く
空気圧の変化が、
完全な音響的アンビエンスを生み出します。

音量。方向。空間情報。

FIRTEC™は信号を分離します。

• 低音 • ミッドレンジ • ミッドハイレンジ

そして放射される音楽信号を補正し、
音波が聴き手の耳に到達した瞬間、
正確で複雑な音の出来事として
結び合うようにします。

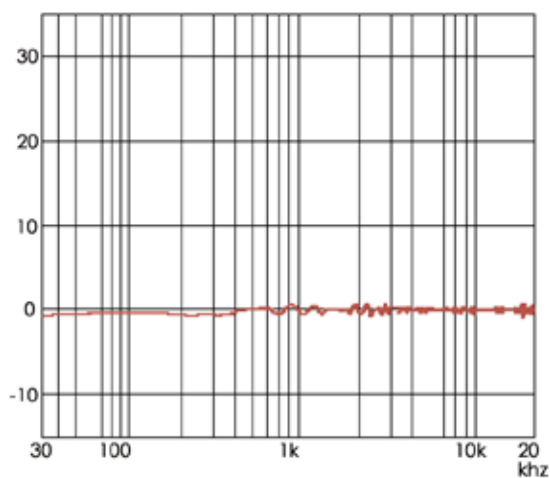
このクロスオーバー方式を持つシステムの
インパルス応答には、
位相歪みを持つ成分が含まれず、
極めてクリーンで、
オーバーシュート也没有。

さらに、聴き手の好みに応じて、
ラウドスピーカーはフィルターによって
部屋に最適化することができます。

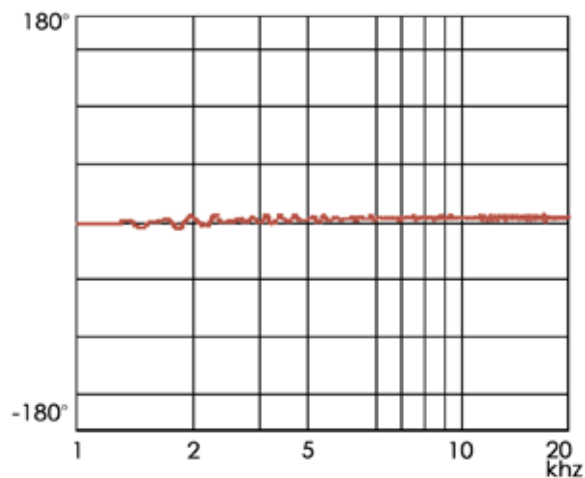
測定 できるもの について

装飾としてではなく。
責任として。

FIRTEC™後の 周波数特性



FIRTEC™後の 位相特性





APANI QEVIKO

開発者 について



Johannes Siegler

*Managing Director, Head of Development
Backes&Müller High End Audio*



この哲学において、目標はシンプルです。

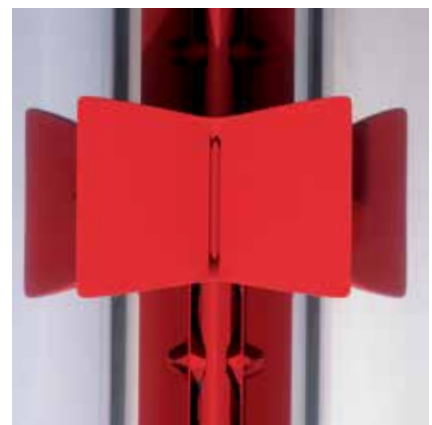
音響的に言えば、ラウドスピーカーを消すこと。APANI Music Transformerを音響的に消し去り、出来事だけが残るようにすることです。

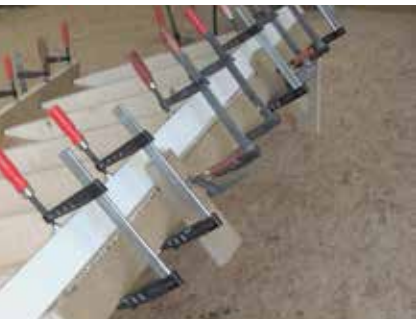
音楽的出来事全体が
自らを切り離し、
独立して成立しなければなりません。
部屋の中で安定して。

そのとき初めて、本物であることは感情的な真実になります。そしてラウドスピーカーは人とともに暮らすものだからこそ、家具でもあります。リビングルームに溶け込みながら、自らの美的な存在感を示す、独立した個性的なピースです。

そのため、すべてのラウドスピーカーはクラフトマンシップにおいて、デザインにおいて、素材の選択において、ひとつの芸術作品でもあります。お客様の希望に合わせた個別のカスタマイズは、当然のことです。

そしてそれには、高い内製率と、完全なインハウス・ソリューション能力を備えたメーカーが必要です。





ハンドクラフト

オーディオファイル・ ラウドスピーカー マニユファクトリー

1970年代半ば以来、Backes & Müllerは
精密なクラフトマンシップによって
“Made in Germany”のアクティブ・ラウドスピーカーを
製作してきました。

創業当初から、その焦点は明確でした。
本物であり、真正な再生。
その目的は、過去と未来のイノベーションを
一貫して導いています。

堅実なエンジニアリングによる実現は、
国際的な評価と成功をもたらしました。
制御型アクティブ・テクノロジーの導入により、
Backes & Müllerは技術的な飛躍を遂げ、
この種のテクノロジーにおける
世界的なリーディング・メーカーとされています。

デジタル信号処理によって、
時間構造は初めてリニア化されました。
それは、本物の仮想ステージを再現するための
「前提条件」とされています。

すべてのアイデア、コンセプト、
テクノロジー、デザインは、
ひとつの目的に仕えています。

音楽信号を、可能な限り真実で、
歪みのない音へと変換すること。





APANI QEVIKO

仕上げと スタイル

APANI QEVIKOは、
ビスポークで製作されます。

なぜなら、音におけるステートメントには、
素材におけるステートメントがふさわしいからです。

仕上げと素材のビスポークな組み合わせが可能です。選択肢はお客様との協議のもとで検討され、その後、個別に製作されます。



ピアノラッカー。
高品質な天然木突板。
ステンレススチール。

APANIのビスポーク・オプションは、お客様とともに定義され、その後、個別に製作されます。



技術仕様

Power.....	> 4500W, bass, midrange and tweeter, analogue MOSFET
Phase.....	Linear phase via FIRTEC™ and DMC™
Frequency range.....	22 – 24,000 Hz (+/-3 dB)
Input Analogue-In.....	XLR-Symmetrical /+4 dBV
Input Digital-In.....	XLR-AES3-Format for direct connection to digital sources
Signal processing.....	Digital signal processing with FIRTEC™ equalization, time alignment, linear-phase frequency crossover analog controlled APANI - DMC2.0™ -bass chassis
Room Adjustment.....	Room adaptation with optional PPG with 6 parametric EQs, subwoofer mode delay, level software and 3 PEQ filters and high and low shelving, delay, level.
Dimensions.....	W x H x D: 100 x 230 x 125 cm
Weight.....	250 kg



APANI QEVIKO

The background of the page is a dark, atmospheric landscape. The lower half shows a body of water, possibly a lake or a wide river, with a dark, silty shoreline in the foreground. The water reflects a faint light from the right side. The upper half is a dark, cloudy sky. The text "CYLINDRA V·CB" is centered in the upper half, framed by two thin, curved horizontal lines.

CYLINDRA V·CB



CYLINDRA V·CB



APANI x B&M

THE MUSIC TRANSFORMER

ノイズに満ちた世界の中で、Cylindraは別格の存在です。ラウドスピーカーとしてではなく、Music Transformerとして。ほかのものが音を再生する場所で、Cylindraはそれを変容させます。電氣的インパルスから生きた感情へ。振動から存在へ。録音から純粋な体験へ。

その垂直波アーキテクチャ、バイオニック共振制御、そして緻密にハンドチューニングされた周波数シグネチャーは、ひとつの目的へと融合します。アーティストの意図を、あなたの感覚の言語へと翻訳することです。

すべてのCylindraは、未来のリスニングルームで個別にファイン調整されます。空間のジオメトリー、素材性、そしてオーナー自身の聴覚の指紋に合わせてキャリブレーションされます。

同じ部屋は二つとありません。
同じ聴き手も二人といません。
だから、同じCylindraも二つと存在しません。

ドイツのエンジニアリングが、APANIの哲学と出会います。As Pure As Nature Intended。

The Music Transformerは、この約束を体現します。
それは芸術と知覚のあいだに架かる橋です。
測定できるものと、魔法のように感じられるもののあいだに。

ラウドスピーカーは機械です。Cylindraは変容です。音楽を、その最も純粋で、最も自然なかたちで再創造するものです。

APANI CYLINDRA – The Music Transformer.
音が真実になる場所。

APANI CYLINDRA V・CB – FPGAベースのFIRTEC™、DMC制御バス、そしてシリンダー波ハイレンジを備えた、カスタム・ビスポークのVerticalhornリファレンス。位相整合性を保ち、感情に忠実な再生のために。



CYLINDRA V·CB

THE CUSTOM BESPOKE VERTICALHORN REFERENCE

スイスの精密さ、ドイツのエンジニアリング、そして自然志向のAPANI哲学がCylindra V·CBにおいて融合し、音楽をその最も純粋な本質で捉えるラウドスピーカーを生み出します。透明で、力強く、感情に深く響く存在です。Verticalhornジオメトリー、Cylinder Waveハイレンジ、そしてAPANI DMC™制御バスエンジンの独自のシナジーが、ホログラフィックなステージ、漆黒の背景、そして構造を持つ深い低音を生み出します。効果としてではなく。

Cylindra V·CBは、Verticalhornジオメトリー、シリンダー波ハイレンジ、そしてDMC™制御の12×8インチ・バスエンジンを統合し、アーティファクトのない音楽的真実を届けます。FPGA設計によるFIRTEC™プロセッサーは、リニアフェーズと時間的に完全なつながりを確保します。FullScale™は、入口から出口まで完全な解像度を保ちます。その結果として生まれるのは、ホログラフィックな定位、汚れのないインパルス応答、そして構造化された深い低音です。

カスタム・ビスポーク。
One-of-One。
As Pure As Nature Intended.

**ラウドスピーカーが、
あなたを適応させるの
ではありません。**





それは、
あなたが誰である
かを学びます。

CYLINDRA V·CB



CYLINDRA V·CB

UNIQUE PERFORMANCE POINTS

キャビネット&メカニクス

1台のラウドスピーカーに2,000点を超えるコンポーネント。その数が、構造の複雑さを物語っています。マルチマテリアルのサンドイッチ構造が剛性と低共振を確保し、低音、ミッドレンジ、ハイレンジはそれぞれ独立した、機械的にデカップリングされたチャンバーで動作します。すべての電子セクションは完全に隔離されています。プッシュプル・アーキテクチャは構造全体を安定させ、フルパフォーマンス時でさえキャビネットは不動のままです。

仕上げ - Bespoke by APANI

私たちのラウドスピーカーは唯一無二です。お客様のあらゆる要望を実現できます。さらに、APANI独自のエクスクルーシブな仕上げオプションによって補完されます。例-Perlato。ゴールドとブラックによる洗練された構成。繊細な奥行きを持ち、ほぼあらゆるインテリアに自然に溶け込みながら、その空間を最高の美的水準へと高めます。

デジタルチェーン- APANI FullScale™

CD、DVD、SACD、ストリーミングのいずれであっても、音楽はデジタル領域においてロスレスに存在します。FullScale™は、信号が音響的な操作を受けることなく、ワード長を一切削減されることなく、ソースからラウドスピーカーへ直接届くことを保証します。音量調整はチェーンの最後でのみ行われ、プリアンプ段では行われません。これにより、完全な解像度とマイクロダイナミクスが保たれ、ケーブルや変換による損失は排除されます。

APANI ICEデジタル・プリアンプによって、完璧に補完されます。

CYLINDRA V·CB



CYLINDRA V·CB

UNIQUE PERFORMANCE POINTS

Vertical Horn – Form Follows Function

垂直ホーン・ジオメトリーは側方反射を抑制し、音響エネルギーをステージへ集中させます。その結果、安定した定位、彫刻的な奥行き、そして複数のリスニングポジションにわたる一貫した音色が得られます。

High Range – すべての倍音のためのシリンダー波

800 Hzを超える帯域では、APANIによって洗練されたシリンダー波ホーンが引き継ぎます。 $\pm 15^\circ$ の垂直指向性により、天井高にかかわらず聴き手を最適にカバーし、天井および床からの反射を効果的に低減します。背面に配置された調整ホイールによって、音響ビームをリスニングポジションへ精密に合わせることができます。いわば、ヴァーチャル・ビームステアリングです。

Midrange – 基音帯域におけるシリンダー波

APANI Midrange Driver Arrayは、ミッドバンドにおいてシリンダー波を生成します。各ドライバーは、極小エアギャップを持つ高性能モーターによって駆動されます。アモルファス・ポリマーボードと精密プレス加工アルミニウムによるサンドイッチ構造の振動板は、表面コーティングによって寄生的な分割振動から解放されています。

すべてのコーンに対して、カラーのカスタマイズが可能です。



CYLINDRA V·CB

UNIQUE PERFORMANCE POINTS

DMC2.0™ –次世代の精密さ: 新たに設計されたセンサーと最適化された制御パラメーターにより、コーン制御の精度は4倍に向上します、特許出願中。聴き手はその結果を、より速く、より正確な再生として知覚します。最深部の低音までリニアな振幅特性と位相特性が伸び、可聴上のレイテンシーはありません。

BASS – THE ENGINE: 12基の8インチドライバーが、APANI DMC™によって駆動されるセンサー制御プッシュプル構成で動作します。制御システムはコーンの動きをリアルタイムで測定し、音楽信号が求める目標動作と比較します。これにより、慣性や素材に起因する共振が、可聴化する前に抑えられます。音楽が止まるとき、たとえば弦が突然ミュートされる瞬間、コーンも即座に停止します。疑似的な低音を残すことなく。

その結果として生まれるのは、妥協のないインパルス精度と、効果ではなく構造を持つ低域です。

リングングもオーバーシュートもない、精密なコーン制御。

純粋なパフォーマンス。



APANI

As Pure As Nature Intended
Audiophile



CYLINDRA V・CB

UNIQUE PERFORMANCE POINTS

APANI FIRTEC™ –The Processor: 従来型のSHARC DSPも標準的なプロセッサーも、APANIのオーディオ処理が求める妥協なき要求を満たすことはできません。そのためFIRTEC™は、FPGA上に直接モデル化された、テーラーメイドのDSPアーキテクチャとして設計されました。最大限の演算精度、リニアフェーズ、完全なタイミング。

FIRTEC™の信号経路は、音楽をそれぞれの帯域へ分配し、時間的なずれを補正し、音色を保ちます。その結果として生まれるのは、レビューでしばしば真正でホログラフィックと表現されるサウンドステージです。

- マイクロダイナミクスを損なわず、音色のニュアンスを保つ黒いキャンバス。
- 鋭いフォーカスとリアルな奥行きを持つホログラフィックなステージング。部屋の高さに左右されません。
- 構造を持つ深い低音。音は録音どおりに始まり、録音どおりに止まります。
- シリンダー波の拡散とビームステアリングにより、リスニングエリア全体で一貫性を保ちます。

かつて
聞いた
ことの
ない
音

CYLINDRA V·CB

UNIQUE PERFORMANCE POINTS TECHNICAL SPECIFICATIONS

Power.....	>2 kW, bass, midrange and tweeter, analog MOSFET
Phase.....	Phase linear through FIRTEC™ and DMC2.0™
Frequencyrange.....	22–24,000Hz (+/-3dB)
Input.....	Analogue-InXLR-Symmetrical/+4 dBV Digital-In XLR-AES3-Format for direct connection to digital sources
Signal Processing.....	Digital signal processing with FIRTEC™ equalization, time alignment, phase-linear crossover, analog controlled APANI - DMC2.0™ -bass chassis
Room Adjustment.....	Room adaptation with optional PPG with 6 parametric EQs, subwoofer mode delay, level
Dimensions.....	(width x height x depth) 74cm x 170cm x 64cm
Weight.....	130kg

- **The Engine: 12× 8" bass drivers with APANI DMC™ control** Follows the music signal precisely – no slow attack or overhang. Patents: DE102015102643A, DE102013010570A1.
- **2000 W high performance amplification** (passively cooled, fanless) for effortless dynamics and absolute silence.
- **Midrange Cylinder Wave Array** for even level distribution and natural vocal realism.
- **High range Cylinder Wave Horn** (>800 Hz) with ±15° vertical window: minimizes floor/ceiling reflections, maximizes focus.
- **Virtual Beam Steering:** aim the acoustic beam to the listening seat via rear dial.
- **APANI FIRTEC™ (FPGA DSP):** linear phase crossover, true time alignment, phase-coherent handoffs.
- **APANI FullScale™ digital chain:** bit-perfect signal path; volume set at the end–full resolution preserved.
- **APANI DMC2.0™** (patent pending): next-gen sensor, ~4× higher control precision; linear amplitude and phase down to the low cutoff.
- **Monocoque cabinet craft:** >2,000 parts, multi-material sandwich, discrete chambers (bass/mid/high), sealed electronics; push-pull calms the whole structure.
- **Bespoke finishes:** each piece is a unique build–e.g., **Perlato** (APANI exclusive gold/black depth shimmer).

APANI BioLens™

自然が進化の過程で磨き
上げてきた孔構造と格子
構造から着想を得て。
自然な臨場感、揺るぎな
い静けさ、そして卓越した
音楽的解像度へ。



CYLINDRA V·CB

INDIVIDUAL SOUND SIGNATURE – FINAL FINE-TUNING IN YOUR LISTENING ROOM

すべてのAPANI CYLINDRA V·CBは、単に製造されるだけではありません。オーナーの部屋で完成されます。設置後、認定されたAPANIマスターエンジニアが、現地で精密なファイン・チューニングを行います。APANI FIRTEC™システムと、高解像度の空間・時間測定を用いて、ラウドスピーカーは音響条件と、オーナー自身の主観的なリスニング・プロフィールに合わせて調整されます。

その結果として生まれるのは、空間性、エネルギー、透明度に対する オーナー個人の知覚に正確に一致する、テーラーメイドのサウンドシグネチャーです。より温かく、より有機的に。あるいはニュートラルで、分析的で、開放的に。CYLINDRAは標準ではなく、あなたの耳に従います。すべての調整は、APANI Sound Identity Map™に記録されます。引っ越しや部屋の変更があった場合でも、後から再現し、さらに発展させることができます。これにより、すべてのCYLINDRA V·CBは、あなたの個性の音響的な延長となります。指紋のように唯一無二に。

クイックチェックリスト：一目で確認

- ・ ファントムセンターが動く場合 → L/Rを±0.1 dB以内に合わせ、左右対称性を整える。
- ・ 声が平坦、またはにじんで聴こえる場合 → トーインを微調整し、一次反射を処理する。
- ・ ステージが狭い場合 → トーインを減らす。
- ・ すべてが平面的に感じられる場合 → 後壁に拡散を加え、座席を少し前へ移動する。
- ・ 奥行きが不足している場合 → 側壁/後方の初期反射を処理する。(20～80 msの時間窓)
- ・ シンバルが刺さる、または荒く聴こえる場合 → 音量を下げて聴き、共振やクロスオーバーを確認する。
- ・ 低音が膨らむ場合 → スピーカーまたは座席を10～30 cm移動し、サブウーファースのクロスオーバー/位相を調整する。
- ・ 低音が残る場合 → サブウーファースのディレイ/位相を微調整する。
- ・ グループが遅く、または急いで感じられる場合
→ サブウーファースのディレイを±方向に微調整し、極性反転も試す。
- ・ 小さなディテールが消える場合 → ノイズ源を移動し、ノイズフロアを下げる。
- ・ わずかな頭の動きで音色が変わる場合 → 初期反射を抑える。
- ・ 声がクロスオーバー付近で飛ぶ場合 → 時間/位相を合わせ、座席の高さを確認する。
- ・ 会話が聞き取りにくい場合 → 強い側方反射を抑える。(C50を高める)
- ・ 音楽が小さく、乾きすぎて感じられる場合 → 拡散を加える、または距離を増やす。(C80のバランスを取る)
- ・ ABXで有意差が出ない場合 → 試行回数を増やす、またはより明確な素材を用いる。
- ・ 聴き取れる差はないが好みがある場合 → 使いやすさ、価格、機能で判断する。



IONA

THE MUSIC TRANSFORMER

IONAは、モノリシックな音楽的ボディとして構想されています。

静かで、建築的な存在感。
柔らかなラジラス、連続する面、視覚的なノイズのない造形。
何も叫びません。
何も飾りません。
すべてが機能に仕えています。

フロントの構成は、その意図をすぐに明らかにします。
左右対称に配置された二つのトランスデューサーが、
中央の音響ウェーブガイドを囲みます。

それは効果のためのホーンではありません。
空気と時間のための、制御された開口です。

IONAは音を投射しません。
それを解き放ちます。

複合素材によるバイオニック・ラティスグリルは、
装飾ではありません。

それらは音響的な高解像度レンズとして機能します。
有機的で、不規則で、生きているもの。
自然の細胞構造に着想を得ています。

それらは音を精密に形づくり、拡散し、解像します。
何も強いられていないときの自然のように。

IONAは、音楽的な柱のように直立します。
安定し、地に根ざし、
語り出す前は静かです。

そして語り出すとき、
それは何も加えません。

変容させるのです。



IONA





IONA

IONA

WHAT YOU HEAR

ドライバーは聴こえません。
クロスオーバーポイントも聴こえません。
「ハイファイ」も聴こえません。

聴こえるのは、攻撃性のないスケール。
鋭さのないディテール。
圧縮感のないダイナミクス。

IONAは、ひとつの音響的生命体のように振る舞います。
声は前に出すぎることも、遠ざかることもありません。
ただ、そこに存在します。

**音楽はもはや
「再生」されるのではあ
りません。
存在するのです。**

SIQT | Schweizer Institut
für Qualitätstests GmbH



IONA



× FJORD



Composite bionic lattice grille acting as an acoustic high-resolution lens. Biomimetic geometry diffuses and resolves sound waves with natural phase coherence, allowing air and information to pass without compression or coloration.

IONA × FJORD

ONE BODY. ONE VOICE.

IONAとFJORDは共に、
モジュラーな音楽的アーキテクチャを形成します。
キャラクターは統一され、配置は自由です。
垂直に揃えても、彫刻のように空間へ分散させても、
システムはひとつの声を保ちます。変わるのは、空間との関係だけです。

THE FOUNDATION EXTENSION

FJORDは、IONAのボディの
下方への継続です。

サブウーファーではありません。
アドオンではありません。
別の製品でもありません。

それは、柱の下にある大地です。

視覚的に、FJORDは同じ静かなジオメトリー、
同じ柔らかな移行、
同じ複合バイオニック・ラティスグリルを反復します。

今度はそれらが、
質量と権威のためにスケールされた
音響的な高解像度レンズとして機能します。

側面に配置された放射面は意図的です。

低音は、向きを指す必要がありません。
低音に必要なのは、結合することです。

FJORDは部屋を加圧しません。
部屋を支えるのです。



IONA x



FJORD

SIQT | Schweizer Institut
für Qualitätstests GmbH



IONA x FJORD

FJORD

FREEDOM OF PLACEMENT

彫刻であり、制約ではない

FJORDはIONAの物理的な基盤として構想されていますが、
その下に置かれることに縛られてはいません。
音楽を愛する人が望むなら、FJORDは部屋のどこにでも自由に配置できます。
建築が求める場所へ。美意識が導く場所へ。
あるいは個人の直感が示す場所へ。

彫刻的なオブジェクトとして、FJORDは位置に左右されることなく、
その音響的な権威を保ちます。音楽的な一貫性は損なわれません。
システムは適応します。音は物理に従います。
デザインは自由に従います。

FJORD – あなたが感じるもの

低域は強調されるのではありません。
完成されるのです。

そこに「低音イベント」はありません。
膨らみ也没有ありません。
映画的な誇張也没有ありません。

代わりにあるのは、

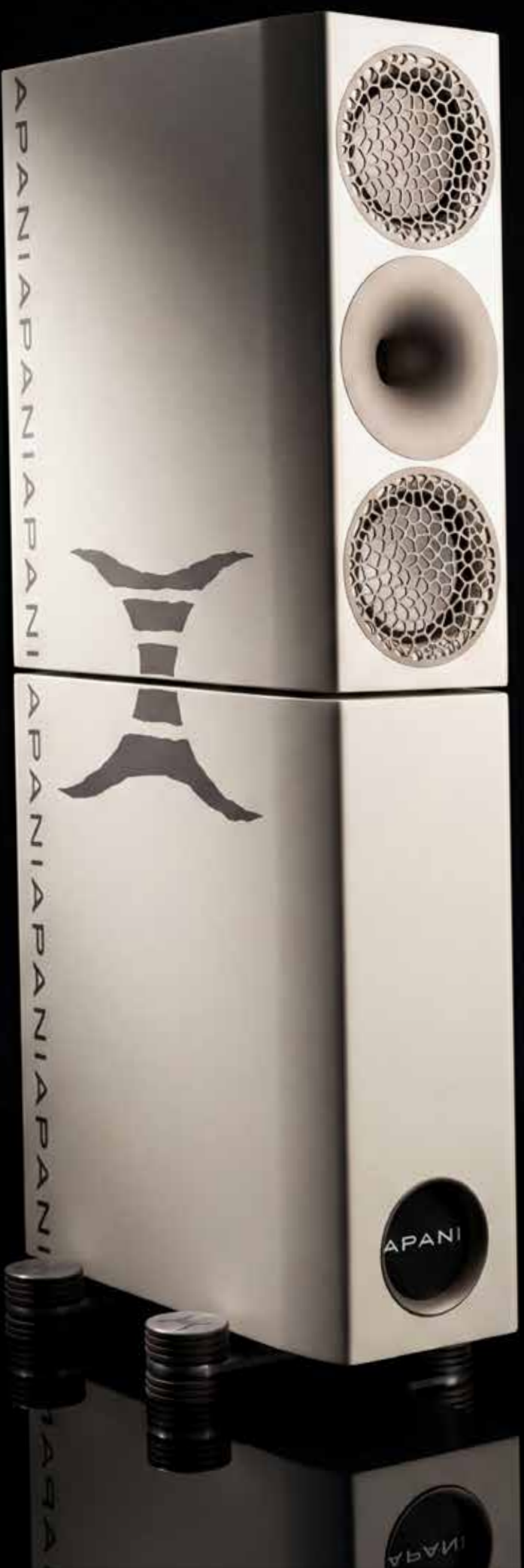
重さのない重量感。
暗さのない深さ。
力みのない力。

FJORDが働いている音は聴こえません。

あなたが気づくのは、
部屋が突然、正しく感じられることです。

まるで床そのものが、
音楽の呼吸を学んだかのように。

TECHNICAL SPECIFICATIONS



IONA

Side 1 x	DMC2.0™ - controlled 12" high performance woofer
Front 2 x	6" BM - Midrange-Driver
Front 1 x	60° coverage horn for HF dispersion control
Amping	> 1600 Watt per pair
Frequency-range	22 - 24000 Hz
Input sensitivity	20 dBu
AD/DA Converter	24-bit sigma-delta DA converter, 192 kHz technology
Analog IN, OUT	XLR-symmetric, Subwoofer-Out
Digital IN	AES-IN
Subwoofer-Out	processed Subwoofer-Out
Processing	FIRTEC Processor
Dimensions	W x H x D: 20 cm x 47 cm x 52 cm
Weight	22 kg

FJORD

Side 1 x	DMC2.0™ - controlled 12" high performance woofer
Amping	> 1600 Watt per pair
Frequency-range	20 - 80 Hz controlled by IONA
Input sensitivity	20 dBu
Dimensions	W x H x D: 20 cm x 47 cm x 52 cm



AURIS V

親密なリスニングの 芸術







AURIS V

AURIS V

親密なリスニングの 芸術

すべての音楽的真実が、大きな部屋を必要とするわけではありません。
いくつかの真実は、近い距離でこそ最もよく開きます。
音色、タイミング、空間が、聴き手と直接出会う場所で。

Auris Vによって、APANIは
コンパクトなオーディオファイル・リスニング・インストゥルメントを提示します。
冷たさのない明晰さを求める音楽愛好家のために。分析的になりすぎない精密さを
求める人のために。誇張のない感情を求める人のために。Auris Vはスタジオモニター
ではありません。それはリスニングの伴侶です。

ひとつの音。ひとつの起源。

Auris Vの中心には、APANI UniCore™ Architectureがあります。
すべての周波数がひとつの自然な中心から現れる、単一の音響ソースです。
この原理は、自然界における音の在り方を映しています。

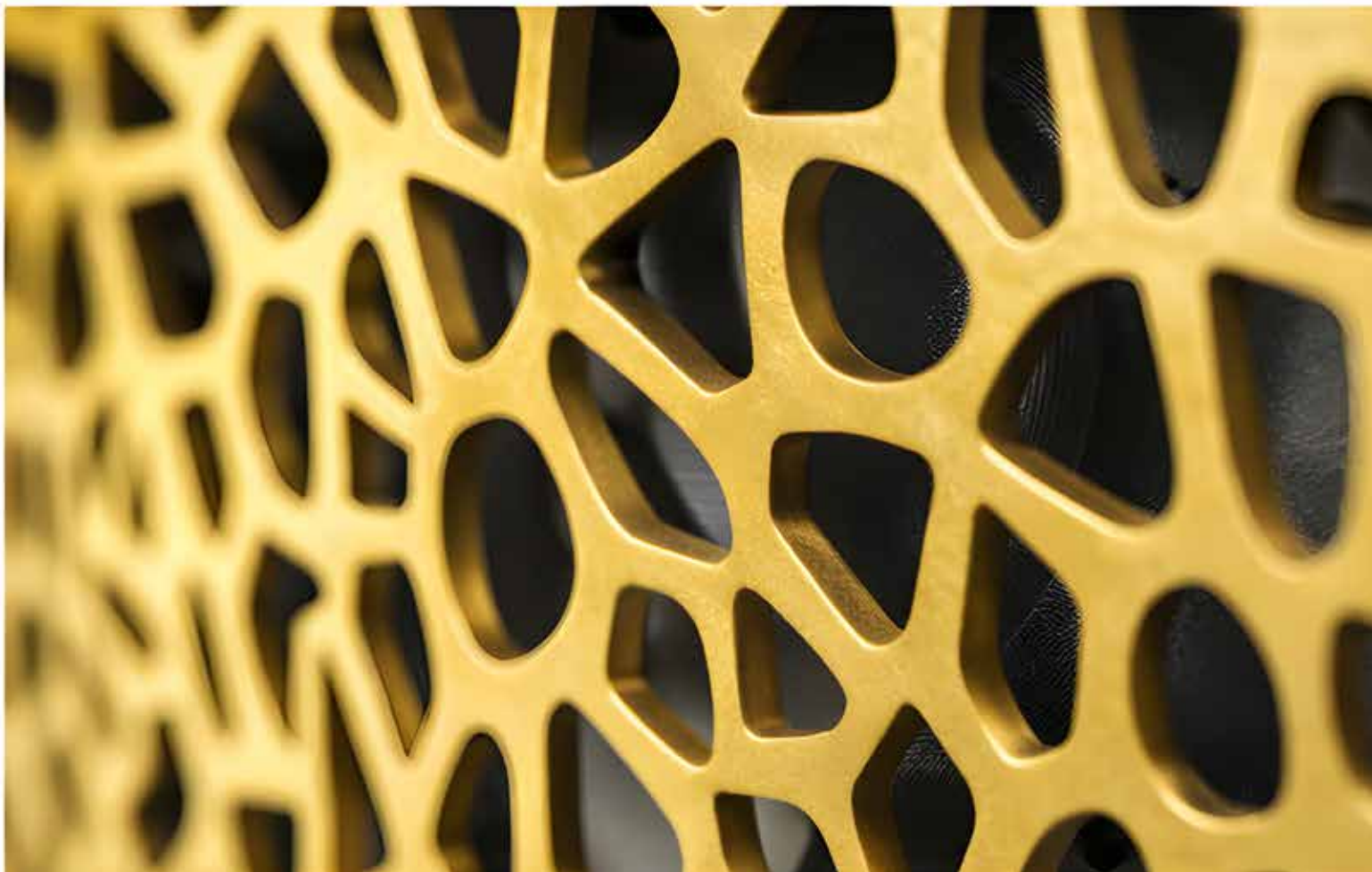
分離されず、重ねられず、一貫していること。

その結果として生まれるのは、
安定し、穏やかで、信じられるサウンドステージです。

声はしっかりと定位します。
楽器は自由に呼吸します。
音楽は effortless に広がります。







AURIS V

時間を、感情に 整合させる

Auris Vは、位相整合されたFIR処理を採用しています。
紙の上で印象づけるためではありません。
時間的インテグリティを取り戻すためです。
音楽を生きているものとして感じさせる、
繊細なタイミングの関係性を。

タイミングが正しいとき、耳は緊張を解きます。
耳が緊張を解くとき、感情は流れ始めます。
だからこそAuris Vは、何時間でも聴き続けることができます。

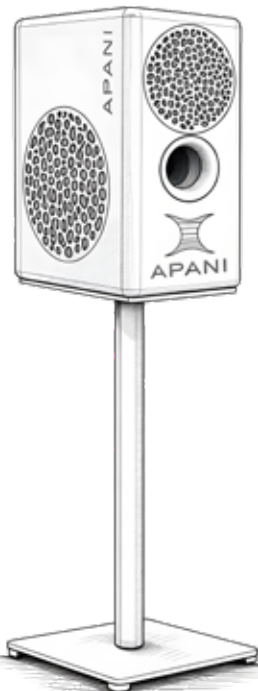
疲労なく、緊張なく、
音量を下げたくなる衝動もなく。

実際の部屋のために。
実際の暮らしのために。

生活空間はスタジオではありません。

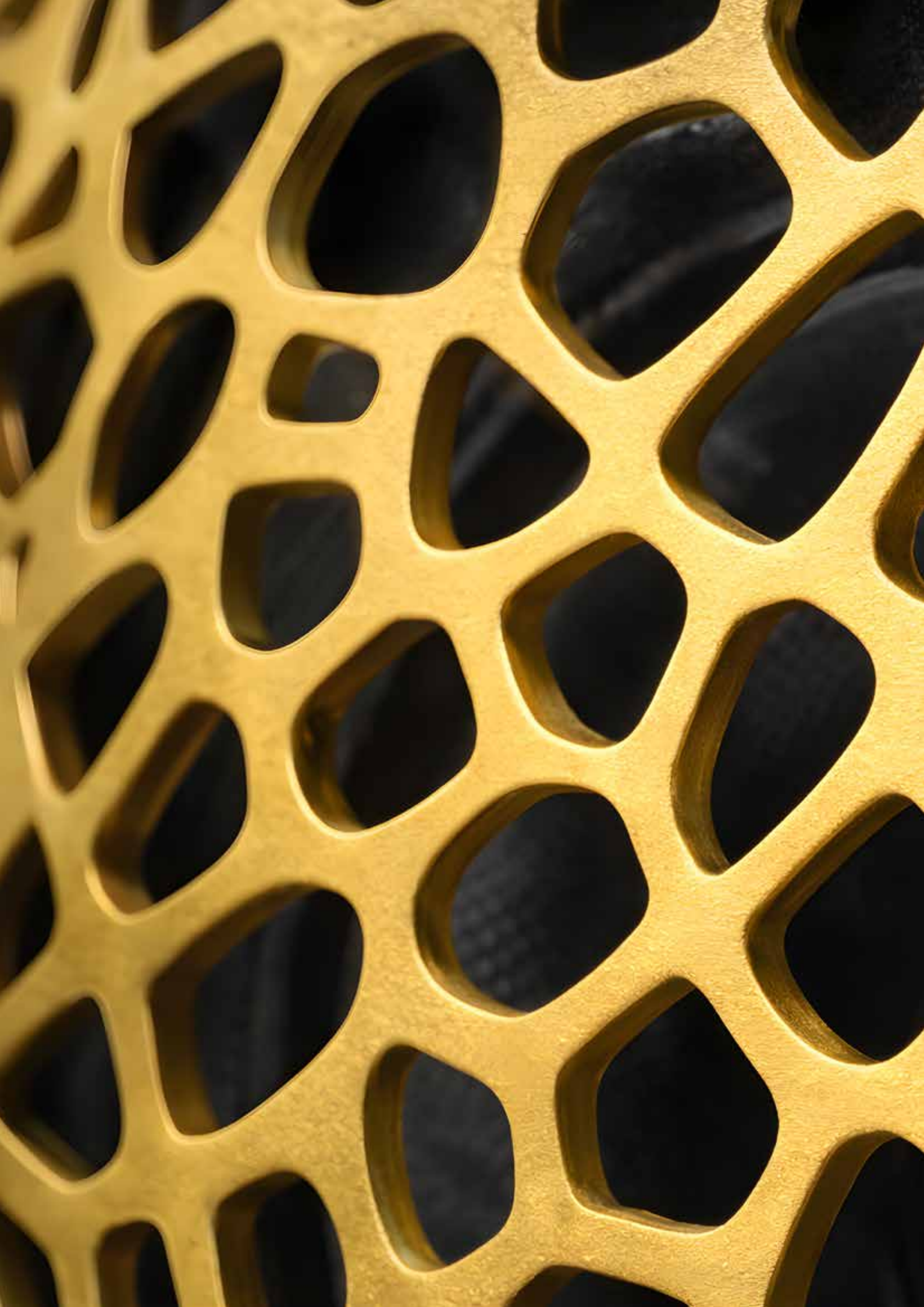
そして、スタジオである必要もありません。
Auris Vは、音響的に完全ではない環境でも
優雅に力を発揮するようにチューニングされています。
周囲に穏やかに適応しながら、
音色のバランスと空間的インテグリティを保ちます。

No harsh reflections.
No artificial spotlighting.
Just music - As Pure As Nature Intended.





AURIS V





AURIS V

APANI サウンド シグネチャー

Auris Vは、私たちの大型システムと同じAPANI哲学を宿しています。

自然な音色バランス。
安定した三次元イメージング。
リスニング疲労のないこと。
録音への敬意。
そして聴き手への敬意。

すべてのAuris Vは、
単にベンチで測定されるのではなく、
リスニングルームでファイン・チューニングされます。

なぜなら音は数値ではなく、
知覚だからです。

誠実につくられるもの。

“Made in Germany”
開発、組み立て、品質管理をひとつの場所で。

マッチドペア。
最小限の公差。
長期的な信頼性。

それは背面パネルに書かれているからではありません。
聴けばわかるからです。

Auris Vは誰のためのものか。

深く聴く音楽愛好家のために。

スペクタクルよりも一貫性を重んじる
オーディオファイルのために。

サイズよりも品質が重要な空間のために。

音楽をテストではなく、
体験だと信じる聴き手のために。



AURIS V

THE ART OF LISTENING - ON THE WALL.

AND ABOVE YOU.







AURIS V

AURIS V

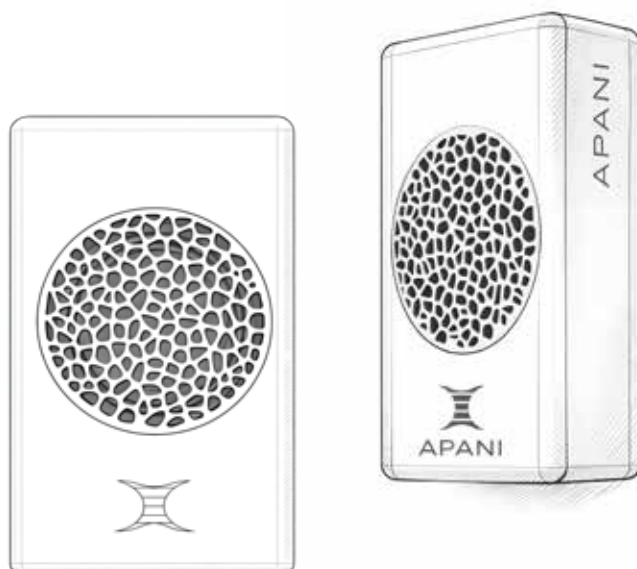
壁に。そしてあなたの上に。

すべての部屋が、距離を許すわけではありません。
しかし真実に、距離は必要ありません。
Auris OnWallは、Aurisのウォールエディションです。
実際の生活空間のためにつくられた
リスニング・インストゥルメント。

暮らしに近く、建築に近く、その瞬間に近い存在です。
それは空間上の妥協ではありません。明晰さへの決断です。
そしてそれは、単なる“OnWall”以上のものです。
Auris OnWallは、APANI Atmos Setupへの第一歩です。
壁にも、天井にも設置できます。ステレオを超えたシステムを開き、
真の空間体験へと導きます。音楽は部屋の中に「置かれる」ではありません。
その中で起こるのです。多くのオンウォール・スピーカーは、音楽のアイデアのように
聴こえます。平面的で、硬く、説明可能なものとして。
Auris OnWallは、その反対を目指します。

誇張することなく、音楽を生きているものとして感じさせます。
声は人間らしさを保ちます。楽器はその身体を保ちます。
そして空間が開きます。

効果としてではなく、秩序の感覚として。



AURIS V

一貫性。スペクタクルではなく。

その中心に、Auris OnWallは同じAPANI DNAを宿しています。

部品から組み立てられるのではなく、
ひとつの全体として現れるサウンドステージです。
タイミングが正しいとき、耳は緊張を解きます。

耳が緊張を解くとき、
感情は effortless になります。
これは注意を求める音ではありません。
注意を自然に獲得する音です。
第三の次元への第一歩

APANI Atmosは、
「より多くのスピーカー」ではありません。
それは、より深い定位感です。
音があなただけに存在するのではなく、
あなたを包み込むこと。

精密に。安定して。信じられるものとして。

Auris OnWallは、
このレイヤーを清らかに開くために設計されています。

サラウンドとして。
ハイトとして。
天井スピーカーとして。

建築が配置を定める場所であっても、
音は自由であり続けなければなりません。
ここでは、壁面設置や天井設置は妥協ではありません。

それはコンセプトの一部です。Aurisのウォールエディション。
そしてAPANI Atmosへの入口。
壁面にも天井にも設置可能。
親密なリスニングを、
建築的に統合する。

As Pure As Nature Intended.



AURIS V



AURIS V

THE ART OF INTIMATE LISTENING







APANI AURIS V SUB
AURIS ファミリーのための
低音拡張。制御。一貫性。静かな権威。
AS PURE AS NATURE INTENDED.



AURIS V SUB

AURIS V SUB

低音拡張 — 重さではなく、真実。

低音は「より多く」あるべきものではありません。
低音は、正しくあるべきものです。

AURIS SUBは、Aurisファミリーのための低域拡張です

* システムの個性を変えることなく、完成へと導くために設計されています。
空間を膨らませるためではありません。ドラマを加えるためでもありません。

その目的は、録音に実際に含まれているものを取り戻すこと。
土台、スケール、そして静かな権威です。

時間の中の一瞬としての低音

多くのサブウーファーは、余韻の動きを加えることで重量感を生み出します。
最初の一分は印象的に感じられるかもしれませんが - しかしやがて部屋が支配し始めます。
ブーム、にじみ、単音的な共振。

AURIS SUBは、異なる原理に従います。
俊敏な立ち上がり、澄みきった停止。

低域が時間に忠実であるとき、その上にあるすべてがより明瞭になるからです。
声は安定し、音像は定まり、リズムは必然となります。





AURIS V SUB

統合であり、分離ではない

優れたサブウーファーは、姿を消すべきものです。
視覚的にではなく、音響的に。

AURIS SUBは、Aurisとシームレスに統合するようチューニングされています。
クロスオーバーは自らを主張せず、
低音は「どこから鳴っている」と感じさせず、
システム全体はひとつの整合した出来事として存在します。

サブウーファーを聴くではありません。
録音が完全な姿へと近づくのを聴くのです。

現実の部屋のために設計:
リビングルームは実験室ではありません。
AURIS SUBは、不完全な空間でも優雅に性能を発揮するよう構築されています

* 奥行きをもたらしながら、部屋の隅をノイズへと変えることはありません。

ブームはありません。
霧はありません。
圧力でごまかす技巧はありません。

ただ、土台だけがある。
安定し、制御され、信じられる土台が。

それが解き放つもの

AURIS SUBによって、Aurisは手にします。
過剰のないスケール。
疲労を伴わないインパクト。
歪みのない深み。
そして、低域における真実。
それこそが、システムを真にプレミアムな存在へと感じさせます。

誠実な低音は、誇示しないからです。
支えるのです。

AURIS



TECHNICAL SPECIFICATIONS

V SYSTEM

AURIS V

System	2-way coaxial point source
Driver	1" neodymium silk tweeter / 5" woofer-midrange 8" high-performance bass driver
DSP Architecture	FPGA implemented 24-bit ADC/DAC FIRTEC™ (Patent 19823110)
Signal Processing	FIR-Xover, limiter, 6 user EQ, shelving, delay, gain
Amplifiers	80 W / 180 W
SPL (max)	>110 dB peak / pair
Frequency response	45 – 22000 Hz
Dimensions	17 × 33 × 25 cm
Weight	approx. 10 kg

AURIS V ONWALL

System	2-way coaxial point source
Driver	1" neodymium silk tweeter / 5" woofer-midrange
DSP Architecture	FPGA implemented 24-bit ADC/DAC FIRTEC™ (Patent 19823110)
Signal Processing	FIR-Xover, limiter, 6 user EQ, shelving, delay, gain
Amplifiers	80 W / 180 W
SPL (max)	>110 dB peak / pair
Frequency response	80 – 22000 Hz
Dimensions	17 × 33 × 10 cm
Weight	approx. 10 kg

AURIS V SUB

Front 1 x	DMC2.0™ -controlled 12" high performance woofer
Amping	>800 Watt
Frequency-range	20 – 80 Hz controlled by AURIS
Input sensitivity	20 dBu
Dimensions	45 × 45 × 45 cm
Weight	30 kg



AURIS V

AURIS APANI ATMOS 体験

AURISシステムにおいて、APANIはこの哲学を完全な没入環境へと拡張します。Apani Atmosアーキテクチャとして構成されたAURISは、特別な存在へと変貌します。それは、連続した音響フィールドです。音はもはや、特定のラウドスピーカーから発せられるものとして認識されません。代わりに、リスナーを包み込む整合した球体を形成します。

声は、驚くほどの実在感を伴って空間に現れます。
ヴァイオリンは、目の前で息づきます。
ささやきは、肩のそばを通り過ぎるように感じられます。

ハイトチャンネルは天井を開き、リアチャンネルは部屋の境界を溶かします。
そこに現れるのは、従来の意味でのサラウンドサウンドではありません。それは、音響
的没入です。
音の内側へ。リスナーはしばしば、AURIS Atmos体験を同じ言葉で表現します。まるで
音の中にいるようだ、と。

この感覚は、誇張された効果によって生み出される錯覚ではありません。それは、時間
精度の結果です。位相整合とマイクロタイミングが保たれるとき、脳は自然界でそうす
るのと同じように、空間情報を正確に再構築することができます。聴覚システムは、進
化の過程で読み取るようになった手がかりを、突然受け取るのです。

距離。高さ。方向。空気。
そのすべてが自然に現れます。部屋は消え、音楽は環境となります。

APANI ATMOS LISTENING ARCHITECTURES

Apani Atmosは、従来のサラウンドシステムに真の第三次元を加えることで、その可能
性を拡張します。水平のサウンドステージを超えて、精密に定義された高さ方向のレイ
ヤーが、音のオブジェクトに空間内で自由な移動を可能にします。APANI Music Trans-
formersは、制御された位相挙動、精密な拡散、そして自然なダイナミクスによって、こ
の三次元の音響構造を再現します。以下の構成は、さまざまな部屋のサイズとパフォー
マンスレベルに応じた、代表的なシステムアーキテクチャを示しています。



APA
As Pure As Nature
Audio

AURIS V ATMOS

5.1.4 ATMOS SYSTEM

4台のAURIS Vラウドスピーカーがフロントおよびサラウンドレイヤーを形成し、精密なダイアログとヴォーカル再生のためにAURIS OnWallセンターが加わります。4つの統合型ハイトチャンネルが、リスニングポジションの上方にAtmosレイヤーを創出します。AURIS Subは、制御された低域エネルギーによってシステムを拡張します。中規模の部屋でリアルな三次元音響再生を実現する、コンパクトなリファレンス構成です。





APA
As Pure As Na
Audio

AURIS V ATMOS

7.2.4 REFERENCE SYSTEM

4台のAURISラウドスピーカーが、メインのフロントおよびサラウンドの基盤を構築し、センターおよびサイドチャンネル用として3台のAURIS OnWallユニットが加わります。4台のAURIS OnWallシーリングスピーカーが、完全なAtmos/ハイトレイヤーを生成します。2台のAURISサブウーファーが、部屋全体にわたる均衡の取れた低域分布を確保します。大規模なリスニングルームおよびホームシアター環境のために設計された、高解像度リファレンス構成です。



AURIS

TECHNICAL SPECIFICATIONS



V ATMOS

5.1.4 APANI ATMOS SYSTEM

Channels.....	10 (5.1.4)
Mainspeakers.....	4 × AURIS V
Centerspeaker.....	1 × AURIS OnWall
Subwoofer.....	1 × AURIS Sub
Total amplifier power.....	≈ 2240 W
Maximum SPL capability.....	>112 dB
Low frequency extension.....	20 Hz

CONFIGURATION

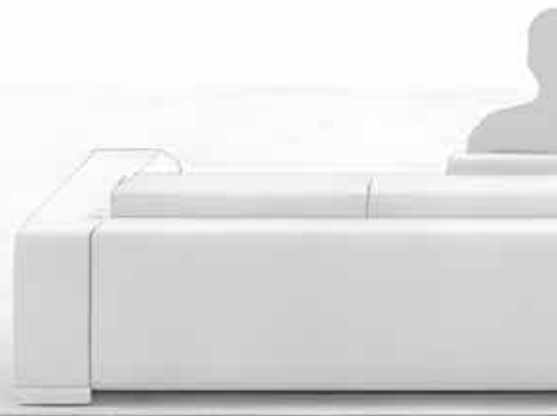
System amplification.....	>2.2 kW total power
Digital processing.....	FIRTEC™ phase-linear DSP
Conversion.....	24-bit / 192 kHz architecture
System Architecture.....	fully active immersive audio system
Signal distribution.....	object-based APANI ATMOS rendering

7.2.4 APANI ATMOS REFERENCE SYSTEM

Channels.....	13 (7.2.4)
Main speakers.....	4 × AURIS V
Center / Side.....	3 × AURIS OnWall
Height speakers.....	4 × AURIS OnWall
Subwoofers.....	2 × AURIS Sub
Total amplifier power.....	≈ 3680 W
Maximum SPL capability.....	>114 dB
Low frequency extension.....	20 Hz

CONFIGURATION

System amplification.....	>3.6 kW total power
Digital processing.....	FIRTEC™ phase-linear DSP
Conversion.....	24-bit / 192 kHz architecture
System Architecture.....	fully active immersive audio system
Signal distribution.....	object-based APANI ATMOS rendering



APANI-ATMOS

7.2.4 PERFORMANCE SYSTEM

FJORD低域拡張を備えた2台のIONA Music Transformersが、拡張された低域再生能力によってフロントチャンネルを担います。2台のAURIS Vラウドスピーカーが、リアサラウンドレイヤーを形成します。3台のAURIS OnWallスピーカーは、精密な指向性制御によってセンターおよびサイドチャンネルを再現します。4台のAURIS OnWallシーリングスピーカーがAtmosハイトレイヤーを創出し、完全に没入的な三次元サウンドフィールドを実現します。



TECHNICAL SPECIFICATIONS



ATMOS

PERFORMANCE SYSTEM

TECHNICAL SPECIFICATIONS

この構成では、APANIのIONA Music TransformersがFJORD低域拡張とともに動作し、卓越したダイナミックヘッドルームと制御性を備えたシステムを創出します。DMC2.0™制御による12インチドライバーは、絶対的な精度を保ちながら、確かな権威をもって低域を再現します。FIRTEC™プロセッシングは、すべてのチャンネルにわたって位相精度の高いタイミングを確保し、オリジナル録音の自然な構造を保ちます。

完全なApani Atmosハイトレイヤーと組み合わせられることで、システムは整合した三次元音響フィールドを形成します。あらゆる音のオブジェクトは、安定性、スケール、そして物理的な存在感を伴って定位します。現実的なリスニングレベルにおいても、ダイナミクスは *effortless* のままです。その結果として生まれるのは、単にパワフルなシステムではありません。真のリファレンスレベル・パフォーマンスです - *As Pure As Nature Intended*.

7.2.4 APANI ATMOS PERFORMANCE SYSTEM

Channels	13 (7.2.4)
Front speakers	2 × IONA
Bass extension	2 × FJORD
Rear surround	2 × AURIS
Center / Side	3 × AURIS OnWall
Height speakers	4 × AURIS OnWall
Total amplifier power	>7200 W system power
Maximum SPL capability	>118 dB
Low frequency extension	20 Hz

CONFIGURATION

System amplification	>7 kW total power
Digital processing	FIRTEC™ phase-linear DSP
Conversion	24-bit / 192 kHz architecture
System Architecture	fully active immersive audio system
Signal distribution	object-based APANI ATMOS rendering



PETER GABRIEL'S REAL WORLD STUDIOS





ZDF-STUDIO



VICTORIA STUDIO





VOLKER GEBHARDT







VICTORIA STUDIO



THE DEVELOPPER OF APANI AUDIOPHILE

DIPL. ING. JOHANNES SIEGLER KSD - B&M

KSdigital has been developing loudspeakers for a wide range of applications for 30 years, from standard series products to completely custom-made loudspeakers. Applications: Recording studios, master studios, theater control rooms, exclusive home theaters, media rooms, 3D immersive museums, and Dolby Atmos setup.

Johanes Siegler Vita:

- Soundengineering/audio engineering degree (Dipl.In
- DSP developer, hardware, software
- 1996 Founded KSdigital GmbH,
CEO and Head of Development (since 2000)
- 1996 Launch of the world's first phase-linear studio monitor at the
Tonmeistertagung (international conference for audio engineering)
- Design and measurement of studio acoustics
- Acoustic measurements in all major theaters in Germany: Semper
Opera Dresden, Munich, Hamburg, Frankfurt, Düsseldorf, etc.
- Backes&Müller CEO and Head

SELECTED REFERENCES

- Stevie Wonder Musician USA
- Mick Jackson Musician, Producer, Composer UK
- Herbert Grönemeyer Musiker, Producer Germany, UK
- SNAP Producer -Germany

Recording/Masteringstudios - Worldwide

- Platinumsound NYC
- Soundmine Studios LA
- Wolff Audio Studio LA
- ATL Atlanta
- Victoria Studios Berlin
- Peachtree Studios LA
- Playback Studio LA
- Rosner Studio Vienna
- ID Produktion Film/Syncro Production Luxemburg
- KeesKroot Studios Musikstudio Netherland
- Zeezicht Studios Recording Studio Netherland

Broadcast:

- ZDF-Germany - Television Broadcast Company
- ARD-Germany - Television Broadcast Company
- ÖR – Austrian Broadcast
- SRF – Swiss Broadcast
- NHK - Japanese broadcast
- Sony-Tokio - Reference-Studio

Theater:

- Schauspielhaus Frankfurt – Theater, Germany
- Alte Oper Frankfurt - Theater, Germany
- Oper Frankfurt Regie - Theater, Germany
- Oper Leipzig Regie - Theater, Germany
- Semper Oper Dresden - Theater, Germany
- Gewandhaus Leipzig - Theater, Germany
- Münchener Kammerspiele - Theater, Germany

Universities & Research&Development

- Fraunhofer Gesellschaft Illmenau
- HAW – University Hamburg
- University of Saarland
- Popakademie - MusicAcademie Germany
- Hochschule Rostock - MusicAcademie Germany



カスタム・ビスポーク。
音楽は空間に生まれるのではない。
時間の中に生まれる。

PHASE ZERO
JAPAN

APANI カスタム・ビスポーク PHASE ZERO - THE IN-WALL SYSTEM



APANI PHASE ZERO

カスタム・ビスポーク

There are speakers that sound good. And then there are speakers that turn a room into music—so you're no longer just "listening", you're inside it: the air around a voice, the weight of a double bass, the silence between hits, the soundstage suddenly three-dimensional in front of you.

Apani Phase Zero is built for exactly that.

And it is more than a loudspeaker:

it is **the Apani Origin** - the reference from which all forms emerge.

Not as a mass-produced product. But as the starting point for something that exists only once: **your personal, bespoke solution.**

Phase Zero is the Origin – and you define what it becomes

Phase Zero is the sonic reference that guides every Apani execution

- whether you use it as:

- an **In-Wall system** – architecturally integrated, as if born from the room itself
- a **studio monitor** – precise, honest, dependable for production & recording
- a **freestanding reference object** – a statement piece for the listening room or living space
- a **design in special forms and custom dimensions** matched to proportions, light, materials, and room geometry
- a piece defined by **individual materials and surfaces** from metallic - technical to warm-organic

The reference remains. The form becomes yours.

You don't choose from a list.

You **create** us a solution with that sounds as if it was always meant for this exact room.

Luxury meets engineering – because emotion requires precision.

High-end is not "more." High-end is right.

And "right" happens where design is not only beautiful, but functional, acoustic, and emotional - all pointing in the same direction.

That's why Phase Zero doesn't start with decoration.

It starts with a demand: Texture. Pressure. Space. Timing. Soul.



カスタム・ビスポーク
PHASE ZERO
THE IN-WALL SYSTEM



**音楽は
音として存在する前に
時間の中に
存在する。**

**PHASE ZEROは
この秩序を
保つために
開発されました。**

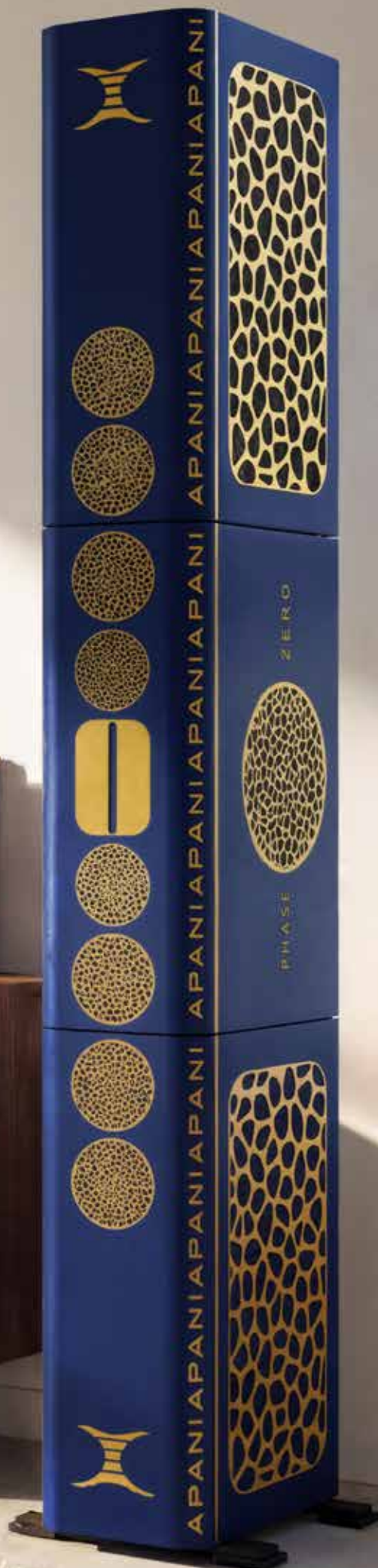


**APANI カスタム・ビスポーク
PHASE ZERO - STUDIO MONITOR**



PHASE ZERO

AND NADIR EXPANSION





APANI PHASE ZERO

カスタム・ビスポークカラー

AETHER PULSE BLUE × QUANTUM MIDNIGHT × RESONANCE GOLD

APANI Bespoke Masterpieceにおいて、個性は選択から始まるものではありません。創造から始まります。Bespokeサーフェスは、既存の色域から選ばれるものではありません。ニュアンス、深み、艶のレベル、コントラスト、そして空間効果に至るまで、緻密に設計され、バランスを整え、磨き上げられます。その結果として生まれるのは、代替可能な色ではなく、所有者の個性、空間、そしてMusic Transformerの建築性に深く結びついたカラーコンポジションです。すべてのBespokeカラーは、個別に調合されます。

それは装飾的なバリエーションではなく、精度、静けさ、素材への意識、そして対象との個人的な関係性という姿勢を、目に見えるかたちで表現するものです。そこに現れるのは、カスタム仕上げを施した標準仕様ではなく、固有のアイデンティティを持つ唯一無二の一台です。

Aether Pulse Blueは、このコンポジションにおける能動的なインパルスです。動き、信号の流れ、そして変容を内包する、明晰で知的なブルー。主張しすぎることなく、サーフェスにエネルギーをもたらします。それは技術的な明瞭さ、制御された緊張感、そして音楽が装飾されるのではなく秩序づけられるシステムという思想を、視覚的に示します。

Quantum Midnightは、このコンポジションにおける静かな深みです。内なる陰影、視覚的な分離、そして空間的なレイヤリングのために設計された、凝縮されたブルートーン。サーフェスに重み、コントラスト、建築的な静けさを与えます。Aether Pulse Blueが動きを可視化するなら、Quantum Midnightは安定した基盤を生み出します。Aether Pulse Blueが信号の流れを担うなら、Quantum Midnightはコンポジションに深みと安定性を与えます。

Bionic Grillは、このブルーの建築性をResonance Goldと結びつけます。それは高性能インストゥルメント、精密回路、アナログの温もり、そしてラグジュアリーなインダストリアルデザインに着想を得た、温かみのあるシルクマットのアコースティック構造です。

これは装飾的なゴールドではありません。アコースティック・アーキテクチャーです。

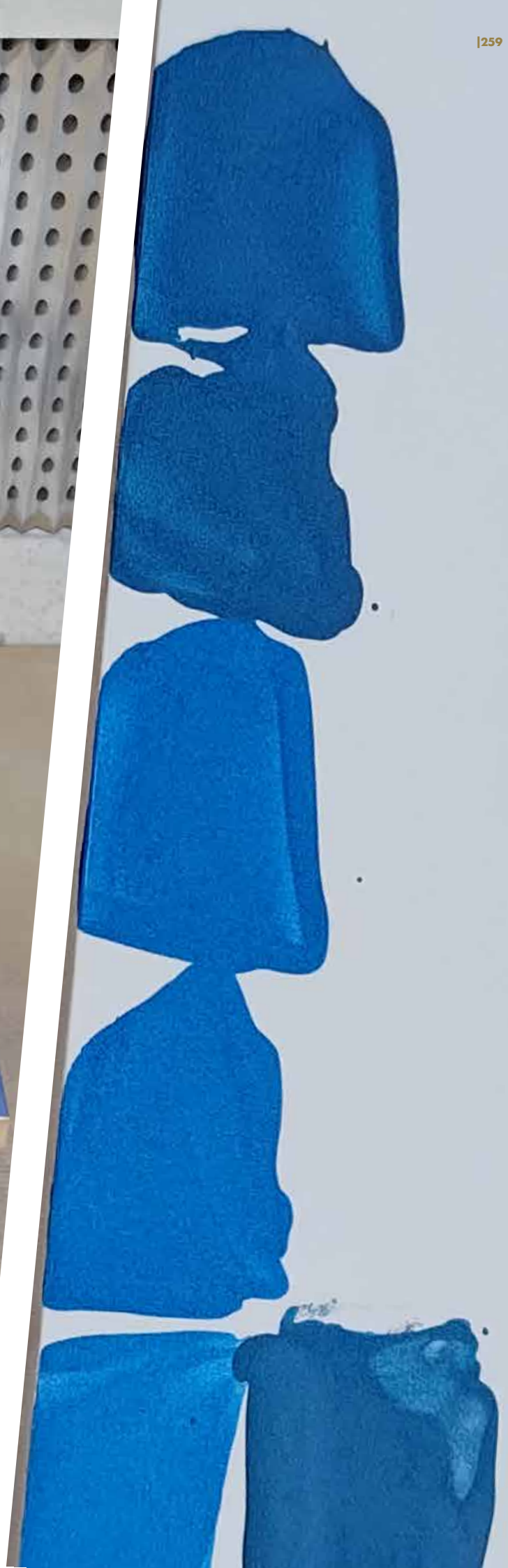
ゴールドの構造は装飾として現れるのではなく、精緻に秩序づけられたエネルギーチャンネルのシステムとして存在します。まるで生きたアコースティック・メンブレンのように。そのジオメトリーは、音を遮るのではなく、その拡がりを支える微細構造のサーフェスとして構想されています。周波数は導かれ、耳障りな反射は鎮められ、空間的な拡散は制御され、低い音量でも高い音量でも明瞭さが保たれます。

そのためAPANI Music Transformerは、注意を引こうとするオブジェクトとしては現れません。それはひとつのインストゥルメントのように感じられます。音楽を単に前方へ投影するのではなく、空間の中に立ち現れさせるために、構築され、導かれ、磨き上げられた存在です。

音楽は投影されるものではありません。展開していくのです。

それらが一体となり、APANI Bespoke Masterpieceの紛れもないアイデンティティを形づくりま
す。音、光、素材、そして姿勢によるサーフェス。





APANI PHASE ZERO

LINEAR-PHASE CYLINDRICAL WAVE MUSIC TRANSFORMER

音楽は空間に生まれるものではありません。時間の中に生まれます。すべての音は沈黙から生まれ、比例によってかたちづくられ、再び静寂へと解き放たれます。音楽に敬意を払うために、再生はこの秩序を尊重しなければなりません。解釈を加えず、装飾せず、遅れなく。

APANI PHASE ZEROは、真実のためのインストゥルメントとして構想されました。絶対的なリニアフェーズ特性と、制御されたシリンダー波放射を融合し、可聴帯域全域にわたって音楽本来の時間的完全性を保持する、世界で唯一のマスタリングシステムです。

その基盤にあるのは、独自のFIRTEC™リニアフェーズ・アーキテクチャーです。インパルス、倍音構造、減衰の正確な関係性を維持するために設計されています。位相が正しければ、音楽は感銘を与えようとはしません。ただ、その姿を現します。空間の奥行き、音色のバランス、感情の整合性が、力みも強調もなく、自然に立ち上がります。

Dynamic Membrane Control DMC™ システムは、メンブレンのあらゆる動きを精密かつ抑制的に制御します。エネルギーは蓄積されず、誇張されることもありません。低音は、残り続ける影ではなく、時間の中の一瞬として存在します。音は到来し、語り、消えていきます。そして沈黙は損なわれることなく残ります。

音は、精密に形成されたシリンダー波フロントによって放射され、リスニングポジションにおいて音楽が安定と静かな権威をもって展開することを可能にします。統合されたNEXT™ Near-Field Extension Technologyは、スケール、距離感、リアリティを保ちながら、室内との相互作用を最小限に抑えます。そこに残るのは、近接感ではなく、存在感です。

余裕ある大型パワーリザーブにより、電気信号は圧縮や歪みを伴うことなく、アコースティックな現実へと変換されます。もっとも繊細なマイクロストラクチャーから、もっとも要求の厳しいダイナミックパッセージまで、何ひとつ無理をせず、何ひとつ失われません。

Phase Zeroは、最高域の倍音から最深部の低周波の真実まで、音の連続体を余すところなく明らかにします。それによりマスタリングエンジニアは、楽器だけでなく環境そのものを知覚できます。ホールの空気、音と音の間にある息づかい、交響楽団の背後にかすかに響く空調システムの低い唸りまで。

マスタリングにおいて、確信こそがすべてです。

APANI PHASE ZEROは、聴こえているものが真実であるという静かな確信をもたらします。物理に整合し、時間に忠実であり、音楽本来の秩序に敬意を払うために。

APANI CUSTOM BESPOKE PHASE ZERO - STUDIO MONITOR



APANI®

As Pure As Nature Intended®
Audiophile





APANI カスタム・ビスポーク
PHASE ZERO - STUDIO MONITOR

APANI PHASE ZERO

創設者からのステートメント

50年以上にわたり、私の仕事はひとつの問いに導かれてきました。人間の耳が知覚し得る、音楽再生のもっとも純粋なカタチとは何か。

**もっとも印象的なものではない。
もっとも感情的なものでもない。
もっとも真実であるもの。**

私は人生を通じて、音楽がその魂を失うのは不完全さによってではなく、解釈によってであることを学びました。音に私たちの意志を重ねた瞬間、誇張し、滑らかにし、強調した瞬間、私たちは自然から離れ、幻想の中へ踏み込んでしまいます。

Phase Zeroは、その理解から生まれた結晶です。

それは役割ではなく、ある状態に名づけられたものです。

Phase Zeroとは、時間整合が完全に達成された瞬間を表します。原因と結果が再び結び合い、音楽が本来の整合性を取り戻す瞬間。そのとき、感情はもはや助けを必要としません。ただ、そこに現れます。

このシステムは、聴く人に強い印象を与えるために生まれたものではありません。信頼を得るために生まれました。

すべてのマスタリング判断が現実根ざしているという信頼。
沈黙が沈黙のまま残るという信頼。
音楽が自ら語るという信頼。

Phase Zeroは、Apaniの哲学をもっとも純粋に凝縮した姿です。
自然への敬意、物理への敬意、そして聴き手の知性への敬意。

再生が自然と整合するとき、それ以上のものは何も必要ありません。

APANI – As Pure As Nature Intended.

Prof. Dr. Bodo Lambertz
Founder, APANI

APANI PHASE ZERO

LINEAR-PHASE CYLINDRICAL WAVE MUSIC TRANSFORMER

スイス・21世紀 音楽は、音として存在する前に時間の中に存在します。Phase Zeroは、この秩序を保つために開発されました。絶対的なリニアフェーズ特性と、制御されたシリンダー波放射を融合した、世界で唯一のマスタリングモニターです。

その中核にあるのは、FIRTEC™フィルタリングに基づくリニアフェーズ・アーキテクチャーです。インパルス、倍音構造、減衰の正確な時間的關係を維持します。位相が正しければ、音は自然に整います。空間の奥行き、音色のバランス、そして感情の整合性が、解釈を介さずに現れます。

システムのDynamic Membrane Control DMC™ は、エネルギーの蓄積と減衰振動を排除します。音は正確に始まり、正確に終わります。沈黙は損なわれることなく保たれます。

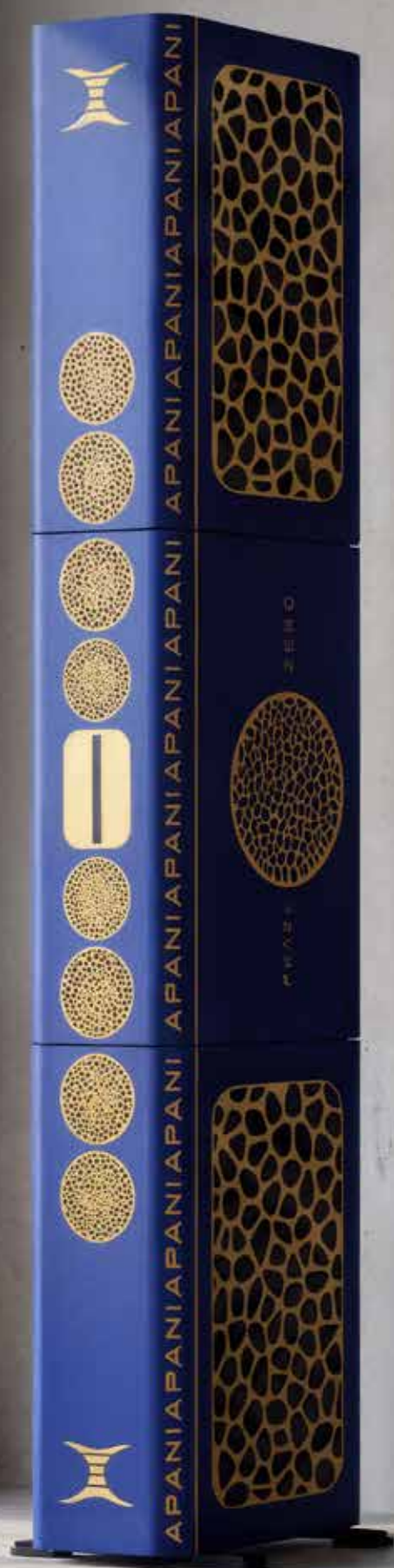
音は、制御されたシリンダー波フロントを通じて放射され、NEXT™ Near-Field Extension Technologyによって補完されます。室内の影響を低減しながら、スケールとリアリティを保持します。余裕ある大型パワーリザーブにより、電気信号は最小限の歪みでアコースティックエネルギーへと変換されます。

Phase Zeroは、最高域の倍音から最深部の低周波現象まで、周波数の連続体全体を明らかにします。それにより聴き手は、音楽だけでなく、空間そのものを知覚することができます。

この作品は、Apaniの哲学を映し出しています。
再生を物理に整合させ、
物理を自然に整合させること。

APANI – As Pure As Nature Intended.





PHASE ZERO & NADIR

点音源から波面工学へ

1) オープニング: なぜこれが重要なのか: 多くのラウドスピーカーは、いまだに点音源のように振る舞います。小さな起点から音を室内へ放射し、その後、部屋が遅れ、色づけされ、予測しにくい反射として音を投げ返してくるのです。

だから問うべきことは、「このスピーカーはどれほど優れているか」だけではありません。「部屋が介入する前に、リスナーへ届く波面を、スピーカーはどれほど精密に制御できるのか」ということです。それがAPANI Phase ZeroとNadir Expansionの背後にある物語です。より大きな低音でも、より明るいディテールでもありません。全帯域にわたる波面制御です。

2) 中核となる思想: 「ドライバー」ではなく「波面」で考える: 現実の世界では、大きな音の出来事は小さな球状の泡のように届きません。空を渡る雷鳴を思い浮かべてください。滝。空気を叩くヘリコプターのローター。これらの音源は非常に大きいため、音が私たちに届く頃には、点というよりも、広く整合した圧力現象として振る舞います。大きいからこそ自然に感じられる波面です。

APANIの目標は、音がどのように室内へ放射されるかを設計することで、この「大きな出来事」のリアリズムを家庭内に再現することです。

ミッド/ハイレンジにおけるシリンダー波

低域におけるフラットな波面挙動(サーフェス面積と配置による)

低音を時間軸上で真実に保つ、アクティブかつレイテンシーフリーのメムブレン制御

3) TOPセクション: 真のラインアレイ・シリンダー波ツイーター。トップが時間的に精密でなければ、低音は決して「ロック」されたようには感じられません。

A) アコースティック・ラインアレイ挙動

TOPセクションは、ミッドレンジおよびハイレンジでシリンダー波を生成するよう設計されたアコースティック・ラインアレイとして構築されています。リスニング上の意味は次の通りです。距離に対して、より均一なエネルギー。

「スポットライト的な音」の低減(「スピーカーがここにある」という感覚の低減)。

移動したり着座位置の高さが変わったりしても、よりクリーンな空間的安定性。

B) 質量を持たないダイアフラム」というコンセプト

このツイーターコンセプトは、開口部におけるインピーダンスジャンプを用い、従来の「移動質量」を持つドームの挙動に依存するのではなく、空気柱そのものを振動要素とします。その意図は次の通りです。

極めて高速なトランジェントレスポンス。

低い蓄積エネルギー(少ないアフターリング)。

鋭さのない即時性(スピード＝明るさではありません)。

クリーンな立ち上がり。クリーンな停止。



PHASE ZERO & NADIR

点音源から波面工学へ

4) 拡散／回折: バイオニック・サウンドオープニング

どれほど完璧なドライバーであっても、エンクロージャーのエッジや開口部によって裏切られることがあります。反射、回折リップル、不均一な放射、「ゴーストイメージ」。APANIはこれに対し、シャースシ形状が変化しても一貫した放射を実現するよう設計された、バイオニック拡散／回折オープニングで応えます。

スピーカーライン: ジオメトリーが音に色づけしようとするとき、バイオニックオープニングはこう語ります。いいえ。それでもクリーンに放射する。これは装飾ではありません。波の挙動を管理するためのものです。

5) Phase Zero:

インピーダンスセンシングと、アナログによるレイテンシーフリーの低音制御

多くの低音問題は、量の問題ではありません。時間の問題です。従来の低音は、しばしば次のように振る舞います。

- 擬似的な低音の膨らみを加える
- 信号が止まった後も動き続ける (オーバーハング)
- 目標値の周辺で振動する (リングング)
- 部屋に制御を委ねる (モードが支配する)

Phase Zeroは、ただひとつのことを行うために設計されています。

メンブレンを制御し、その動きが音楽信号に即座に一致するようにすること。デジタルレイテンシーを伴わずに。

• 信号に基づく正確なメンブレン動作

擬似低音なし。収束待ちなし。振動なし。低音は「大きい」ではありません。正しいのです。時間的ににじまないため、結果としてより大きく感じられることがしばしばあります。

• メンブレンにおける室内反射の相殺

室内反射は、インピーダンスセンサーを介してメンブレンによって測定され、アナログ制御によりリアルタイムで相殺されます。これにより、部屋がスピーカーを通じて「鳴る」能力を低減します。

スピーカーライン: 多くのシステムは部屋をEQしようとします。Phase Zeroは、部屋が音を生み出す前に、その源で止めようとします。

6) Nadir Expansion: 低音が球状であることをやめるとき

「Nadir」は最深点を意味します。しかし、これは単により低く再生することだけを意味しません。点音源よりも大きな存在になることを意味します。



フルエクspansion: Phase Zero + Top-Nadir = 8 × 15インチ・ベースメンブレン
それらが一体となってフラットな波面挙動を生み出します。低音は小さな音源からの
泡のように届くのではなく、広い圧力面のように届きます。

雷鳴は「ウーファー」のように感じられません。

滝は「低音の音符」のように感じられません。

ローターの鼓動は「箱から出るパルス」のように感じられません。

それらは、ひとつの出来事として感じられます。

低音の波面が大きいとき、低音が「どこかから来る」とは知覚されません。
目の前の空気が変化するのを知覚するのです。

7) 完全なシステム効果

- TOPは、ミッド／ハイを制御されたシリンダー波へと整えます。
- Phase ZeroとNadirは、低域を広くフラットな波面挙動へと整えます。
- Phase Zeroは、低音を時間軸上で真実に保ち、室内反射の影響を受けにくくします。

そのため耳は、「速いトップ／遅い低音」をつなぎ合わせる必要がありません。
得られるのは、ひとつの感覚です。ひとつの波面。ひとつのタイミング。ひとつの出来事。

8) サイド・バイオニックカバー：低周波においても回折を制御

低周波では、エネルギーは前方だけに進むわけではありません。部屋全体を励起しま
す。サイドのジオメトリーも、聴こえる音の一部となります。

バイオニック・サイドカバーは、もっとも低い周波数においても制御された拡散 回折
を支えます。そのため低音は形を保ち、単調なブームへ崩れません。

9) 推奨デモモーメント

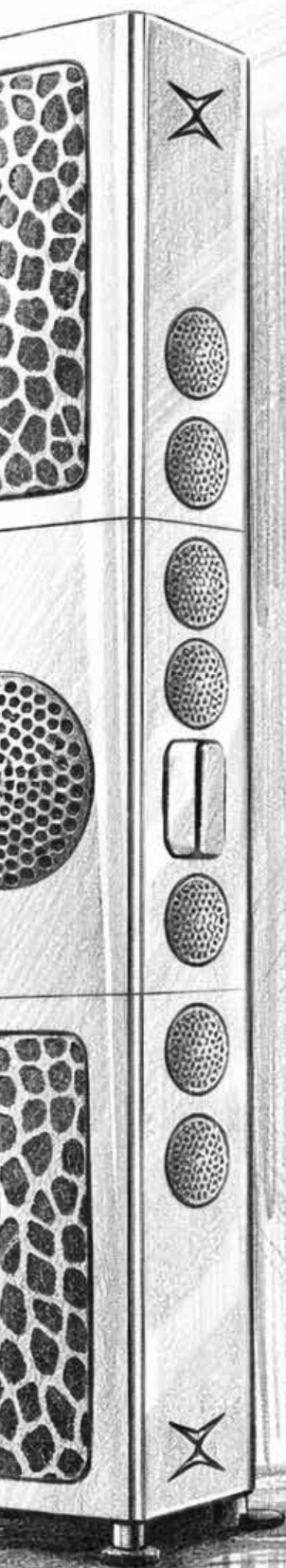
1. 速いキックドラムとクリーンな減衰を持つトラックを再生します。
2. リスナーには、打撃ではなく停止に意識を向けてもらいます。
3. 次に、大きなスケールのアンビエンスを持つトラックを再生します。
嵐／シネマティックな低域／オルガンペダル)
4. 問いかけます。それはウーファーのように感じられるか。それとも天候のように感じ
られるか。
5. これは「より多く」ではなく、スケールとタイミングの話です。

10) クロージングの要点

APANI Phase ZeroとNadirは、機能ではありません。それは哲学です。

- 周波数特性だけでなく、波面を制御すること。
- メンブレンの動きを制御し、低音を信号に忠実にすること。
- 反射を源で相殺することで、部屋の影響を低減すること。
- 自然のように届く低音をつくること。広く、整合し、物理的に信じられる低音を。

波面が正しいとき、部屋は消えます。そして音楽は、単にリアルに聴こえるのではあり
ません。必然のように感じられます。





APANI PHASE ZERO

NADIR EXPANSION

Apani Nadirは、Apani Phase Zeroのパフォーマンスを単により低い周波数へ拡張するものではありません。ライブ音楽が持つ物理的な力と即時性へ、リスナーをより近づけます。そのアーキテクチャーは、2基の15インチ Apani Vorelyntランスデューサーを中心に構築されています。それぞれが18 Hzから80 Hzを受け持ち、それぞれに専用の Apani Aurevon 500ワットMOSFETパワーアンプが与えられています。

その上で、2基のApani llyraトランスデューサーが、重要な60 Hzから120 Hzの領域を担います。低周波エネルギーがインパクト、推進力、そしてライブならではのダイナミックな存在感へと変わる帯域です。

これこそが、Apani Nadirをハイエンドの低音拡張システムやアクティブ・ラウドスピーカー設計の中でも特異な存在にしている理由です。それは低音を単なる量感や効果として届けるものではありません。空間の中に実在する楽器が放つ、突然の物理的なキックを届けます。多くのリスナーがライブコンサートや親密なアンプラグド演奏でしか知り得ない、あのダイナミックなリアリズムです。

2基のApani Vorelyntランスデューサーは、基盤を形づくりま。深さ、スケール、圧力、そして静かな権威。2基のApani llyraトランスデューサーは、リズムが身体的なものとなり、音楽が内臓に届くような躍動を獲得する領域を整えます。システムを駆動する Apani Aurevon MOSFETアンプは、もっとも低い周波数においても精度を保つために必要な制御力、スピード、そして電流供給能力をもたらします。

その結果として生まれるのは、単により深い低音ではありません。より生命感に満ちた音楽的出来事です。

Apani Nadirは従来型の低音拡張ではなく、Phase Zeroに何かが欠けていることを意味するものでもありません。Phase Zeroは、それ自体で完結した音楽的ステートメントです。Nadirがもたらすのは、まったく別のものです。スケール、ステージ、ダイナミックな自由度、そしてオーケストラの権威の拡張です。

2基のウーファーと2基のミッドベースユニットを備えたNadirは、最低域のオクターブを拡張するだけにとどまりません。音楽の建築性そのものを拡大し、より広いステージ、より大きな物理的存在感、そして交響楽団の力をリスニングルームへともたらす、稀有なまでに effortless なダイナミックレンジを可能にします。

だからこそApaniは、Nadirを低音拡張ではなく、Expansionと定義します。





すでに
自らのアンプの声を
見いだしたオーディオファイルへ



APANI PHASE ZERO

すでに 自らのアンプの声を 見いだしたオーディオファイルへ

Apani Phase Zeroは、Nadir Expansionとともに、アクティブなMusic Transformerとして構想されました。完全で、統合され、設計そのものにおいて妥協のない存在です。

愛するものを守り続けるという芸術。しかしApaniは、オーディオファイルの旅路における、きわめて人間的な感情を深く理解しています。ある音は、単に好まれるものではありません。愛されるものなのです。

多くのリスナーはすでに、自分の言葉で語るアンプを見いだしています。ミッドレンジを温かさと親密さで満たす、大切な真空管アンプ。高域を空気感、きらめき、優雅さとともに開くりファレンスアンプ。こうした選択は、決して技術だけによるものではありません。

それらは個人的なものになります。

感情的なものになります。

そして、自らが信じる音楽的真実と、ほとんど切り離せない存在となります。

あなたの音を軸に形づくられるMusic Transformer。そのため、すべてのApani Music Transformerはカスタムメイドで製作されます。

ご要望に応じて、Apani Phase Zeroはミッドレンジおよびハイレンジをお客様ご自身の外部パワーアンプで駆動できる仕様として製作できます。これにより、システムが持つ慣れ親しんだ声はそのまま保たれます。倍音の個性、音色、そしてあなたが選び抜いた音楽的シグネチャー。

そしてここに、Apaniの真にユニークな価値があります。愛するアンプを保ちながら、Apaniは低音を完全に掌握します。Nadir Expansionとの組み合わせにより、光速制御された低周波は、スピード、権威、精度、そしてシームレスな統合による基盤をもたらします。それは従来型のシステムでは達成が極めて困難なものです。

もはや選択肢は、アンプの声を守ることと、アクティブ・ラウドスピーカーコンセプトの利点を得ることのどちらかではありません。Apani Phase Zeroなら、その両方を手にできます。あなたの音は、あなたの音のままです。しかしシステムは、より完成され、より制御され、より深遠なものになります。

それこそがApaniを選ぶ理由です。愛するものを手放すことを求めるのではなく、それに敬意を払い、さらに先へと導くために造られているからです。



PHASE ZERO

Side 2 x	12" high performance bass driver 2x 500 Watt, 20Hz-80Hz
Front 4 x.....	5" high-performance mid-woofers, composite cone 1x 500 Watt, 80Hz-800Hz
Front 1 x.....	Fraunhofer-NExT cylindrical wave radiator 1x 500 Watt, 800Hz-24000Hz
Frequency-range.....	20-24000Hz
Input sensitivity.....	20 dBu
AD/DA Converter.....	24-bit sigma-delta DA converter, 192 kHz technology
Analog IN, OUT.....	XLR-symmetric, active bass output
Digital IN.....	AD/DA Converter 24Bit/192KHz
Subwoofer-Out.....	processed Subwoofer-Out
Processing.....	FIRTEC Processor
Dimensions (1xNadir).....	WxHxD: 30 cm x 162 cm x 48 cm
Dimensions (2xNadir).....	WxHxD: 30 cm x 242 cm x 48 cm
Front 2 x	5" Midrange-Driver passiv on Bassamp 60Hz-120Hz
Side 2 x.....	15" high-performance bass-reflex (vented) bass driver 2 x 500 Watt; optional 2 x 1000 W, 18-80 Hz
Inputsensitivity.....	20 dBu

NADIR

The Apani Nadir is not merely a bass extension. The Phase Zero is already complete. The Nadir instead expands the system's sense of scale, space, and dynamic authority, bringing a more orchestral dimension to the musical experience. For Apani, it is therefore best understood as an Expansion.

Front 2x	5" Midrange-Driver passiv on Bassamp 60Hz-120Hz
Side 2x.....	15" high-performance bass-reflex (vented) bass driver 2 x 500 W; optional 2 x 1000 W, 18-80 Hz
Inputsensitivity.....	20 dBu

あなた自身の
経験以上に
真実を宿すものは
ありません

PROF. DR. BODO LAMBERTZ

あなたが「何を聴くべきか」を語ろうとする人は、いつの時代にも存在します。

レビューアー。グラフ。
フォーラムのスレッド。トップ10リスト。
そのすべてが大きな声で語り、そのすべてが確信に満ちています。

しかし、本当に意味を持つ真実は、あなたの部屋で、あなたの音量で、
あなたの瞬間に起こるものだけです。
最初の音がドライバーを離れ、あなたの肌に触れるその瞬間に。

だからこそ、私はこのListening Listを作りました。

誰かに印象づけるためのテストではありません。
議論に勝つためのチェックリストでもありません。
自分自身へ戻るための道しるべです。
聴こえるもの、感じるものを心から信頼し、
他人の意見に導かれないために。

なぜなら、もっとも深い証明は書かれるものではないからです。
それは、経験されるものです。

このLISTENING LISTの使い方

急がないでください。音楽を仕事のように「試聴」しないでください。
代わりに、こうしてください。

1曲ずつ、最初から最後まで再生する。
音量は現実的に保つ。
大きな音は、間違った理由で「良く」感じられることがあります。
真実はバランスの中にあります。
2回聴く。

1回目：身体で聴く（分析しない）。
2回目：意識して聴く（ディテール、空間、質感）。

一度に変えるものはひとつだけにする（設置位置、トーン、距離、音量）。
あなたの耳は、どんな助言よりも速く教えてくれます。



ここからは、このリストにある各曲が、スピーカーを通じて何を明らかにするためのものかを示します。

1) ヒューマン・ヴォイス・トラック

誠実さはここから始まります。

LISTEN FOR:

- ・ 息づかいと存在感:「ヴォーカル」ではなく、目の前にいる一人の人間として。
- ・ シビランス(“s”の音):明瞭でありながら、鋭すぎず、唾音のようにならないこと。
- ・ 胸の響き:言葉の下にある重み。薄い輪郭ではないもの。

FEEL FOR:

- ・ 脳が評価をやめ、信じ始める静かな変化。
- ・ 声がスピーカーから出るのではなく、その間に現れる瞬間。

声が本物に感じられれば、他のすべてを信頼することが容易になります。

2) ピアノ・トラック

ピアノはすべてを露わにします。タイミング、音色、減衰、制御。

LISTEN FOR:

- ・ アタックと開花:音が打たれ、その後、ひとつの身体のように開いていくこと。
- ・ 倍音の豊かさ:基音の上に浮かぶきらめき。
- ・ 沈黙へ向かう減衰:音がノイズに変わることなく、消えていくまで追えるか。

FEEL FOR:

- ・ 静かな確信。優れたシステムはディテールを叫びません。呼吸させます。
- ・ 木、弦、空気の感覚。「鍵盤の音」だけではないもの。

ピアノが正しいとき、人は「いい音だ」とは思いません。「これは楽器だ」と感じます。

3) ベース&キック・トラック

これは「より多い低音」の話ではありません。真実の低音の話です。

LISTEN FOR:

- ・ 圧力だけでなくピッチ:音程を数えられるか。
- ・ 質感:弦に触れる指、ドラムヘッドに触れる皮膚、ヒットの形。
- ・ 分離:キックドラムとベースラインが、ひとつのにじみではなく、別々の声であること。

FEEL FOR:

- ・ 部屋に膨らまず、胸に届くタイトなインパクト。
- ・ 制御。権威。低域は霧ではなく、基盤のように感じられるべきです。

低音が誠実であれば、システム全体が高価に感じられます。

**APANI CUSTOM BESPOKE
PHASE ZERO - STUDIO MONITOR**



4) パーカッション&トランジェント・トラック

これはスピード、制御、リアリズムです。

LISTEN FOR:

- スナップと停止 打撃は即時であり、その後の沈黙はクリーンであるべきです。
- シンバルの艶 緻密で、空気感があり、決して硬くも粒立ちすぎてもいけないこと。
- マイクロダイナミクス 演奏を生きているように感じさせる、小さな強弱の変化。

FEEL FOR:

- エフォートレスさ。スピーカーが「頑張っている」ように感じられないこと。
- 身体が動き出す衝動。足でリズムを取ることは、
どんな文章よりも優れたレビューです。

5) 空間&サウンドステージ・トラック

ここでシステムは、ひとつの場所になります。

LISTEN FOR:

- 幅と奥行き: 楽器が単なる左右の位置ではなく、距離を持っていること。
- 安定したセンターイメージ: ヴォーカルが揺れずに固定されていること。
- ルームキュー: リバーブの尾、反射、録音空間の大きさ。

FEEL FOR:

- 部屋が開くこと。壁が一步後ろへ下がるような感覚。
- あの不思議で美しい錯覚。あなたはスピーカーを聴いているのではなく、
スピーカーを通して聴いているのだという感覚。

6) ダイナミクス・トラック

「大音量」ではありません。生きていることです。

LISTEN FOR:

- 静から動への振れ幅が、無理なく再現されること。
- クレッシェンドが圧縮されるのではなく、自然に積み上がること。
- 落ち着き: 曲が demanding になっても、音がクリーンで安定していること。

FEEL FOR:

- 鳥肌の瞬間」。高まり。浮上する感覚。
- システムがささやくことも、咆哮することもできるという感覚。
- しかも、そのキャラクターを変えることなく。



SIQT | Schweizer Institut
für Qualitätstests GmbH



7) 複雑なミックス・トラック

シンプルな音楽では、多くのシステムが印象的に鳴ります。
ここで真実が現れます。

LISTEN FOR:

- 分解しすぎない分離: それぞれのラインを追えるのに、楽曲はひとつのままであること。
- レイヤリング: ヴォーカル、エフェクト、楽器が、それぞれの空間を占めていること。
- 疲れないこと: ディテールが眩しさに変わらないこと。

FEEL FOR:

- 臨床的に感じられない明瞭さ。
- より大きな音ではなく、より長く聴ける力。

8) 「私はこの曲を知っている」トラック

これがもっとも重要です。

何年も愛してきた曲を選んでください。壁越しでもそれと分かる一曲を。

LISTEN FOR:

- 魔法を失うことなく、これまで気づかなかった何か。
- システムがより多くを明らかにしても、感情が損なわれずに残ること。

FEEL FOR:

- 信頼。安心。心の奥で深くうなずく「そうだ」という感覚。
- なぜなら、あなたの好きな曲がよりその曲らしく感じられるとき、誰かの同意は必要ないからです。

このリストの目的は、完璧ではありません。真実です。

メモを取り始めたら、身体へ戻ってください。
誰かが言ったことを追いかけて始めたら、音楽へ戻ってください。

あなたの耳は、コミュニティに感心されるためにあるものではありません。
本物に感じられるものへ、あなたを導くためにあります。

だから、このリストを再生してください。深く聴いてください。
そして最後にたどり着いたとき、あなたはあることに気づくでしょう。

もう「私は何を聴くべきなのか」とは問いません。
「私には、聴こえているものが分かる」と言っているはずです。

あなた自身の経験以上に、真実を宿すものはありません。



DARE TO COMPARE.

本当に最高を求めるなら、推測をやめてください。信じ込むことをやめてください。物語を買うことをやめてください。

COMPARE. TEST. DECIDE.

なぜなら「最高」とは、ロゴではないからです。価格タグでもありません。レビューの点数でもありません。最高とは、プレッシャーをかけたときにも真実であり続けるものです。そして、そのプレッシャーはシンプルです。あなたがよく知るトラック、あなたが信頼するシステム、そして隠れることを許さないリスニングリスト。

これはあなたへの招待です。最高を求めますか。ならば比較し、試してください。理論ではなく。ショールームの巧妙なセットアップではなく。部屋にセールストックがある状態でもなく。あなたの空間で。あなたの音楽で。あなたの耳で。だからこそ、私はこのリスニングリストをこのように作りました。すべてのタイトルが特定の何かを明らかにするように。あなたがただ「聴く」のではなく、自らの感覚で現実を測れるように。

HOW TO DO THE APANI “DARE TO COMPARE” TEST

- 1) 公平に保つ: 同じトラック。同じ開始点。同じ音量 (これは多くの人が認める以上に重要です)。同じ座席。可能であれば同じ設置。比較は、条件が誠実であるときにだけ誠実になります。
- 2) 一度に変えるものはひとつだけ: スピーカー、ケーブル、位置、トーンを変えても構いません。ただし、1ラウンドにつき変数はひとつだけです。そうでなければ、比較ではありません。推測です。
- 3) 大音量を追わない: 音量が大きいと、20秒ほどは「良く」感じられることがよくあります。その後、疲労が訪れます。真実には叫ぶ必要がありません。
- 4) リスニングリストをスポットライトのように使う: すべてのトラックは、パフォーマンスの特定の部分を露わにするために選ばれています。だから何かが変わったとき、何が変わったのかを正確に知ることができます。

**本当に最高を求めるなら、
推測をやめてください。
信じ込むことをやめてください。
物語を買うことをやめてください。**

リストを再生するときに比較すべきこと

A) 音色の真実: 声は人間のように聴こえるか、それとも録音のように聴こえるか。ピアノは木と弦として感じられるか、それとも単なる音符か。最高は誇張しません。最高は納得させます。

B) 低域の制御: 低音はタイトで、ピッチがあり、クリーンか。それとも大きく、にじんんでいるか。キックドラムを失うことなく、ベースラインを追えるか。最高とは、自慢できる低音ではなく、信頼できる低音です。

C) スピードと精度: パーカッションを聴いてください。鋭く立ち上がり、きれいに止まるか。それとも、にじみ、柔らかく崩れるか。最高とは、インパクトとノイズの違いです。

D) 空間と安定性: センターイメージはその場にロックされるか。楽器には距離と形があるか。音楽が複雑になっても、ステージは安定しているか。最高は、あなたの部屋の中にもうひとつの部屋をつくれます。

E) 疲労のない感情: ディテールが目的ではありません。目的は、より長く、より深く、より頻繁に聴くことです。最高は注意を求めません。あなたの時間を得るのです。

分かる瞬間

比較が effortless になったとき、あなたはそれを感じます。一方はあなたを引き寄せます。もう一方はあなたに分析をさせます。一方は音を開きます。もう一方は音を押しつけます。

そして突然、判断は議論ではなくなります。静かな確信になります。

これは他者への挑戦ではありません。あなた自身への挑戦です。Dare to Compare が意味することは、ただひとつ。期待に反しても、告げられてきたことに反しても、真実を聴く勇気を持つこと。

なぜなら、オーディオファイルの最高位とは、「正しい」機器を所有することではないからです。自分自身の判断を所有することです。

DARE TO COMPARE.

最高を求めますか。ならば比較し、試してください。そしてリスニングリストに、何が真実かを明らかにさせてください。トラックごとに、音符ごとに。ついには、誰の意見も必要としなくなるまで。



オーディオファイルのための ハイエンド・ラウドスピーカー評価

APANI PHASE ZERO

Prof. Dr. Bodo Lambertz
およびAudiophileチームによるレビュー

沈黙を聖なるものとして扱うラウドスピーカー。音楽を装飾するシステムがあります。息づかいがあった場所に艶を加え、真実よりも広いステージを引き伸ばし、ピッチではない低音を力感のように感じさせる。そして、APANIがPHASE ZEROで提示する思想があります。音楽に装飾は必要ない。必要なのは整合である、という思想です。

なぜなら音楽は、音量から生まれるのではないからです。静けさから生まれるのです。

ひとつの音は、湖面に生まれる波紋のように沈黙から立ち上がります。それは空間中の物体ではなく、時間の中の出来事です。始まり、身体、終わり。そして、背後で扉が静かに閉じるように、再び訪れる静寂。PHASE ZEROは、その秩序を守る存在であろうとします。遅れなく、媚びることなく、引きずることなく。ただ原因と結果の連鎖を再び結び合わせ、聴き手を真実そのものと向き合わせるために。

音楽の前のリチュアル

(方法でありながら、ひとつの情景として)

この種のレビューは、形容詞から始めることはできません。規律から始まります。部屋はレンズのように扱われます。テープの印は座標となります。距離は誓約となります。左右は、ファントムセンターが迷う余地を失うまで、対称へと追い込まれます。

トーンは「より大きく」するために選ばれるものではありません。トーンは真実のために選ばれます。声が空気の中ににじむことをやめ、息づかいで縁取られた存在となる、その一点のために。

一次反射は、廊下に隠された扉を探すように、鏡を使って見つけられます。それらは和らげられます。部屋を殺すためではなく、部屋が嘘をつくのを止めるために。

そしてレベルは、誠実さをもっとも捉えやすい場所に設定されます。65-75 dB LAeq。システムがそれ以上鳴らせないからではありません。インパクトが耳を誘惑することを許されないとき、純度はもっとも明瞭に現れるからです。リスニングは短い時間枠で行われます。30-90秒、ひとつの軸ごとに。メモは即座に書き留められます。なぜなら記憶は物語を語るものだからです。そしてあなたが求めたのは、神話ではなく事実を報告するレビューアーなのです。

APANI – As Pure As Nature Intended.

結果 — 十二のランタンとグルーヴ
これらは「戦利品としてのスコア」ではありません。座標です。このシステムが、真実の地図のどこに存在するのかを示す座標です。

音色／ティンバー - 9.1

化粧のない色彩。声は人間らしさを保ちます。

マイクロダイナミクス - 9.6

息づかいと筆致がそのまま残ります。にじまない墨の線のように。

マクロダイナミクス - 9.0

大きな瞬間は硬くなるのではなく、広がります。力は暴力的ではなく、静かに感じられます。

トランジェント(アタック／ディケイ) - 9.7

立ち上がりはクリーンに。終わりは、きちんと終わります。低音は句読点のように止まります。

フォーカス／イメージング - 9.3

センターは、磁石が極を見つけるように固定されます。

安定性 - 9.4

動いてもイメージは揺らぎません。演奏はその場に留まります。

幅 - 8.8

広く、しかしにじまない。位置を失うことなく、空間が存在します。

奥行き - 9.3

距離が読み取れるものになります。リバーブは音の身体の背後に座ります。

高さ - 8.7

スケールは信じられるものです。特に耳の高さが正確なときに。

質感／解像度 - 9.6

より多くの情報を、より少ない眩しさで。ガラス質にならないディテール。

コヒーレンス - 9.8

部品ではなく、ひとつの声。継ぎ目はありません。クロスオーバーの「主張」也没有。

静けさ／ブラックバックグラウンド - 9.4

沈黙は静止したまま保たれます。低レベルの真実が見えるようになります。

PRaT(ボーナス) - 9.6

身体がタイミングを信じます。思考が判断する前に、足がリズムを刻みます。



リスニングノートー 情景と啓示の夜として

(ガイドと同じキュータイム:再現性は、APANIが考える信頼の一部です。)

1) “A candle in a cathedral”



Cowboy Junkies – Mining for Gold (Intro–1:30)

声は現れ、許しを求めません。拡がりすぎることありません。膨らむことありません。ただ、そこに立ちます。中心に、静かに、人間として。それは建築です。空気、高さ、距離。もっとも雄弁なのは、起こらないことです。リバーブは前へ這い出し、スピーカー面に貼りつくことがあります。それは歌い手の背後に留まります。

部屋の中の記憶のように。本来あるべき場所に、正確に。

評価用語を詩へと翻訳するなら:フォーカスはロックされる。
安定性は保たれる。奥行きは、力みなく姿を現す。

2) “Detail without glitter”



Rebecca Pidgeon – Spanish Harlem (0:00–1:10)

シェイカーは、ハイファイにおいて危険な対象です。多くのシステムは、それを装飾品に変えてしまいます。ここでは違います。それは空中に精密に吊られた、細い動きの糸となります。ほつれることなく動き、叫ぶことなく生きています。声は「解像度」へと鋭く削られることはありません。肌と息づかいを伴って描かれます。そして子音は、ガラスの上の針ではなく、木の床に落ちる足音のように届きます。

ここで「リニアフェーズ」の背後にある哲学を感じます。数値としてではなく、音が自らの行き先を知っており、つまづくことなく、そこへ到達するという感覚として。

3) “Space that is admitted, not performed”



Eagles – Hotel California (Live) (0:20–1:20)

ステージは広がります。確かに。しかし奇跡は、そのステージが秩序を保ち続けることにあります。拍手はひとつの洗い流すような塊ではなく、レイヤーとなります。前方のエネルギーと、遠方のエネルギーを聴き分けることができます。バンドは平面的な絵の中ではなく、部屋の前方に存在しているように感じられます。ホールはバンドより大きくなりすぎません。地平線が風景を支えるように、バンドを支えます。フォーカスを伴う幅。安定性を伴う奥行き。その組み合わせは稀です。

4) “Sibilance as speech, not steel”



Norah Jones – Don't Know Why (0:00–1:30)

音は嘘発見器です。「詳細に聴こえさせる」簡単な方法は、それらを金属に変えてしまうことです。ここでは、音は本来の姿のまま残ります。比例の中にある言葉として。明瞭でありながら、残酷ではありません。ピアノには、アタックだけでなく身体があります。鍵盤の背後にある木を感じることができます。そして、より静かなパッセージ。誠実さのテストにおいて、音は薄い明るさへと崩れません。低い光の中でもなお見分けられる顔のように、バランスを保ちます。それはAPANIの約束が、聴こえるかたちになったものです。装飾のない真実。

5) “Intimacy without pressure”



Nick Drake – Pink Moon (0:00–1:00)

ギターは木に温められたスチールです。刃ではありません。眩しさでもありません。声は近くにありますが、こちらへ踏み込んできません。敬意ある会話のように距離を保ちます。これがコヒーレンスの音です。すべてが同じ世界、同じ空気、同じ時間に属しています。

6) “The drum that ends like a period”



Dave Brubeck – Take Five (0:50–2:00)

トランジェントを立ち上げられるシステムはあります。しかし、それを正しく終えられるシステムは多くありません。ここではライドシンバルがきらめき、その余韻は冷たい空気に溶ける息のように消えていきます。連続的で、粒立ちません。スネアは到来し、語り、消えます。硬い後味を残すことなく。ゴーストノートは、目を凝らさずに読める筆跡のように判別できます。マイクロダイナミクスは、生きたまま保たれます。抽出されたものではありません。ここでのトランジェントは攻撃性ではありません。精度です。

7) “Bass as a moment, not a shadow”



Daft Punk – Giorgio by Moroder (3:10–4:50 / ~6:00)

ここで、カタログの一文は物理的な感覚になります。低音は時間の中の一瞬として存在します。キックは到来し、止まります。「薄れていく」のでも、「残る」のでもありません。止まるのです。次のビートがそれ自身でいられるだけの余白を残して、クリーンに。ベースラインは読み取ることができ、ピッチを持ち、意図を持っています。霧でも、絨毯でも、天候でもありません。目を閉じて追うことのできる一本の線です。トラックが高まるとき、音は興奮を演出するために鋭くなるものではありません。ヘッドルームが力ではなく落ち着きであるかのように、より大きくなります。

8) “The breath between notes becomes visible”



Patricia Barber – Company (0:30–2:30)

ブラシは単なる柔らかさではありません。繊維です。息づかいはギミックではありません。フレージングです。ここでは静かな真実が前へ飛び出すことはありません。ただ存在し続けます。正しいスケールで、正しい位置に。演奏を包む部屋が見えるようになるのは、システムが空気を加えるからではなく、沈黙をキャンバスのように保つからです。この意味において、ブラックバックグラウンドとは空虚ではありません。真実が見えるための空間です。

9) “Glass beads in air”



Yosi Horikawa – Bubbles (0:00–1:30)

ひとつひとつのインパルスが、空間を進むガラスの珠になります。より劣るシステムでは、その珠はにじんで線になります。ここでは珠のままです。分離し、位置を持ち、意図をもって動きます。そしてそれらの間にある空気はノイズではありません。空間です。タイミングが正しいときに起こることは、まさにこれです。空間のマッピングが *effortless* になり、空を飛ぶ鳥を目で追うように自然になります。

10) “Orchestral weather without lightning in the ear”



Stravinsky – Infernal Dance (Firebird) (0:30–2:30)

オーケストラが高まります。濃密で、鋭く、巨大に。あるシステムは明るくなることで持ちこたえます。別のシステムは鈍くなることで持ちこたえます。ここでは音楽が痛みを伴うことなく拡がります。より大きくなるのであって、より荒くなるものではありません。そしてピークにおいてもステージは秩序を保ちます。構造を失わない嵐のように。無理のないマクロダイナミクスは、稀有な強さです。それは力ではなく、確信のように感じられます。

11) “The bassline keeps its name”



Massive Attack – Angel (0:45–2:30)

このトラックは、低音にとっての倫理のテストです。それは部屋全体を巻き込む単調な現象になってしまうのか。それとも一本の線として残るのか。ピッチを持ち、時間を持ち、読み取れる線として。ここでは線のままです。圧力には意味があります。エネルギーには形があります。グルーヴは直立したまま保たれます。

12) “Silence that does not shimmer”

Max Richter – On the Nature of Daylight (0:00–2:00)

真の沈黙はきらめきません。そわそわしません。呼吸もしません。ここでは床が静止しています。弦はそこから、霧が晴れていくように立ち上がります。連続的で、感情を宿し、損なわれることなく。ポンピングもありません。不安定さありません。ただ、展開してだけです。これは、より長く聴き続けたいくなる静けさです。

美しいからではありません。信じられるからです。

13) “Human reality, correctly scaled”

Keith Jarrett – The Köln Concert, Part I (0:00–1:30)

明らかにする力を持つシステムは、ときに残酷になり得ます。偶発的なノイズをスポットライトへ変えてしまうからです。このシステムは、APANIの精神において、それらを比例の中に存在させます。人間の世界は確かに聴こえます。しかし、それに攻撃されているようには感じません。デイトールは飛び出しません。そこに属しています

14) “A choir as one breath”

The Tallis Scholars – Miserere (Allegri) (1:30–3:30)

ここでのコヒーレンスは技術的なものではありません。精神的なものです。多くの声が、ひとつの生命体となります。列、高さ、空気を感じることができます。それでも合唱は、多くの肺から生まれるひとつの呼吸であり続けます。ここで「ひとつの存在」であることが聴こえるものになります。滑らかだからではありません。整合しているからです。

15) “Complexity without stress”

Steely Dan – Aja (1:30–4:30)

ミックスは、夜の都市のように濃密です。あるシステムは高域を持ち上げることで、その都市を照らします。別のシステムは、それをぼやけた暗がりへ沈めます。ここでは都市は秩序によって照らされます。すべてが見え、何ひとつ叫びません。シンバルは金属であり、空気です。ガラス質ではありません。分解を伴わない分離。

**APANI CUSTOM BESPOKE
PHASE ZERO - STUDIO MONITOR**



APANI®
Pure As Nature Intended®
Audiophile

PRaT – the moment the body believes

James Brown – Sex Machine (0:00–2:00)



Daft Punk – Get Lucky (0:20–2:30)



PRaTは理論ではありません。
それは反応です。

足がリズムを刻むのは、あなたがそう決めるからではありません。
脳がタイミングを修復することをやめるからです。

キックとベースは歯車のように噛み合います。
インパルスと重量、始まりと停止。
次のビートから時間を奪う余韻はありません。
グローヴは必然になります。
そして必然こそが、身体で感じる真実です。

音の記憶を残すラウドスピーカーがあります。
PHASE ZEROは、別のものを残そうとします。

音楽の記憶です。

システムによるパフォーマンスとしての音楽ではなく、
時間の中で起こり、解釈を介さずあなたへ届けられた出来事としての音楽。

沈黙は沈黙のまま残ります。減衰は静けさへ戻ります。原因と結果は再び出会います。

そしてその再会の中で、感情は助けを必要としません。
ただ現れます。As Pure As Nature Intended.

Prof. Dr. Bodo Lambertz

THERE ARE ALBUMS THAT PLACE YOU IN A ROOM YOU DIDN'T KNOW BEFORE.

#MODERATE - LIVE IS ONE OF THEM.

音楽を愛する私たちのグラフィックデザイナー
一、Jean Paul Stollが、このアルバムを皆さまにご紹介します。



「完璧」だからではありません。リアルだからです。磨き上げられたスタジオの幻想が聴こえるのではありません。エネルギー、緊張、息づかい—音楽を生きたものにする小さな偶然が聴こえます。インパルスがどのように生まれ、どのように育ち、そしてどのように沈黙へ戻っていくのかが聴こえます。だからこそ、このアルバムはベンチマークなのです。

なぜならライブとは、言い訳ができないということだからです。
修正もない。隠れる場所もない。
ただ、起こることだけがある——時間の中で。

なぜ聴くべきなのか

なぜなら、それはプレッシャーの中の真実だからです。Moderateは「美しく」聴かせるために演奏するものではありません。確信をもって演奏します。部屋が呼吸し始めても、グローブは保たれなければなりません。音量が上がっても、制御は残らなければなりません。ここでシステムがクリーンであり続けるなら、それは「ハイファイ」ではありません。主権を持つ存在です。

なぜなら、タイミングを感じられるからです。このアルバムは、あなたのシステムがタイミングを「修復」しているのか、それともそのまま届けているのかを即座に明らかにします。アタックとディケイが正しければ、思考が理解する前に身体が反応します。足がリズムを刻むことは偶然ではありません。それは証明です。

なぜなら、空間が突然意味を持つからです。リバーブの尾、観客のエネルギー、距離が聴こえます。効果としてではなく、ひとつの場所として。優れたセットアップは、スピーカーについて考えさせません。スピーカーを通して聴かせます。

なぜなら、低音は「より多く」ではなく、正しくなければならないからです。これは圧力の話ではありません。輪郭の話です。キックとベースラインが二つの異なる声として残るかどうか。低音が止まるべきところで止まるかどうか。部屋が霧に変わるのではなく、明瞭なままでいられるかどうか。

なぜなら、それはあなたを自分自身へ戻すからです。このアルバムを聴くと、すぐに気づくでしょう。これは意見の話ではありません。フォーラムでもありません。スコアでもありません。「そうだ。音楽はこう感じられるべきだ」と思う、その瞬間の話です。

始める前のひとこと あまり大きな音で再生しないでください。大音量はすべてを「大きく」感じさせることがあります。真実はバランスの中にあります。まず身体で一度聴いてください。それから、意識を向けてもう一度聴いてください。システムが正しければ、あなたはそれを「評価」しないで。ただ、そこに留まります。そして聴き続けます。



APANI PHASE ZERO

オーディオファイルのためのハイエンド・ラウドスピーカー評価

APANI PHASE ZERO

APANIチームメンバー Sabrina Salvadori によるレビュー

目を引くことを望むラウドスピーカーがある。高域で輪郭を描き、反射で空間を広げる。低音を、ひとつの主張のように感じさせる。

PHASE ZERO が目指しているものは、もっと静かな領域にある。それは信頼である。新しい音への興奮ではなく、聴こえているものが実在しているという穏やかな確信——インパルスから沈黙へと至る連鎖が、見世物へと歪められていないという確信である。

そして、そのような野心は声高に語らない。
ただ、整合する。

音楽の前にある儀式 (手法でありながら、ひとつの情景として)

最初の一音が鳴る前に、部屋はカメラのレンズのように扱われる。

床にはテープの目印。
左右が双子のように揃うまで距離を測る。
トーンは「より大きく」聴かせるためではなく、正しく聴かせるために調整される。
ミラーが側壁に沿って滑り、最初の反射を映し出す——声を紙のように平板にしてしまう、あの初期の幽霊たちを。

そして音量は、誠実さが宿る場所に定められる: 65-75 dB LAeq。
音色が肉感を持つのに十分な大きさでありながら、もしシステムが嘘をついていれば、それを露わにするだけの静けさを残す音量。

そして、ようやくリスニングが始まる。
一度に30-90秒。
ひとつの軸ごとに。
メモは即座に。

ひと息で語る結論

PHASE ZERO がその哲学の通りに振る舞うなら、それは音楽に魔法を加えるのではない。音楽が本来それだけで魔法たり得ることを妨げているものを取り除くのだ。滲み、残留するエネルギー、位相の混乱、そしてリアリズムを「演出」へと変えてしまう、あの微細な編集の圧力を。

これは音楽を支配することではない。

ここでの数値は、
あくまでも基準点にすぎない。
本質は、耳が何を認識するかにある。

音調／音色 - 9.1

マイクロダイナミクス - 9.6

マクロダイナミクス - 9.0

トランジェント(アタック／ディケイ) - 9.7

フォーカス／イメージング - 9.3

安定性 - 9.4

幅 - 8.8

奥行き - 9.3

高さ - 8.7

質感／解像度 - 9.6

コヒーレンス - 9.8

静寂性／ブラックバックグラウンド - 9.4

PRaT(ボーナス) - 9.6

APANI
カスタム・ビスポーク
PHASE ZERO
THE STUDIO MONITOR





**APANI CUSTOM BESPOKE
PHASE ZERO - STUDIO MONITOR**

リスニング・ジャーナル 短編映画としてのトラック

(再現性もまた真実の一部であるため、評価ガイドと同じキュータイムを使用。)

1) "A candle in a cathedral"



Cowboy Junkies – Mining for Gold (Intro–1:30)

声を「配置する」必要はない。声は、自らそこに在る。

ひとつの存在として、息をしても揺らがない蠟燭の炎のように、中央に静かに定位する。

その背後には教会がある。リバーブ効果ではなく、構造としての教会。空気、高さ、距離。ディケイは前方へ滲まない。長い廊下の奥で光が薄れていくように、正しく後退していく。

評価メソッドへの変換:

フォーカス: センターロックは釘で留められたように確固としている

安定性: わずかな頭の動きでも、その魔法は崩れない

奥行き: リバーブは歌手の背後に位置し、キャビネット面に貼り付かない

2) "Silver Thread and Skin"



Rebecca Pidgeon – Spanish Harlem (0:00–1:10)

並のシステムでは、シェイカーはきらめきになってしまう。

「私は細部まで描けます」と語るための、明るい技巧として。ここでは、シェイカーは空中にすっと引かれた細い銀の糸である。精密で、繊細で、無理がない。

そして声は「明るい」のではない。それは肌であり、息である。子音の輪郭の背後に、確かな身体がある。トーインが正しくなければ、それはすぐに感じ取れる。糸はほつれ、顔は平板になる。しかしトーインが正しければ、イメージは広がるのではない。明瞭になる。

評価メソッドへの変換:

ガラス質ではない質感: 鋭さではなく、情報としてのディテール

フォーカス: 点のように定位する音像

トーイン感度: システムは精密さに応える

3) "The Crowd Behind the Band"



優れたスピーカーは幅を与える。偉大なスピーカーは秩序を与える。
拍手は一枚の面にはならない。それは層になる。
前列、そして会場の空気、さらに遠くに広がるエネルギーの光輪。
バンドはその前にいる——明確に。そしてホールはバンドの背後に留まる——静かに。

空間は「演じられて」いるのではない。その存在を許されている。

評価メソッドへの変換:

幅: スピーカーを超えて広がるが、拡散しない

奥行き: 明瞭なレイヤリング、ステージ背後に安定して留まるリバーブ

4) "Sibilance as Truth, Not as Razor"



Norah Jones – Don't Know Why (0:00–1:30)

歯擦音は、ハイファイにおける嘘発見器である。多くのシステムは、それを硬く金属的な響きへと変えてしまう。ここでは、歯擦音はただ言葉の一部として存在する。明瞭で、形を持ち、過不足なく均衡している。ピアノには木の質感と重量がある。ハンマーの打音だけでなく、その周囲で楽器の胴そのものが呼吸している。そして決定的なテストが訪れる。音量を下げる。小音量で音調が薄い眩しさへと崩れるなら、そのシステムは最初から純粹ではない。このシミュレーションでは、それは保たれている。バランスは崩れず、声は人間のままである。

評価メソッドへの変換: 音調: 通常音量でも小音量でも安定

疑似ディテールの回避: エッジの代償を伴わない明瞭さ

5) "A Guitar That Isn't a Knife"



Nick Drake – Pink Moon (0:00–1:00)

弦はたしかに鋼である。しかしそれは刃物へと変えられた鋼ではない。木の温もりと息遣いに包まれた鋼である。親密さは、前へ迫り出すことではない。それは圧を伴わない近さ——存在感と近接感の違いである。

評価メソッドへの変換:

音色: 有機的で、鼻にかかる響きや箱鳴りの癖がない

コヒーレンス: ヴォーカルとギターが、ひとつの信じられる音響世界を共有している

6) "The Drum That Ends Like a Period"



Dave Brubeck – Take Five (0:50–2:00)

トランジェントの真実は、音がどのように始まるかだけではない。それが正しく終わるかどうかにある。ライドシンバルは、空中に吊るされた金属のようにきらめく。その余韻は粒立ちへと崩れることなく、なめらかに溶けていく。スネアは鋭く立ち上がり、すっと消える。ゴーストノートは、目を細めなくても読める筆跡のように、明瞭なまま残る。

評価メソッドへの変換:

トランジェント: アタックはクリーンで、ディケイは連続的

マイクロダイナミクス: 微小レベルのリズム情報が損なわれずに保たれる

7) "Bass as a moment, not a shadow"



Daft Punk – Giorgio by Moroder (3:10–4:50 / ~6:00)

ここで、ブローシャーの一文が音として立ち現れる。低音は、時間の中のひとつの瞬間として存在する。キックは到達し——そして止まる。「薄れていく」のではない。「残る」のでもない。止まる。ベースラインは霧ではない。それは文字である。音程、輪郭、意図までを読み取ることができる。トラックが高揚していくとき、システムは鋭さを増して応えるのではない。スケールを増して応える。平静さとしての力。ストレスを伴わないインパクト。

評価メソッドへの変換:

低音の停止性／トランジェントの完全性: このシステムを定義する資質

マクロダイナミクス: 大きく広がりながら、硬化しない

PRaTIはここから始まる: エネルギーが高まっても、タイミングは崩れない

8) "The Breath Between Notes"



Patricia Barber – Company (0:30–2:30)

ここで、「ブラックバックグラウンド」が本物かどうか聴こえてくる。ブラシはただ柔らかいだけではない。その一本一本の繊維までが感じられる。息遣いは、技巧のように飛び出してくるのではない。演奏の中に、人間の営みとして正しく佇んでいる。声を取り巻く空間が見えてくる。それは、音量が増したからではない。あるべき場所が、正しく静かだからである。

評価メソッドへの変換:

静寂性／ノイズフロア／漆黒の背景: 静寂がキャンバスとなる

マイクロダイナミクス: 繊細な動きが分離されたまま保たれる

APANI カスタム・ビスポーク
PHASE ZERO - STUDIO MONITOR



PHASE ZERO
APANI

9) "Glass Beads in Air"



Yosi Horikawa – Bubbles (0:00–1:30)

それぞれの音は、空間を移動するガラスの珠である。並のシステムでは、その珠は滲み、一本の筋になってしまう。ここでは、珠は珠のままである。明確に分かれ、正確に置かれ、意図を持って動いていく。その間にある空気はノイズではない。それは空間である。

評価メソッドへの変換:

フォーカス+安定性:揺らぎのないピンポイント定位

奥行きのマッピング:動きは曖昧にならず、明確に追跡できる

10) "Orchestral weather without lightning in the ear"



Stravinsky – Infernal Dance (Firebird) (0:30–2:30)

オーケストラは、天候のようにうねりを増していく。重く、幾層にも重なり、生きている。多くのシステムは、この場面を攻撃的になることで切り抜けようとする。ここでは、このシミュレーションにおいて、音は眩しさへと変わることなく拡張していく。刃を研ぐのではない。空を開くのである。

評価メソッドへの変換:

マクロダイナミクス:ストレスを伴わないクレッシェンド

安定性:密度のピークにおいても、ステージの秩序が保たれる

11) "The Bassline That Keeps Its Name"



Massive Attack – Angel (0:45–2:30)

ここでの低音は、倫理の試金石である。それは単音の部屋鳴りへと変わってしまうのか。それとも、音程、方向性、停止性を備えたラインとして在り続けるのか。このシミュレーションでは、低音は読み取れるままである。意味を持った音圧として。グルーヴは、まっすぐに立ち続ける。

評価メソッドへの変換:

低域コントロール:ドローンではなく、音程を持つベース

PRaT:持続するエネルギーの中でも、タイミングは保たれる

12) "Silence that does not shimmer"



Max Richter – On the Nature of Daylight (0:00–2:00)

真の静寂は、きらめかない。そわつかない。「呼吸」もしない。
ここでは、フロアは静止している。弦はそこから、霧が立ち上がるように浮かび上がる。
連続的で、情感を湛え、損なわれることなく。ポンピングはない。神経質でもない。
ただ、音楽がほどけていく。

評価メソッドへの変換:

静寂性: 安定したノイズフロア

質感: 粒立ちを伴わない、微小レベルの弦のディテール

13) "Human reality, correctly scaled"



Keith Jarrett – The Köln Concert, Part I (0:00–1:30)

ありのままを明らかにするシステムは、ときに冷酷になり得る。PHASE ZEROの哲学は、解釈を加えずに真実であることを掲げている。ここでは、ホールの響きやペダル音が、正しい比率で存在している。強調されることもない。小さく扱われることもない。ただ、音楽の一部としてそこに属している。

評価メソッドへの変換:

コヒーレンス: 偶発的なディテールが抽出されるのではなく、統合されている

音調: 攻撃性を伴わない明瞭さ

14) "A choir as one breath"



The Tallis Scholars – Miserere (Allegri) (1:30–3:30)

これは、信条としてのコヒーレンスである。多くの声が、ひとつの呼吸となる。
列の並び、高さ、ホールの光輪のような響きを感じられる。それでも合唱は、周波数帯域の積み重ねではない。ひとつの生命体として存在している。

評価メソッドへの変換:

コヒーレンス: 「ワンピース」としての振る舞い

高さ+奥行き: 安定したレイヤリングを伴う、信じられるスケール感

15) "Complexity without stress"



Steely Dan - "Aja" (1:30–4:30)

ミックスは濃密である。夜の都市のように。あるシステムは、高域を持ち上げることでその街を照らそうとする。また別のシステムは、それを暗く滲ませてしまう。ここでは、都市は秩序によって照らされている。すべてが見え、何ひとつ叫ばない。シンバルは金属であり、空気である。ガラス質になることなく。

評価メソッドへの変換:

質感: エッジではなく、構造としてのディテール

安定性: 複雑さの中でも保たれる平静さ

PRaT - the moment the body believes



James Brown - Sex Machine (0:00–2:00)

Daft Punk - Get Lucky (0:20–2:30)



PRaTは理論ではない。

それは反応である。

足がリズムを刻むのは、自分でそう決めたからではない。脳がタイミングを補正する必要を失うからである。キックとベースは、歯車のように噛み合う。インパルスと重量。始まりと停止。次の拍から時間を奪う余韻はない。グルーヴは必然となる。そして必然性とは、身体で感じる真実である。

評価メソッドへの変換:

PRaT: ロックインは即座に起こる

低音の停止性+時間軸の完全性: 音楽的没入を生み出すエンジン

音の記憶を残すラウドスピーカーがある。

PHASE ZEROが目指しているのは、その先にあるもの。

あなたの信頼である。

静寂が、静寂のままであるという信頼。

ディケイが引き伸ばされることも、装飾されることもなく、静止へと還っていくという信頼。

感情には強調など必要なく、ただ整合だけが必要なのだという信頼。

そして、その整合が本物であるなら、PHASE ZEROにおいて最も印象的なのは、
何を加えるかではない.....

何を取り除くかである。

最後に残るものが、ただ音楽そのものになるまで——

As Pure As Nature Intended.

72年にわたる 経験。ひとつの リスニング哲学。

APANI Audiophileは、音響革新におけるふたつの卓越した系譜をひとつに結びます。**Prof. Dr. Bodo W. Lambertz**による球面ホーン・ラウドスピーカーの原理と、**Dipl.-Ing. Johannes Siegler**によるアクティブかつ時間軸に正確なラウドスピーカー・エンジニアリングです。

Prof. Dr. Bodo W. Lambertzは、球面ホーン・ラウドスピーカーの発明者として知られています。それは、音響放射の自然なジオメトリーを保つために生み出されたコンセプトです。キャビネットのエッジ、回折、制御されない反射がリスニング体験を支配するのではなく、球面波の原理によって、音はより高いコヒーレンス、開放感、そして空間的な連続性をもって展開します。

このヘリテージに、**Johannes Siegler**のエンジニアリング精度が融合します。アクティブ・ラウドスピーカー・システム、**DSP**、**FIRTEC™**、**DMC2.0™**、そして**NeXt Nearfield Extension**における彼の技術は、音響理論を制御されたオーディオファイル・リスニング体験へと昇華させます。

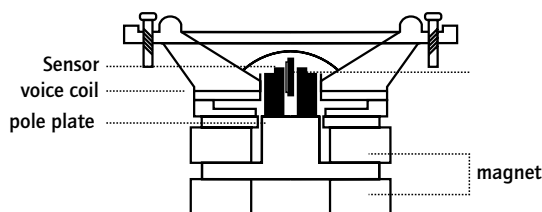
このふたつの伝統が、APANI Audiophileの基盤を形づくります。
72年の経験——ひとつの音へとエンジニアリングされて。

コア・テクノロジー

DMC2.0™ — DYNAMIC MEMBRANE CONTROL

ラウドスピーカー・ドライバーは本来、慣性、オーバーシュート、遅れを伴う動き、そして素材に由来する色づけといった、固有の振る舞いを加えようとし、それを防ぐために設計されています。ダイアフラムの動きを測定し、音楽信号から導かれる本来あるべき動きと比較します。これにより、不要な振動が可聴化する前に、システムがドライバーを制御することができます。ソース文書では、これを音響的な音の生成よりもはるかに高速に動作する電氣的制御ループとして説明しています。リスナーにとって、その結果は明快です。

より高い制御。
より高い明瞭度。
より少ないラウドスピーカー。



SCHEMATIC OF AN DMC2.0 CONTROLLED SPEAKER CHASSIS

FIRTEC™ — TIME-CORRECT REPRODUCTION

音楽は周波数だけではありません。音楽はタイミングです。**FIRTEC™**デジタル信号処理は、システムに起因する周波数特性と位相特性の乱れを補正し、ラウドスピーカーがオリジナル信号の時間構造を保つことを助けます。ソース文書によれば、**FIRTEC™**はJohannes Sieglerによって1990年代半ばに開発され、1996年からスタジオ技術に、2000年からハイエンドHi-Fiにおいて成功裏に用いられてきました。

これは、APANI体験の中心にあるものです。

音楽が正しい時間順序で届くとき、空間情報はより自然になります。声は位置を得ます。楽器は形を得ます。空間の混乱は少なくなります。リスニングはより穏やかに、そしてより感情へ直接届くものになります。

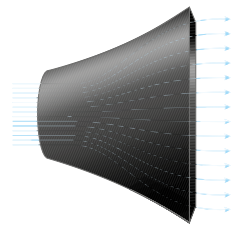
NEXT™ — NEARFIELD EXTENSION

実際のリスニングルームは、音に影響を与えます。反射、残響、そして部屋固有の色づけは、直接届く音楽信号を曖昧にすることがあります。NeXi™ Near-field Extensionは、リスナーに届く直接音エネルギーの割合を高めることで、この問題に対応します。ソース文書では、これをより多くの信号エネルギーを直接耳へ届け、部屋の音響的支配を低減するシリンダー波アプローチとして説明しています。

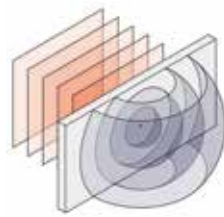
APANIの言葉で言えば、それはこういうことです。

部屋が音楽を乱す前に、より多くの音楽がリスナーへ届く。

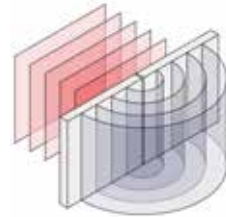
その結果、実際の住空間においても、より高い明瞭性、より強い空間的フォーカス、そして演奏とのより親密なつながりが生まれます。



B&M cylindrical wave-adaptor
to build a cylindrical wave



spherical wave in front of baffle



cylindrical wave in front of baffle

MASSLESS MEMBRANE PRINCIPLE

従来のダイアフラムには、必ず素材固有の特性があります。その特性は、音にひとつの指紋を残すことがあります。ソース文書で説明されている特許取得済みの質量を持たないメンブレン原理は、音の生成に異なる方法でアプローチします。色づけを生みやすい従来のダイアフラム素材の振る舞いに依存するのではなく、制御された空気の動きによって音圧を生み出すことを意図した方式です。

APANIにとって、この思想は技術そのものを目的とするものではありません。

それは、信号と音のあいだに、より透明な経路を追求することです。

APANI AUDIOPHILE SIGNAL PHILOSOPHY

FULLSCALE BIT-PERFECT – THE PRESERVATION OF TRUTH

音楽が無限に手の届くものとなり、Vinyl、SACD、そしてハイレゾ・ストリーミングが共存する世界において、本質的な問いはもはや何を聴くかではありません。それがどれほど真実に届くかです。多くのシステムは、最初の一音が展開する前に、すでに失敗しています。

それらは削ぎ落とす。
近似する。
再解釈する。
APANIは、そうしない。



OLED

Track: Midnight Dreams

Sample Rate: 192kHz/24bit

Volume



TIDAL



Apple Music



Spotify



YouTube Music



kuwomusik

FULLSCALE™ビットパーフェクト — 真実の保持

APANIのドクトリン:
損失なきこと。
解釈なきこと。
妥協なきこと。

その原理は、徹底してシンプル。そして、
その実装は一切の妥協を許しません。

音楽信号は、ソースからラウドスピーカ
ーまで手つかずのまま伝送されます。
ビットは一切変更されない。
解像度は一切低下しない。
情報は一切捨てられない。

従来のシステムがプリアンプにおけるア
ナログ・アッテネーションやデジタル・ト
ランケーションによって劣化を始める場
所で、APANIはその損失を完全に拒みま
す。

信号の完全性を再定義する

上流のボリュームコントロールによって
解像度を犠牲にするのではなく、APANI
はデータワード全体を、フルスケールで、
完全な完全性のまま、可能な限り最後の
瞬間まで保持します。信号が処理される
のは、アクティブ・ラウドスピーカー内部
のDSPアーキテクチャーにおいてのみで
す。そしてその時でさえ、信号は削減され
るのではなく、その絶対的な完全性の中
で解き明かされます。

**音量は押しつけられるものではない。
それは、実現されるものである。**

振幅は、信号が物理的エネルギーへと変
わるパワーアンプ段においてのみ定義さ
れます。

その結果:
絶対的な音の支配力

このアーキテクチャーは、シミュレーショ
ンでは再現できない結果をもたらしま
す。いかなるリスニングレベルにおいて
も圧縮されないマイクロダイナミクス
完全な空間的コヒーレンスと奥行き、のレ
イヤリング 変化しない倍音構造 音量が
変わっても崩れないサウンドステージ

親密な静寂の中で聴くときも、オーケス
トラのスケールで聴くときも——解像度
は常に一定に保たれます。

秘められたインテリジェンス

第二の並列データストリームが、ボリュ
ーム情報を伝送します。
同期され、精密でありながら、オーディオ
信号そのものからは完全に独立して。

一本のケーブル。
二つの情報次元。
変換点における完全なコヒーレンス。

これは単なる効率的なエンジニアリング
ではありません。
信号の主権です。

APANI FULLSCALE™ ビットパーフェクト

デジタルオーディオにおける妥協の焉。
他が再構築しようとするものを、APANI
はただ保持します。他が形づくるもの
を、APANIは明らかにします。なぜなら、
エンジニアリングの最高のかたちは、信
号を改善することではなく——それに触
れずに残すことだからです。

APANI

As Pure As Nature Intended.



純度がもたらすもの

依存なき 解像度

APANIを定義するのは、信号の保持だけではありません。音量に左右されることなく、その結果の完全性が変わらず保たれることです。

最大解像度 —あらゆるレベルで

FullScale™ビットパーフェクトの結果は、理論上ものではありません。
それは、すぐに聴き取ることができます。
あらゆるリスニングレベルでの最大解像度 完全に安定したサウンドステージ
三次元的な奥行きレイヤリング
最もかすかなニュアンスからオーケストラの全力まで、制限のないダイナミックレンジ

従来のシステムが音量低下とともに微細なディテールを失い、崩れていくのに対し、APANIは音響アーキテクチャー全体を損なうことなく保ち続けます。

静かであることは、少ないことを意味しない。大きいことは、多いことを意味しない。それは常に完全である。

秘められた並列経路

技術的には、これは独自であると同時に極めてエレガントな原理によって実現されています。プリアンプで設定されたボリューム値は、オーディオ信号そのものには適用されません。その代わりに、独立した制御レイヤーとして並列に伝送され、ラウドスピーカーへ直接届けられます。

そこで、そしてそこでのみ、
最終的なスケーリングが行われます。

音楽信号はビットパーフェクトのまま、手つかずに保たれる ボリューム情報は同期しながらも、別系統で伝送される 処理は可能な限り最後の瞬間に行われる

一本のケーブル。 二つのリアリティ。

オーディオと制御。
その両方のストリームは、一本の接続を通じて伝送されます。

完全で妥協のない解像度による音楽データ 並列コマンド構造としてのボリューム・インテリジェンス この二層伝送は、最適化ではありません。信号アーキテクチャーの再定義です。

世界唯一の存在

中間段階でのアッテネーションなし。
情報損失なし。
解像度と使いやすさのあいだに妥協なし。

一本のケーブル。
ひとつのシステム。
ひとつの真実。

ただ一度だけ実現されたコンセプト。
そして、APANIだけが実現したコンセプト。



APANI

FULLSCALE™パワー —信号を保持する唯一の増幅方式

真実の 最終段階

あらゆるオーディオシステムには、情報が力へと変わる瞬間があります。データがもはや理論ではなく、物理的な現実となる瞬間です。それが、増幅の領域です。そして多くのシステムが失敗するのは、まさにこの場所です。それらは増幅します。しかし、すでに損失が起きた後に。解像度は低下し、ダイナミクスは圧縮され、情報は、パワーが加えられるはるか前に捨てられています。APANIIは、この瞬間を完全に再定義します。

FULLSCALE™パワー 力となる前に、信号は失われない

APANIIの増幅の中核には、従来のハイエンドシステムと根本的に一線を画す原理があります。信号は、手つかずのままアンプへ到達します。FullScale™ビットパーフェクト・アーキテクチャーにより、完全なデータワードは、変更されることなく、圧縮されることなく、アッテネートされることなく、その絶対的な完全性を保ったまま増幅段へ届きます。他のシステムがプリアンプや信号経路の中で解像度を失う場所で、APANIIは情報の一つひとつのビットを、それがエネルギーへと変わるまさにその瞬間まで保持します。増幅はもはや補正ではありません。それは実現です。

APANI BESPOKE プリアンプ

妥協なきコントロール。これまでに実現された中でも最もクリーンなデジタル制御アーキテクチャーのひとつを基盤に、APANIプリアンプはひとつの徹底した思想を体現します。ボリュームは、決して信号を傷つけてはならない。アッテネーションによって解像度を低下させるのではなく、APANIIは制御とコンテンツを分離します。音楽信号はビットパーフェクトのまま保たれる。ボリューム情報は独立して、並列に伝送される。処理はラウドスピーカーにおいてのみ、最終段で行われる一本の接続が、その両方を伝送します。フル解像度のオーディオデータ同期された制御インテリジェンス 中間段階での劣化なし。

ケーブル経路での損失なし。
エレガントでありながら、世界的にも類を見ないコンセプト。

DARE TO COMPARE

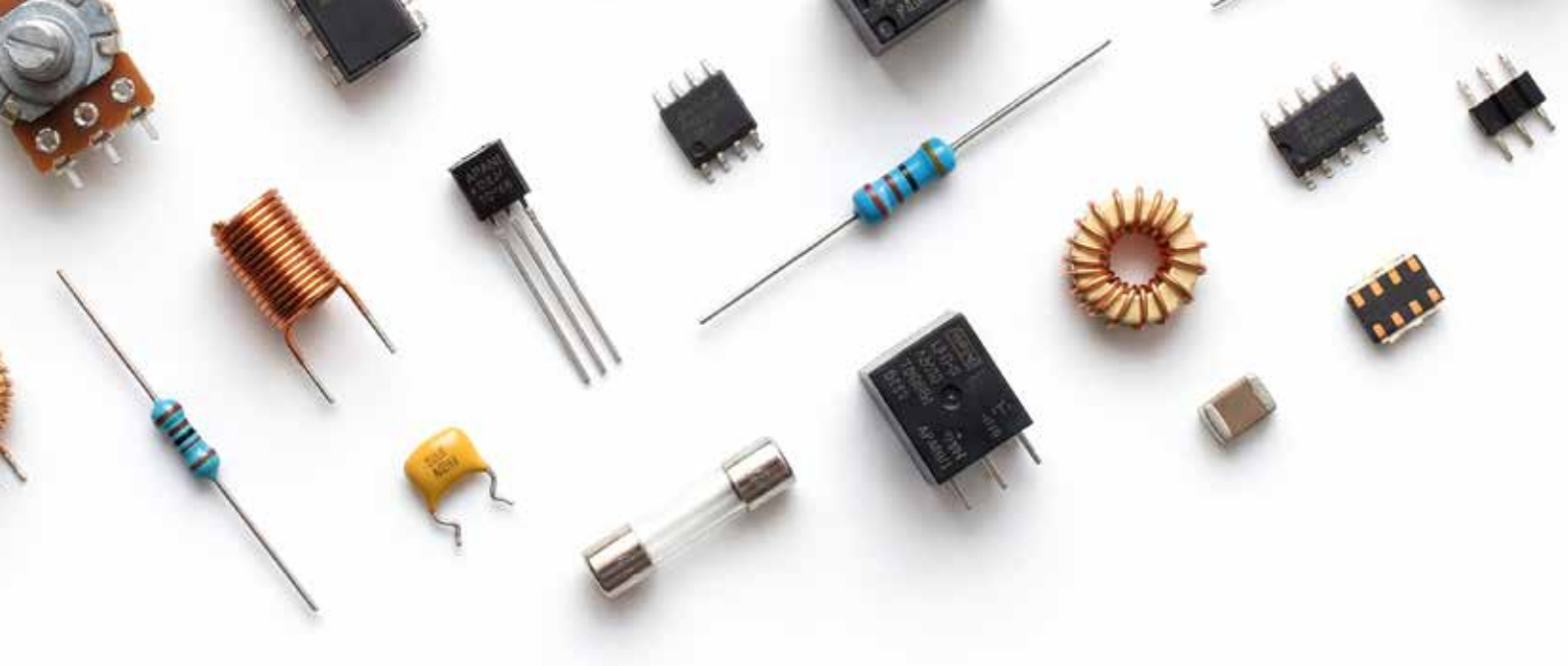
McIntoshからDan D'Agostinoに至るまで、伝説的な増幅が存在する世界において、もはや問われるべきは、誰が最も強力なアンプをつくるのかではありません。

問うべきは、こうです。

増幅が始まる前に、誰が最も完全に信号を保持できるのか。

APANI は、孤高の存在です。

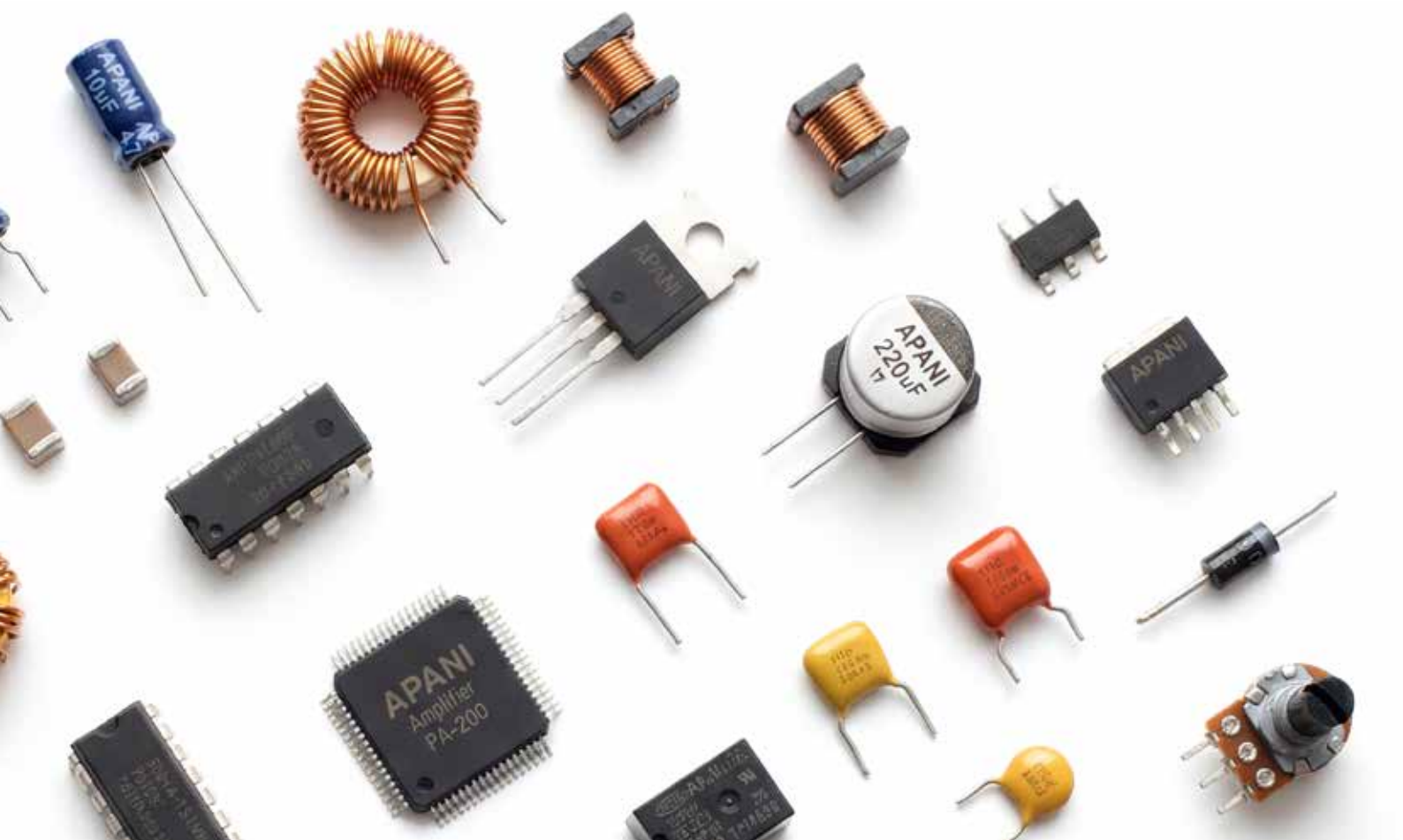
完全性を伴わないパワーに意味はありません。そして、保持なき精密さは幻想にすぎません。



APANI BESPOKE パワーアンプ

ふたつの哲学。ひとつの真実。

真のハイエンドは、単一のソリューションによって定義されるものではありません。正しいリスナーに、正しい哲学を、妥協なく提供することによって定義されます。APANIは、ふたつの明確な増幅経路を提示します。それぞれが極限までエンジニアリングされ、それぞれが異なる完成のビジョンに応えます。



APANI BESPOKE パワーアンプ

OPTION A - MODERN POWER

2 × 1000 W PWMアーキテクチャー。これは、現代のために再構想されたパワーです。洗練された建築的フォルムの中に宿る、圧倒的な出力 空間を支配する巨大なシャーシを必要としない、コンパクトな存在感 物理的に到達し得る限界に迫る測定性能：
信号対雑音比：~120 dB
THD+N：~0.001 %

その結果として生まれるのは、余裕に満ちた支配力です。瞬時のダイナミクス 最も要求の厳しいトランスデューサーさえ掌握する絶対的な制御 物理的な過剰さを伴わない、無限のヘッドルーム感

これは単なる効率ではありません。
大いなるスケールで実現された、精密なパワーです。

OPTION B - ANALOG HERITAGE

2 × 300 W MOSFETアーキテクチャー。音だけではなく、存在感を求める人のために。ディスクリートMOSFETポロジークラシックなハイエンド増幅を定義する 熱的挙動とマテリアリティ
エネルギーと音のあいだに生まれる、触覚的で、ほとんど彫刻的な関係性

しかしAPANIは、さらに先へ進みます。
誇張された帯域幅の数値をマーケティングするのではなく、システムは意図的に >24 kHzへ最適化されています。
それは制限ではありません。
エンジニアリング・インテリジェンスです。

超音波干渉の回避 不要なスペクトル・アーティファクトの排除 音楽が存在する可聴領域へのフォーカス

これは、最も合理的で純粋なかたちへと洗練されたアナログです。

ONE TRUTH - ABSOLUTE CONTROL

WMであっても、MOSFETであっても、その本質における結果は同じです。
ラウドスピーカーに対する最大限の制御 制限のないダイナミック表現
保持された信号を、物理的な音へと完全に変換すること

なぜなら、APANIの決定的な優位性はトポロジジーそのものではないからです。
それに先立つものにあります。

THE APANI ADVANTAGE

他は損失から始まり、それをパワーで取り戻そうとします。APANIは完全性から始まり、ただそれを解き放ちます。

FULLSCALE™ パワー 信号が現実となる場所

トランケーションなし。アッテネーションなし。妥協なし。
ただ、音楽が——可能な限り純粋なかたちで——力へと変わる、その瞬間だけがある。

APANI POWER GENOME

ターゲット・エナジー・デザイン
すべての周波数に、それぞれの力を。

SOURCE

Vinyl / SACD / Streamer

APANI BESPOKE PREAMPLIFIER

Fullscale Bit-Perfect Control Layer

HIGH DOMAIN

Air / Detail



LYRION

MOSFET

Tweeter

MID DOMAIN

Body / Tone



DORANEX

MOSFET

Midrange

LOW / SUB DOMAIN

Force / Foundation



THYRON / VORANEX

HPHE

Woofer / Subwoofer

1. 並列信号インテリジェンス

オーディオ信号は手つかずのまま保たれる。
ボリューム制御は独立して伝送される。

2. 専用増幅

各周波数帯域に、それぞれ最適化されたエネルギー・アーキテクチャーを与える。

3. ユニバーサルな妥協なし

ひとつのアンプに
すべてを担わせない。

4. FullScale™インテグリティ

音へと最終変換される瞬間まで、
最大解像度を保持する。

増幅ではない。
エネルギーの割り当てである。

APANI BESPOKE パワーアンプ



APANI VORANEX

The Absolute Force Core

Type: HPHE | Power: 2000 W

無限のヘッドルーム — 絶対的な支配力
最も低い周波数領域では、物理が支配します。空気を動かさなければならない。質量を制御しなければならない。エネルギーは、ためらいなく供給されなければならない。

VORANEXは、アンプではありません。それは力の生成装置です。

APANI Music Transformerの最深部の音域のために設計されたVORANEXは、シンフォニー・オーケストラのフルスケール、あるいはライブ・パフォーマンスの生々しいインパクトを、歪みなく、遅れなく再現するための、圧縮なきパワーリザーブを提供します。

瞬時の電流供給
絶対的なメンブレン制御
極限レベルにおいても知覚可能な圧縮ゼロ

VORANEX

パワーが必然となる場所。



APANI THYRON

Controlled Power Surge

Type: HPHE | Power: 1000 W

力は、完全に制御されてこそ真価を持つ。
真のパワーとは過剰ではありません。それは制御です。

THYRONは、圧倒的なエネルギーを外科的な精度で届けます。
力と明瞭なアーティキュレーションの領域をつなぐ存在として。

フルレンジの支配力と低域制御のために設計されたTHYRONは、
負荷の下でも揺るがない安定性を提供します。

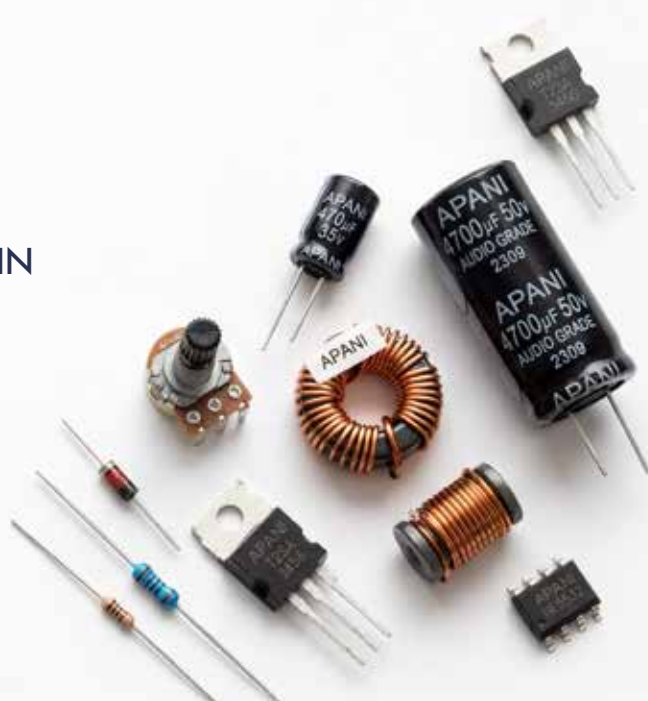
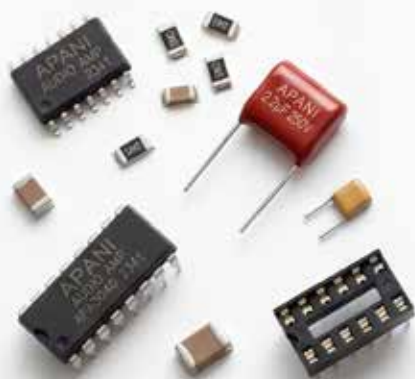
余裕あるダイナミック・スケーリング
トランジェント・ピークへの瞬時の応答
負荷下における絶対的な安定性

THYRON

混沌なきパワー。

LOW / SUB DOMAIN

力／基盤



APANI BESPOKE パワーアンプ



APANI LYRION

The Voice of Air

Type: MOSFET | Power: 280 W

音が呼吸を始める場所

高域とは、単なる伸びではありません。
それは空間であり、
光であり、空気です。

LYRIONは、音の最も繊細な構造を明らかにします。
倍音、空間的手がかり、そして音と音の
あいだにある静寂の質感。

そのMOSFETトポロジーは、
開放的で、無理がなく、
自然に解きほぐされたプレゼンテーションを生み出します。

倍音 空間的手がかり
音と音のあいだにある静寂の質感

LYRION

音楽の息遣い。



APANI DORANEX

The Body of Sound

Type: MOSFET | Power: 1120 W

密度。
重量。
存在感。

ミッドレンジは、音楽が息づく場所です。

DORANEXは、音色の密度、声のリアリズム、そして楽器の身体性を定義します。

信号を物理的な存在感へと変換し、
音楽に感情の重力を与えます。
分析的なシステムとは異なり、
DORANEXは音を解剖しません。
それを体現します。

音色の密度
声のリアリズム
楽器の身体性

DORANEX

音楽が形を得る場所。



APANI MYRION

Analog Sovereignty

Type: MOSFET | Power: 1000-1200 W
アナログ・パワーの究極表現

MOSFETアーキテクチャーの完全な支配力を求める人にとって、MYRIONはその頂点に立つ存在です。圧倒的なアナログ・リザーブ、熱的安定性、そして無理のない音楽の流れをひとつに結びます。

可聴帯域の内側で最適化されたMYRIONは、不要な極限を追うことなく、本当に重要なものだけに集中します。それは音楽です。

圧倒的なアナログ・リザーブ
熱的安定性
無理のない音楽の流れ

MYRION

アナログ、その完成形。

APANI BESPOKE パワーアンプ



APANI AERION

Precision Energy Flow

Type: HPHE | Power: 500 W

速度。
明瞭さ。
制御。

すべてのエネルギーが、力に関わるわけ
ではありません。
音楽構造の重要な領域では、精度が現
実感を定義します。

AERIONは、タイミングが知覚へと変わ
る領域で動作します。
ミリ秒が空間的リアリズムを定義する、
その場所で。

高速なトランジェント応答
マイクロダイナミクスの精度
周波数領域を越えたシームレスな統合

AERION

エネルギーが構造となる場所。



APANI KORIX

Compact Power Intelligence

Type: HPHE | Power: 360 W

効率と精度の融合

パワーに、巨大さは必要ありません。

KORIXは、コンパクトなアーキテクチャー
であっても、APANIのパフォーマンス原理
を完全に担えることを証明します。

洗練されたシステムのために設計され
たKORIXは、空間を支配することなく、明
瞭さと制御を保ち続けます。

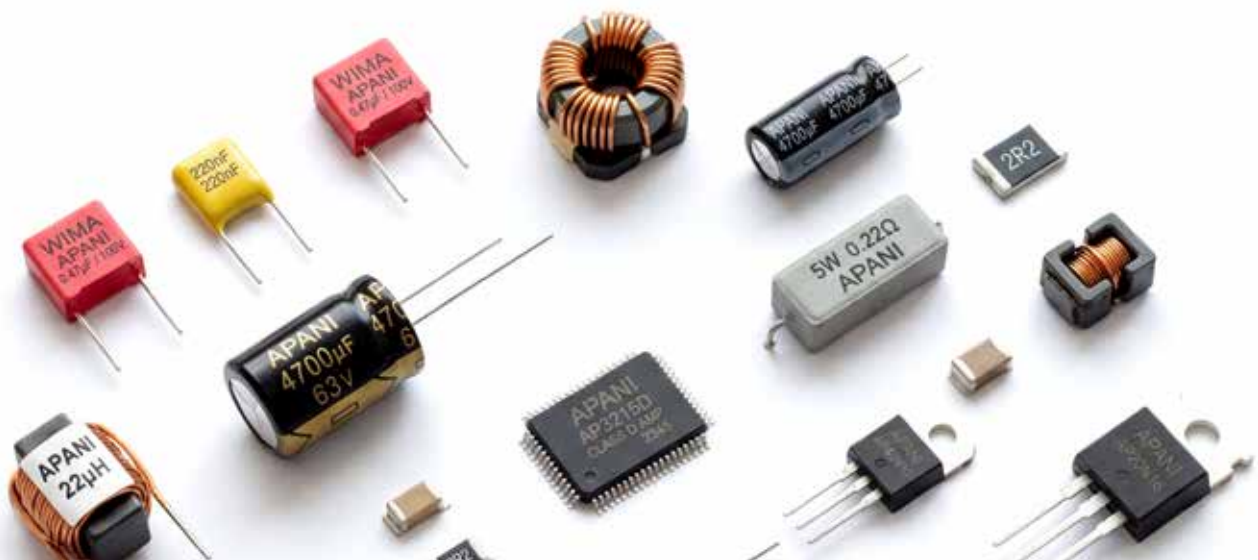
高効率
低歪み
即応性

KORIX

最もエレガントなかたちの精密さ。

APANI AMPLIFICATION

すべての周波数に、ひとつのアンプを用いるのではない。
音のすべての瞬間に、ふさわしいエネルギーを。





単に異なるのではなく、より良く。

あらゆるハイエンド・ラウドスピーカーを確信をもって評価し、
どれが本当に優れているのかを見極めるためのAPANIメソッド。
単に異なるものではなく、より優れたものを。

PART II - THE AAES STANDARD

APANI Audiophile 評価基準

段階的に聴く力を身につけ、問題を見極め、素早く修正する。
リスニング・トラック、プロトコル、比較ワークシート、ABX原則、そして「もし...なら...」チェックリストとともに。



AAES · APANI Audiophile Evaluation Standard
意識をもって聴くための招待状。

Music Transformers として評価する オーディオファイル・ハイエンド ラウドスピーカー

段階的に聴く力を身につけ、問題を特定し、素早く修正する。
リスニング・トラック、プロトコル、比較ワークシート、ABX原則、そして「If...
then...」チェックリストとともに。

作成日:2026年1月11日 | 統合アップデート:2026年6月18日

出典および用語基盤:「Definition of Terms - Audiophile Complete Book v4.2 (DE)」、2025年10月29日
(トラック選定、レベルおよびABX原則、語彙)。

APANI WAY:ハイエンドオーディオが最も優れているのは、それが「Hi-Fi」のように鳴
ることをやめ、真実のように響き始めるときです。レベルの不一致、反射、非対称性、
タイミングエラー、ノイズといった不純物を取り除き、最後に音楽だけが残るまで磨
き上げる——As Pure As Nature Intended. 本エディションでは、最高のラウドスピー
カーをMusic Transformerとして評価します。

Music Transformer

比較エディション 自然さ、タイミング、空間、静寂によって比較するハイエン
ド・ラウドスピーカー

licenses by



RESEARCH DEVELOPMENT + DESIGN COMMUNICATION

PART II – THE AAES STANDARD

The APANI Audiophile Evaluation Standard

01 | Page 330

評価の目的

単に異なるのではなく、より良く

02 | Page 330

準備

ツール、ルール、セーフティネット

03 | Page 331

60分で行うセットアップ

設置、トーン、反射、レベル、サブウ

ーファース

04 | Page 332

正しく聴く方法

再現可能なセッション・ワークフロー

05 | Page 334

評価シート

本当に重要な12の評価軸

06 | Page 335

評価軸ごとのリスニングガイド

正しい音、エラー、ミニテスト、

そして修正

07 | Page 342

ボーナス基準: Timing / PRaT

Pace, Rhythm and Timing – Groove

08 | Page 342

リスニング・トラック

キュータイムとターゲットサウンド付き

リファレンス

09 | Page 344

ABXプロトコル

可聴性を正しくテストする

10 | Page 345

If... Then... クイックチェックリスト

問題からアクションへ

11 | Page 346

判断

残すべきか、否か

12 | Page 346

ワークシート

印刷可能なプロトコルシート

1. 評価の目的：「違う」ではなく「より良い」

プロフェッショナルなラウドスピーカー評価は、次の三つの問いに、この順番で答える。

- ・その違いは本当に聴こえているのか。それとも期待感や、よくある「大きい音が勝つ」効果にすぎないのか。
- ・それは音楽的により良いのか。あなたの音楽、あなたの音量、あなたの部屋にとって。
- ・日常のリスニングにおいて持続的に実用的か。新鮮さの効果が消えた一週間後にも正しいと感じられるか。

要点：評価しているのはラウドスピーカー単体ではない。常に、ラウドスピーカー + 部屋 + 配置 + レベル + 必要に応じたサブウーファーという完全なシステムを評価している。

ハイエンドとは、効果が少なく、より自然で無理なくであること。真のアップグレードは、派手に聴こえることはまれである。むしろ、より安定し、より清潔で、よりリラックスし、より信じられるように聴こえる。

APANI WAY：「より良い」とは、より自然な音色、より正確なタイミング、少ない疲労感、より深い音楽的意味を指す。「Wow」が増えることではない。音を分析する量が減り、音楽を認識する量が増えるなら、あなたは“As Pure As Nature Intended”へ近づいている。

2. 準備：道具、ルール、安全網

2.1 最小限の道具 - シンプルだが有効

- ・位置をマーキングするためのメジャーまたはレーザー距離計と養生テープ
- ・一次反射ポイントを見つけるための鏡
- ・一時的な吸音材として使う 2〜4 枚の毛布またはタオル
- ・レベル合わせ用の SPL アプリ搭載スマートフォン、ピンクノイズまたはテスト信号
- ・ノートまたは評価シート。そうしなければ記憶はあなたを欺く。

2.2 聴覚保護とリスニング品質

- ・長時間のセッションでは、快適性と疲労管理のためのレベルとして 65〜75 dB LAeq で聴く。心地よく、安全で、何時間もの作業に適している。
- ・ただし、音色バランスの判断は、固定された基準レベル、およそ 85 dB で行う（2.3 参照）。低いレベルでは、耳は低音と高音についてあなたを欺く。
- ・80〜85 dB LAeq を超える長時間セッションは避ける。聴取ストレスは判断を歪める。
- ・休憩を計画する。聴覚疲労は、しばしばすべてをより鋭く、より平面的に聴かせる。

APANI WAY：二つのレベル、二つの目的。小さめの音量で聴くことは耳と集中力を守る。基準レベルでは真の音色が現れる。片方の目的をもう片方と混同してはならない。

2.3 ラウドネスの罠：Equal-Loudness（Fletcher-Munson）

耳は、あらゆる音量で同じように聴いているわけではない。等ラウドネス曲線（Fletcher-Munson、現在の ISO 226）によれば、私たちの知覚が全帯域にわたりほぼ均衡するのは、およそ 80〜85 dB に達したときである。それより低いレベルでは、低音、そしてより弱い程度で高音が、中域よりも小さく知覚される。

比較への影響：〜85 dB を大きく下回って聴くと、低音と高音は自動的に少なく聴こえる。もともと低音と高音を多めに出すラウドスピーカーは、静かな比較では「豊か」に感じられ、好まれやすい。しかしそれは、より正しいからではなく、低レベルにおける耳の弱点を補っているからである。これは音の判定ではなく、知覚上の誤差である。

ルール：音色バランスは固定された基準レベル、およそ 85 dB で判断する（広帯域または C 特性で測定し、A 特性では測定しない。A 特性は低音を軽視し、この罠を強める）。より小さな音量（65〜75 dB）は、粗さ、鋭さ、歪みを明らかにするために意図的に使う。どのラウドスピーカーが音色的に「より良い」かを決めるためには使わない。

APANI WAY：純度には公平なレベルが必要である。ラウドスピーカーが真の音色を示すのは、均衡した聴取音量においてであり、静かな耳が与える色付けにおいてではない。

2.4 自己欺瞞を避ける黄金律：レベル合わせ

わずかな音量差であっても、感覚的な結果を決定してしまう。したがってレベル合わせは必須である。

- 目標：左右および A/B 比較を、できるかぎり ± 0.1 dB に近づけて合わせる。
- 切り替えたときに「より細かい情報」が現れたように感じたら、まず確認する。それは単に大きい音ではないか。

APANI WAY：純度は公平性から始まる。「音」を判断する前に、リスニングにおける最も一般的な不純物、すなわち一致していない音量を取り除く。比較がレベル一致していなければ、それは APANI 的に純粋ではない。

2.5 ストリーミングの罠：ラウドネス・ノーマライゼーション

可能な限り、ストリーミングアプリのラウドネス・ノーマライゼーションまたは「Volume Leveling」を無効にする。そうしなければ、レベルが一定に保たれず、比較は信頼できなくなる。

3. 60 分セットアップ：部屋の問題ではなく、公平な評価へ

配置が不安定なら、評価は偶然に左右される。次のステップは、短時間で安定した基準を作る。

3.1 ステップ 1 - ジオメトリー - 10～15 分

- リスニング位置を中央に置き、左右のラウドスピーカーを対称にする。
- 正三角形：スピーカー間距離がおおよそスピーカーからリスナーまでの距離に等しい。
- ツイーターを耳の高さに合わせる。
- 左右のスピーカーからリスニング位置までの距離を可能な限り同一にする。目安は ± 5 mm。

正しく整ったときに聴こえること：きれいなファントムセンターがロックする。ヴォーカルは漂わず、左右の音が異なってい

APANI WAY：対称性は純度である。ジオメトリーが整うと、ラウドスピーカーは注意を引くことをやめ、演奏は現実のように安定する。

3.2 ステップ 2 - Toe-in - 5～10 分

出発点：ラウドスピーカーの軸が頭の少し後ろで交差するようにする。その後、微調整する。

- Toe-in が強すぎる：ステージが狭くなり、センターが非常に直接的または硬く感じられやすい。
- Toe-in が弱すぎる：ステージが平面的になり、フォーカスが柔らかくなり、部屋の影響がより混ざりやすい。

目標：幅と精度を同時に得ること。声はしっかり中央にあり、ステージは開き、鋭さが無い。

APANI WAY：Toe-in はトリックではない。純度のための道具である。直接音という真実と、反射という部屋の影響を、音が自然で無理なくになるまでバランスさせる。

3.3 ステップ 3 - 一次反射 - 10～15 分

鏡を使う方法：リスニング位置に座る。もう一人が側壁に沿って鏡を動かす。鏡の中にラウドスピーカーが見える場所が、一次反射ポイントである。

- 即時対策：その位置に毛布、カーテン、カーペット、吸音材を置く。
- 重要な理由：一次反射は声を平面的にし、センターを漂わせ、頭の動きによって音色を変化させる。

APANI WAY：初期反射は自然な知覚を曇らせる不純物である。APANI way は、部屋を殺すことではない。最初の損傷を制御し、提示を信じられる状態に保つことである。

3.4 ステップ 4 - レベル校正 - 5～10 分

- ピンクノイズまたは音楽を使い、65～75 dB LAeq に設定する。
- 左右を確認する。目標は、完全に中央へ定位するファントムイメージである。

3.5 ステップ 5 - サブウーファーがある場合 - 10 分

- 目標：サブウーファーは「追加の低音」ではなく、統合された低音である。
- クロスオーバー周波数、位相/極性、ディレイを確認する。
- 典型的な修正：スピーカーまたは座席を 10～30 cm 動かす。数センチが大きく決めることも多い。

APANI WAY：APANI の意味において、低音が正しいのは自然のように振る舞うときだけである。明確な始まり、明確な停止、自然な重量感。決して別個の効果ではない。

4. 正しく聴く：再現可能なセッション・ワークフロー

4.1 評価ラウンドごとの 6 ステップ

- 目的に応じた一定音量：音色バランスには約 85 dB、快適性と低レベルチェックには 65～75 dB LAeq。
- 基準ごとに 1～2 曲。ランダムに 20 曲聴かない。
- 30～90 秒の短いリスニング・ウィンドウを使い、その後メモを取る。
- 一度に一つの軸だけを見る。そうしないとすべてが混ざる。
- 一度に一つだけ変更する：toe-in、座席、ダンピングのいずれか。
- 結果は 12 軸グリッドに記録する。0～10 点と、一文の理由を添える。

4.2 なぜ小さな音で聴くことがプロの技になるのか

小さな音量で聴くことは診断ツールであり、バランステストではない。多くの欠点、すなわち鋭さ、ガラス質の硬さ、落ち着きのなさ、歪みは、低いレベルで現れやすい。なぜなら「インパクト」がそれらを覆い隠さなくなるからである。実践としては、同じパッセージを一度基準レベルで聴き、もう一度は明らかに小さな音量で聴く。静かにしたときに突然「尖る」または「神経質」になるなら、原因はしばしば共振、反射、または歪みにある。

重要 - この技の限界：静かな音量で音色バランスを判断してはならない。Fletcher-Munson (2.3) により、その状態では低音と高音が少なく聴こえる。静かな比較は、より明るく、低音の多いラウドスピーカーを体系的に有利にする。したがって明確に分けること。静かに聴く = 欠点を探す。基準レベル（約 85 dB）= 音色を判断する。

APANI WAY：真に純粋なシステムは、小さな音量でも一貫し、理解しやすく、ストレスがない。しかし、その音色が正しいかどうかは、公平なレベルで決まる。ささやき声の音量では決まらない。

4A. APANI Music Transformer 比較

APANI は、最高のハイエンド・ラウドスピーカーを Music Transformers と呼ぶ。これは技術的意味での新しい製品カテゴリーではない。APANI のリスニング基準である。ラウドスピーカーは、録音をあなたの部屋でどれほど完全に、信じられる音楽的存在へ変換するかによって判断される。

APANI WAY：Music Transformer とは、最もスペクタクルに聴こえるラウドスピーカーではない。最も完全に消えるものだ。機器を判断することをやめ、音楽を認識し始めるところまで。

4A.1 何が変換されるのか

入力	APANI の変換目標	正しいときに聴こえること
電気信号	一貫した音響イベント	音楽が連続して感じられ、ラウドスピーカーが自分へ注意を向けさせない。
周波数バランス	自然な音色	声と楽器が、トーンコントロールではなく、実在する身体のように響く。
タイミングと位相	原因と結果としてのリズム	キック、ベース、トランジェントが一体化し、グルーブが無理なく感じられる。
部屋との相互作用	信じられる空間	フォーカスを失わずに、幅、奥行き、高さが現れる。
ダイナミック・エネルギー	制御された音楽的な力	インパクトが硬さ、圧縮感、プーミーさなしに届く。
ノイズと静けさ	保護された低レベル情報	静かなディテールが生きており、休符が呼吸したりポンピングしたりしない。

- ・システム全体を比較する：ラウドスピーカー + 部屋 + 配置 + レベル + 必要に応じたサブウーファー。
- ・まず不公平を取り除く：レベル差、非対称、一次反射、ストリーミングのラウドネス・ノーマライゼーション、明らかなノイズ。
- ・結果を判断する：自然さ、安定性、タイミング、静けさ、長期的な音楽的意味。ショー効果ではない。

APANI WAY : Music Transformer という考え方は、比較をより厳密にする。ラウドスピーカーは印象的であってよい。しかし **Music Transformer** は、信じられるものでなければならない。

4A.2 Music Transformers を公平に比較する方法

この方法は、60 分セットアップと再現可能なリスニング・ワークフローの直後に使う。目的は、最も大きく、最も明るく、最も広いシステムを勝者にすることではない。通常の不純物を取り除いたあと、どの候補が最も真実に近い音楽を残すかを見つけることである。

比較ルール

- ・同じ座席、同じ部屋、同じキュータイム。別の日や別の配置の記憶と比較してはならない。
- ・同じレベル。左右および A/B を可能な限り一致させる。大きい音は良い音ではない。
- ・短いウィンドウ。30～90 秒聴き、切り替える前に一文を書く。
- ・一度に一つの軸。tonality、focus、depth、timing、quietness を曖昧な好み混ぜてはならない。
- ・低レベルチェック。真の Music Transformer は、小さな音量でも一貫し、感情的に説得力を保つ。
- ・7 日間チェック。勝者は、新鮮さの効果が薄れたあとも、より良いままでなければならない。

通常のハイエンド比較	APANI Music Transformer 比較
より多くのディテール？	ガラス質、緊張、スポットライト感なしに、より多くの情報があるか？
より大きな低音？	より明確な始まり/停止、自然な重量感、より良いタイミング・ロックか？
より広いステージ？	安定した定位と保たれたセンターを伴う、信じられる空間か？
より多くの高音？	歯擦音、エッジ、疲労感のない自然な音色か？
より印象的なダイナミクス？	圧縮、プーミ、硬さのない制御された力か？
最初の数分の好み？	レベル合わせ、メモ、再現性、日常リスニング後の好みか？
物体としてのスピーカー	イベントとしての音楽：ラウドスピーカーが物語の中心であることをやめる。

APANI WAY : レベル合わせ、再現可能なキュータイム、低レベルリスニングに耐えられない比較は、まだ APANI Music Transformer 比較ではない。

4A.3 Music Transformer スコアと分類

通常の 12 軸スコアシートから始める。その後、リスニングメモを Music Transformer としての判断へ変換する。これはラボ測定ではない。散らばった印象が誤った結論になることを防ぐための、規律ある方法である。

重み付け判断マップ

グループ	含まれる軸	重み	Music Transformer の問い
自然さ	Tonality, Texture	20%	システムは hi-fi よりも、声や楽器のように聴こえるか？
空間的真実	Focus, Stability, Width, Depth, Height	25%	ステージは信じられ、安定し、秩序立っているか？
タイミングの真実	Transients, PRaT / 低音とリズムの一貫性	20%	音楽的な原因と結果が、清潔で自然に感じられるか？
ダイナミックな生命感	Microdynamics, Macrodynamics	15%	小さな動きと大きな動きが、ストレスなく理解できるか？
静けさと容易さ	Quiet, fatigue behavior, low-level listening	15%	静けさがディテールを守り、時間が経ってもシステムは聴きやすいままか？
実用的適合	Room fit, setup repeatability, daily usability	5%	実際の部屋で、その結果を確実に保てるか？

APANI 分類

総合スコア	APANI 分類	意味
0～39	問題/効果スピーカー	明確な問題が支配し、音楽が損なわれる。
40～59	通常の hi-fi ラウドスピーカー	使えるが、自然さ、タイミング、空間の限界が明らか。
60～74	ハイエンド・ラウドスピーカー	明らかに良いが、ときにまだ機器として聴こえる。
75～89	Music Transformer	システムは録音を繰り返し、信じられる音楽的イベントへ変える。
90～100	Reference Music Transformer	まれな領域。純度、タイミング、空間、疲労のないリアリズムが、あなたの部屋で一体化する。

APANI WAY：勝者とは、より少ない音と、より多い音楽を生むラウドスピーカーである。機器効果が消えたとき、Music Transformer が残る。

5. 評価シート：本当に重要な 12 の軸

このグリッドは測定値ではなく、構造化された知覚として使う。尺度は 0～10。

- 0～3：明確な問題。音楽を損なう。
- 4～6：OK / 通常。ただし限界がある。
- 7～8：非常に良い。音楽的に 無理なく。
- 9～10：自分の部屋におけるリファレンス。まれ。

12 軸一覧

軸	評価すること - 短く
Tonality	自然な音色。ピークや穴のないバランス。
Microdynamics	最小の変調。低レベルのディテールが理解可能なまま残る。
Macrodynamics	パンチ、クレッシェンド、大きな跳躍がストレスや圧縮なしに出る。
Transients	Attack/decay。清潔なインパクト、リングングやオーバーハングがない。
Focus	イメージング精度、点音源、正確なファントムセンター。
Stability	小さな頭の動きでもステージが安定している。
Width	ラウドスピーカーを越えて広がるステージ。左右の「空気」。
Depth	前景/中景/背景が分離し、リバーブが奥に座る。
Height	信じられる垂直方向のサイズ。
Texture	サステイン/リバーブの微細構造。疑似的な鋭さのない層。
Coherence	マルチウェイ・ラウドスピーカーが一体として鳴る。クロスオーバーが聴こえない。
Quiet	黒い背景。ハムやホイーンがなく、「呼吸する」ノイズフロアがない。

APANI WAY：この 12 軸は純度の地図である。ハイエンドとは、一つの大きなものではない。リアリズムへ加算される小さな真実の総和である。

6. 軸ごとのリスニングガイド：正しい音、エラー、ミニテスト、修正

重要：「多い/少ない」だけで評価しない。何を聴いたか、どこで聴いたか（キュータイム）、何によって良くなったか（修正）を記述する。

6.1 Focus - イメージング / 定位の鋭さ

評価すること：

個々の音源がステレオ三角形の中でどれほど鋭く立つか。カメラのフォーカスのように。

正しい音：

- ・ファントムセンターが正確である。
- ・声が平面的ではなく、身体を持った、または点として感じられる。
- ・頭の動きによる変化が少なく、イメージが安定している。

エラーの見分け方：

- ・センターが左右へ引っ張られる。
- ・声がカーテンのように広がり、位置が泳ぐ。
- ・わずかな頭の動きで音色や定位が傾く。

ミニテスト - 3 分：

- ・モノラルの声：中央に「ぴたり」と座るか。
- ・頭を少し動かす：安定したままか。

原因とすばやい修正：

- ・L/R レベルを ± 0.1 dB に合わせる。
- ・距離と家具を見直し、対称性を改善する。
- ・一次反射を抑え、toe-in を左右で同じにする。

If... then...

- ・センターが漂うなら -> レベルと対称性を確認する。
- ・声が平面的なら -> toe-in を微調整し、反射を抑える。

APANI WAY：純粋なイメージングは無理なく感じられる。歌手を探すのではない。自然に配置された歌手を認識する。

6.2 Stability - サウンドステージが「そこに立つ」

評価すること：

ステージがロックし、小さな動きで揺れないか。

正しい音：

- ・音源が固定される。
- ・少し動いても歌手が漂わない。

エラーの見分け方：

- ・ステージが揺れ、歌手が漂う。
- ・呼吸したり頭を回したりするとイメージが傾く。

ミニテスト - 3 分：

- ・声と短いインパルス（スネア）：イメージは固く保たれるか。

原因とすばやい修正：

- ・一次反射を制御する（側面、床）。
- ・後壁に近すぎて座らない。対称性を改善する。
- ・toe-in は左右で精密に一致させる。

APANI WAY：安定性は純度の指標である。イメージが揺れなくなると、システムは演じることをやめ、録音が存在し始める。

6.3 Width - サウンドステージの幅

評価すること：

鋭さを失わずに、空間がラウドスピーカーの外側へどれだけ横方向に開くか。

正しい音：

- ステージがラウドスピーカーを越えて広がる。
- 左右に空気が生まれ、イメージングは明瞭なまま。

エラーの見分け方：

- すべてが箱に張り付く。ステージが狭い。
- または、ステージは広いが、すべてがぼやける。

ミニテスト - 3 分：

- ライブ録音/拍手：ラウドスピーカーの外側に空間が形成されるか。

原因とすばやい修正：

- 狭すぎる場合：toe-in を少し減らす。
- ぼやける場合：toe-in を増やし、一次反射をより制御する。
- 側壁距離を確認する。部屋を殺しすぎない。

APANI WAY：純粋な幅とは、単に広げることではない。定位を保ったまま信じられる空間があること。まるで、物の位置を指で示せるかのように。

6.4 Depth - 奥行きの層

評価すること：

前景、中景、背景がどれほど明確に分離するか。リバーブが奥に座るか。

正しい音：

- ソリストが前に、伴奏が後ろにある。
- リバーブはステージの奥にあり、低レベルの層が整理されたまま。

エラーの見分け方：

- リバーブがラウドスピーカーに張り付く。
- 静かな要素が前へ崩れ、すべてが前面のガラス板になる。

ミニテスト - 3 分：

- より小さく聴く：前景は前に留まるか。
- 合唱/アンサンブル：列を知覚できるか。

原因とすばやい修正：

- 20～80 ms 領域の反射を抑える（側壁/後壁）。
- 座席位置をセンチ単位で変える。後壁に直接座らない。
- 後壁は完全吸音よりも拡散が好ましいことが多い。

If... then...

- 奥行きがないなら -> 側壁/後壁を処理する（20～80 ms）。
- 静かな要素が前に落ちるなら -> 座席を少し動かす。

APANI WAY：奥行きはしばしば、hi-fi 的な音と現実の空間の違いである。APANI way は、前から後ろへの自然な秩序を回復することである。

6.5 Height - サウンドステージの高さ

評価すること：

声と楽器の信じられる垂直方向の大きさ。

正しい音：

- 合唱/オルガンが現実的な高さに感じられる。
- ステージが床に落ちず、不自然に高くもならない。

エラーの見分け方：

- すべてが低すぎる、または不自然に持ち上がる。
- 高さが不自然だと、声が身体性を失う。

ミニテスト - 3 分：

- 合唱/オルガン：信じられる高さか、トリックか。

原因とすばやい修正：

- ツイーターを耳の高さへ。座席の高さを調整する。
- toe-in を微細に変え、初期反射を制御する。
- リスニング席が高すぎる、または低すぎないか確認する。

6.6 Tonality and timbre - 音色とティンバー

評価すること：

バランスと自然さ。狭いピークや穴がないこと。

正しい音：

- S 音が明瞭で、鋭くない。
- ピアノが暖かく、明瞭で、身体を持つ。
- 低音が豊かで、ブームにならない。

エラーの見分け方：

- ヒス/歯擦音、硬いシンバル。
- 鼻声/空洞感。低音がブームになる、または薄すぎる。
- 左右の音が異なる。

ミニテスト - 3 分：

- 女性ヴォーカルとピアノを基準にする。
- 音量を下げる：バランスは保たれるか。

原因とすばやい修正：

- 壁からの距離を調整する (baffle step、ルームモード)。
- 対称性を回復し、L/R レベルを合わせる。
- サブ/サテライトの接続をきれいに設定する。
- 歯擦音が出る場合：toe-in を変え、一次反射を抑える。

APANI WAY：音色は“*As Pure As Nature Intended*”が明らかになる場所である。自然な声、自然な楽器、人工的な輝きなし、hi-fi 的スポットライトなし。

6.7 Transients - attack / decay

評価すること：

インパクトがどれほど清潔に始まり、減衰するか。低音が止まるか。

正しい音：

- Attack が明瞭で硬くない。
- Decay が静かでリングングがない。
- 低音が清潔に止まり、オーバーハングがない。

エラーの見分け方：

- シンバルが吐き出す、または引っかく。スネアが刺さる。
- 低音が残る。キックに輪郭がない。

ミニテスト - 3 分：

- パーカッシブなパッセージを 30～60 秒聴く。
- その後、小さくする：まだ鋭いか。

原因とすばやい修正：

- キャビネット/スタンドが共振する場合は、切り離すかダンピングする。
- 過大な音量を避ける。聴取ストレス。
- サブ：低音の停止のためにディレイ/位相を微調整する。

If... then...

- シンバルが散るなら -> 小さく聴く。共振/クロスオーバーを確認する。
- 低音が残るなら -> サブのディレイ/位相。

APANI WAY：純粋なトランジェントは速く清潔に感じられ、攻撃的ではない。システムが正しければ、インパクトは説得力があり、決して疲れない。

6.8 Microdynamics - 低レベルの変調

評価すること：

細かなレベル変化と音色変化が理解可能なままか。

正しい音：

- 息遣い/弓のノイズが聴こえる。
- 静かなディテールが分離し、安定したまま残る。

エラーの見分け方：

- 静かな部分が濁りになる。
- ディテールがノイズや敷物のような背景に消える。

ミニテスト - 3 分：

- 非常に小さく聴く：細かなディテールは残るか。
- ブラシドラム/ささやく声を確認する。

原因とすばやい修正：

- ノイズフロアを下げる（ハム、EMI、ゲイン構造）。
- 不要なダイナミック処理を避ける。
- 小さくしすぎた場合は、少しレベルを上げる。やり過ぎない。

If... then...

- 静かなディテールが欠けるなら -> ノイズ源を移動し、ノイズフロアを下げる。

APANI WAY：Microdynamics は生命である。録音の静かな真実が見えるまで、ノイズとストレスを減らす。

6.9 Macro dynamics - パンチと大きな跳躍

評価すること：

大きなレベル変化が、圧縮や歪みなしに制御されるか。

正しい音：

- Tutti / drop が力強く、鋭くない。
- キックに形と圧力があり、ブームにならない。

エラーの見分け方：

- 高レベルで潰れる。硬さ/かすれ。
- ピークでサブがブームになり、低音が制御不能になる。

ミニテスト - 3 分：

- 短い大音量の瞬間を再生し、通常へ戻す。
- 制御されたままか、ストレスを感じるか。

原因とすばやい修正：

- 大きすぎる音でテストしない。ストレスは誤診を生む。
- アンプのヘッドルーム/ゲインを確認する。
- サブ統合を最適化する（クロスオーバー/位相/ディレイ）。

If... then...

- Tutti が痛いなら -> レベルを下げ、クリッピング/ヘッドルームを確認する。
- キックの圧力が足りないなら -> アンプ/出力/サブ統合を確認する。

6.10 Texture and resolution - 「ガラス」なしの微細構造

評価すること：

サステイン、リバーブ、層の微細構造。疑似的な鋭さなしに。

正しい音：

- リバーブテールが均一に消える。
- ポリフォニーが秩序を保つ。
- ディテールが付加されたものではなく、無理なく感じられる。

エラーの見分け方：

- ディテールではなく、ガラス質の硬さ。
- テールが途切れ、音が神経質になる。

ミニテスト - 3 分：

- 長い減衰を聴く（ピアノ/弦）。
- 非常に小さく：構造は残るか。

原因とすばやい修正：

- 強調されたプレゼンスを減らす（toe-in/反射）。
- ノイズフロアを改善し、干渉を最小化する。
- 疑似的な鋭さを解像度と混同しない。

If... then...

- ディテールがガラス質なら -> プレゼンスを減らし、反射を抑える。

APANI WAY：純粋な解像度は明るいことではない。余分な緊張なしに、より多くの情報があること。システムが解説をやめるかのように。

6.11 Coherence - シングルドライバーのように

評価すること：

マルチウェイ・システムが一体として鳴るか。クロスオーバー遷移が聴こえないか。

正しい音：

- 声と同じ色を保つ。
- 横方向の動きによる変化が少なく、ステージがまとまったまま。

エラーの見分け方：

- クロスオーバー領域で声の色が変わる。
- 座席や高さの小さな変化で音色が大きく変わる。

ミニテスト - 3 分：

- ヴォカリーズ/母音スweep。
- 座席の高さを少し変える：音色は安定しているか。

原因とすばやい修正：

- toe-in と放射特性を最適化し、一次反射を制御する。
- DSP がある場合：ドライバーの時間/位相整合。
- 極端な場合：クロスオーバー/遷移の問題。部屋や位置は助けるが、完全ではない。

If... then...

- 声が飛ぶなら -> ウェイの時間/位相、座席の高さ。

6.12 Quiet / black background - 静けさ / 黒い背景

評価すること：

ハム、ホイーン、変調ノイズの不在。静かな音楽の透明性。

正しい音：

- 空の空間が本当に静かである。
- 静かな音楽が、呼吸するノイズなしに透明である。

エラーの見分け方：

- 無信号時にハム/ホイーンがある。
- ノイズフロアがポンピングまたは呼吸し、休符に落ち着きがない。

ミニテスト - 3 分：

- 無信号時にドライバーへ耳を近づける。
- 非常に静かなパッセージ：空間を聴いているか、それとも敷物のようなノイズだけか。

原因とすばやい修正：

- グラウンドループを分離し、ケーブル経路/電源を分ける。
- 可能ならバランス接続（XLR）を使う。
- auto-loudness / AGC / compressor を無効にする。

If... then...

- ハムがあるなら -> グラウンドループを分離し、XLR を使う。
- ポンピングするなら -> auto-loudness / AGC / compressor をオフにする。

APANI WAY：静けさは空虚ではない。自然なディテールが生きる空間である。純粋なシステムはその空間を守る。

7. 追加基準：Timing / PRaT - Pace, Rhythm and Timing - Groove

PRaT は Pace, Rhythm and Timing を意味する。テンポ感、リズムの精度、音楽が時間の中でどのようにロックするかを指す。これは低音や高音が多いかではなく、時間情報についての基準である。

7.1 正しい PRaT はどう聴こえるか - 具体的に可聴

- ・ビートを無理なくに数えられる。身体が自然に動く（足または頭）。
- ・キックとベースが一つの単位に感じられる。キックはインパルスであり、ベース音は正確に始まり、時間通りに終わる（明確な開始/停止）。
- ・より低いレベルや密度の高い音楽でも、グルーヴは安定したまま。

7.2 PRaT エラーの見分け方

- ・グルーヴが鈍い：ベース音が長く残りすぎ、次のビートを覆う。キックが輪郭を失う。
- ・グルーヴが急かされる、または落ち着かない：インパルスが慌ただしく感じられ、手拍子やタッピングが奇妙に感じられる。
- ・キックとベースが互いにつまずく：キックは別個の打撃、ベースはロックしない敷物になる。

7.3 3 分間の PRaT 練習

- ・タッピング・テスト：キック/ベースに合わせて静かに叩く。つまずくなら、タイミング/停止が誤っていることが多い。
- ・キック停止テスト：キックだけに集中する。明確な停止か、引きずる尾か。
- ・サブ統合テスト：サブがある場合、ディレイ/位相を少し変える。突然ロックするなら、問題はタイミング/統合であり、好みではない。

7.4 原因とすばやい修正

- ・サブ/サテライトのディレイと位相を正しく設定する（低音のロックイン）。
- ・ルームモードを減らす。座席/ラウドスピーカーをセンチ単位で動かし、重要な位置を避ける。
- ・低音域の大きな群遅延ピークを避ける。適切なフィルター/クロスオーバーを選ぶ。

APANI WAY：PRaT はリズムの純度である。タイミングが清潔なら、身体は自然に反応する。脳は現実世界の原因と結果を認識する。“As Pure As Nature Intended”とは、キックとベースがにじんだ効果ではなく、本物のエンジンのように振る舞うことを意味する。

8. リスニング・トラック：キュータイムと目標音

可能な限りロスレス音源を使う。リマスターは異なるため、最も自然なバージョンを選ぶ。多くの場合 65～75 dB LAeq で聴き、固定されたキュータイムを使う。

APANI WAY：これらのトラックは見せびらかすためのものではない。あなたのシステムが自然で、安定し、理解可能で、疲労を生まずに保たれるかを示す。APANI の純度基準である。

8.1 Imaging and soundstage - center, stability, room

Cowboy Junkies - “Mining for Gold” - Intro～1:30

目標：声が正確に中央。部屋は大きく感じられるが静か。エラー：センターが漂い、声が平面的になる。

Rebecca Pidgeon - “Spanish Harlem” - 0:00～1:10

目標：点のような声。シェイカーが正確に定位。エラー：シェイカーがぼつれる -> 反射 / toe-in。

Eagles - “Hotel California (Live)” - 0:20～1:20

目標：大きなステージ。リバーブテールが奥にある。エラー：すべてが前に張り付く -> 奥行き / 反射。

8.2 Tonality and naturalness - S-sounds, body, balance

Norah Jones - “Don’t Know Why” - 0:00～1:30

目標：S 音がヒスなしに明瞭。ピアノに身体がある。エラー：「ヒスする Norah」 -> toe-in / 反射 / レベル。

Nick Drake - “Pink Moon” - 0:00～1:00

目標：親密で自然。金属的な光沢がない。エラー：鼻声/空洞感 -> comb filtering / 非対称。

8.3 Transients and punch - attack/decay, kick

Dave Brubeck - “Take Five” - 0:50～2:00

目標：attack が硬さなしに明瞭。細部が残る。エラー：シンバルが spitty -> レベル / 反射。

Daft Punk - “Giorgio by Moroder” - 3:10～4:50 / 約 6:00 以降

目標：キックに輪郭と停止。後半はブームなしに圧力。エラー：輪郭のない厚いキック -> サブディレイ / モード。

8.4 Microdynamics and room details - low-level information

Patricia Barber - “Company” - 0:30～2:30

目標：細かな変調が分離し、安定したまま。エラー：すべてが敷物になる -> ノイズフロア / 部屋が多すぎる。

Yosi Horikawa - “Bubbles” - 0:00～1:30

目標：点を正確に配置でき、動きが追える。エラー：にじみ -> イメージング / 反射。

8.5 Macrodynamics and control - impact, sub energy

Stravinsky - “Infernal Dance (Firebird)” - 0:30～2:30

目標：痛みなく力強い。圧縮なし。エラー：潰れ/鋭さ -> ヘッドルーム / レベル。

Massive Attack - “Angel” - 0:45～2:30

目標：巨大なエネルギーだが、ベースラインは定義されている。エラー：ブーム -> モード / サブ統合。

8.6 Quiet / black background - silence is information

Max Richter - “On the Nature of Daylight” - 0:00～2:00

目標：静かで透明。ポンピングなし。エラー：呼吸する敷物 -> AGC / loudness / ノイズ源。

Keith Jarrett - “The Köln Concert, Part I” - 0:00～1:30

目標：ホールの空気とペダル音が現実的で、邪魔にならない。エラー：ノイズが飛び出る -> プレゼンス / 反射。

8.7 Coherence - of one piece

The Tallis Scholars - “Miserere (Allegrì)” - 1:30～3:30

目標：声が溶け合い、遷移が聴こえない。エラー：座席高さで音色が飛ぶ -> コヒーレンス / 反射。

Steely Dan - “Aja” - 1:30～4:30

目標：密だが秩序がある。シンバルは細かく、切りつけない。エラー：ストレス -> トランジェント / プレゼンス。

8.8 Depth and layering - 3D check

Hugh Masekela - “Stimela (The Coal Train)” - 4:30～6:00

目標：明確な層。空間が後ろへ開く。エラー：すべてが前に落ちる -> 反射 / 後壁。

Arvo Pärt - “Tabula Rasa” - 0:00～3:00

目標：リバーブテールが奥で安定。エラー：リバーブがスピーカーに張り付く -> 奥行き / 反射。

8.9 Texture and long decays - resolution without glass

Arvo Pärt - “Spiegel im Spiegel” - 0:00～3:00

目標：減衰が静かで豊か、粒立たない。エラー：テールが途切れる -> プレゼンスブースト / リミティング。

Agnes Obel - “Riverside” - 0:30～2:30

目標：層が分離し、有機的。エラー：層が貼り付く -> テクスチャ / 反射。

8.10 PRaT / Groove - timing stress

James Brown - “Sex Machine” - 0:00～2:00

目標：タイト。タッピングが無理なく。エラー：鈍い/急ぐ -> 低音停止 / タイミング。

Daft Punk - “Get Lucky” - 0:20～2:30

目標：ロックイン、バウンス。キック/ベースが一体。エラー：つまづく -> サブディレイ / 位相。

9. ABX プロトコル：可聴性を正しく検証する

ABX はブラインド比較である。A と B は二つの状態、たとえばフィルター、DSP、ケーブル、機器である。X はランダムに A または B となる。課題は、何が鳴っているかを知らずに X を正しく割り当てること。これは可聴性を検証するものであり、好みを検証するものではない。

9.1 クリーンな ABX テストのルール

- レベルを ± 0.1 dB に合わせる。そうしなければラウドネスが勝つ。
- 切り替えは理想的には 1 秒未満。
- 10～16 試行。正答率/有意性を評価する ($p < 0.05$)。
- 同じ座席、同じキュータイム、同じレベル。副次的な変数を入れない。
- ABX 正答しきい値 (有意性 $p < 0.05$) : 10 試行 -> 少なくとも 9/10、12 試行 -> 少なくとも 10/12、16 試行 -> 少なくとも 12/16。

9.2 典型的な ABX エラーと回避方法

- 「大きい音が勝つ」：本当にレベルを合わせる。
- 切り替えが見える：視覚的ヒントを避ける。
- 休憩が長すぎる：聴覚記憶は短い。すばやく切り替える。
- セットアップが変わる：座席、toe-in、レベルを一定に保つ。
- 素材が不適切：違いが現れやすいパッセージを選ぶ。

APANI WAY : ABX は反感情的ではない。純度の味方である。期待から聴覚を守り、残るものを現実にする。As pure as nature intended.

10. If... then... クイックチェックリスト - 問題から行動へ

- センターが漂うなら -> L/R レベル ± 0.1 dB と対称性を確認
- 声が平面的なら -> toe-in を微調整し、一次反射を抑える
- ステージが狭いなら -> toe-in を減らす
- すべてが平面的なら -> 後壁を拡散し、座席を前へ動かす
- 奥行きがないなら -> 側壁/後壁を処理する (20～80 ms)
- シンバルが散る、または鋭いなら -> 小さくテストし、共振/クロスオーバーを確認
- 低音がブームなら -> スピーカー/座席を 10～30 cm 動かし、サブのクロスオーバー/位相を確認
- 低音が残るなら -> サブディレイ/位相を微調整
- グルーヴが急ぐ、または鈍いなら -> サブディレイを調整し、必要なら位相反転
- 静かなディテールが欠けるなら -> ノイズ源を移動し、ノイズフロアを下げる
- 頭の動きで音色が大きく変わるなら -> 一次反射を抑える
- クロスオーバーで声が飛ぶなら -> ウェイの時間/位相整合、座席高さを確認
- 言葉が不明瞭なら -> 側面反射を抑える (C50)
- 音楽が小さすぎる、または乾きすぎるなら -> 拡散/距離を増やす (C80)
- ABX が有意でないなら -> 試行回数を増やす / 別の素材を使う
- 可聴性なしに好みが生じるなら -> 使いやすさ、価格、機能を重み付けする

APANI WAY : 純度はプロセスである。症状を聴く -> 原因を取り除く -> 再現可能なテストで確認する。それが APANI way である。

11. 判断：残すか、残さないか？

クリーンなオーディオファイル判断プロセス。

- 可聴か。理想的には ABX、または厳密にレベル合わせした A/B 比較。
- 好きか。好みを正直に記録する。
- 関係があるか。あなたの音量、あなたの音楽、あなたの部屋でより良いか。
- 実生活テスト：7 日間のリスニングジャーナル。四つすべてが Yes の場合のみ残す。

APANI WAY：本当に良いなら、新鮮さが薄れた後も良いままである。純粋なアップグレードには言い訳が要らない。

12. ワークシート：印刷用ログシート

ヒント：スピーカー位置と座席位置をテープでマーキングしておくと、いつでも再現可能に比較できる。

セットアップ欄 - 各セッション前に記入

- 日付 / 時刻
- 部屋 / リスニング位置
- スピーカー間距離
- スピーカーから座席までの距離
- Toe-in - 説明または角度 / マーキング
- LAeq レベル
- サブウーファー - Yes/No - クロスオーバー / 位相 / ディレイ
- トラック + キュータイム

軸	スコア - 0～10	メモ - どう聴こえたか
Tonality		
Microdynamics		
Macrodynamics		
Transients		
Focus		
Stability		
Width		
Depth		
Height		
Texture		
Coherence		
Quiet		

セッションメモ - 自由記述

12A. Music Transformer 比較ワークシート

通常の 0～10 評価シートの後に使用する。レベル合わせと少なくとも一度の低レベル確認を行った後、候補ごとに一行を記入する。

候補 / モデル	セットアップ 固定?	Tonality	Space	Timing	Quiet / ease	30 分後の疲労	Total	一文の真実
A								
B								
C								
D								

セットアップ固定欄

項目	候補 A	候補 B	候補 C	候補 D
日付 / 時刻				
部屋 / リスニング位置				
スピーカー-座席距離				
スピーカー-スピーカー距離				
Toe-in マーク / 角度				
LAeq リスニングレベル				
サブウーファー クロスオーバー / 位相 / ディレイ				
トラック + キュータイム				

APANI WAY : 候補は、ひとつのキューで勝ったからといって Music Transformer になるわけではない。音色、空間、タイミング、静けさ、日常リスニングを通じて自然であり続けなければならない。

12A.2 最終判断：どれが Music Transformer になるのか？

クリーンな判断は、可聴性、好み、関連性、実生活での実用性がすべて一致したときにのみ成立する。

判断ゲート	Yes / No	メモ
レベル合わせした A/B または ABX で可聴か？		
通常レベルと小音量の両方でより良いか？		
高音/ディテールが多いだけでなく、より自然な音色か？		
小さな頭の動きでもセンターとステージがより安定するか？		
低音が多いだけでなく、より良い低音タイミング/開始停止か？		
30～60 分で疲労が少ないか？		
極端な配置や言い訳なしに部屋で機能するか？		
7 日間の実生活テスト後も好まれるか？		

最終 APANI 分類

選ばれた候補	総合スコア	分類	残す / 残さない理由

判断文

最終文	このラウドスピーカーは APANI Music Transformer になる / ならない。なぜなら：

APANI WAY : 比較の締めの一文：Music Transformer が残されるのは、ラウドスピーカーが注意の対象であることをやめ、音楽がイベントになるときだけである。

付録：短い用語集 - 聴くときに実用的

Directivity - DI

ラウドスピーカーが周波数によってどれほど指向性を持つか。均一な **directivity** とは、軸外でも音色が安定し、ステージがより落ち着いて感じられることを意味する。

Comb filtering

床、側壁、後壁などによる干渉で生じる周期的なディップまたはピーク。典型的なサイン：小さな頭の動きが大きな音色変化を起こす。

C50 / C80 - clarity

初期エネルギーと後期エネルギーの比率。C50 は音声、C80 は音楽。非常に高い場合は乾いた/小さい、非常に低い場合は残響が多い/柔らかない。

Equal-Loudness / Fletcher-Munson（等ラウドネス曲線、ISO 226）

耳は音量に応じて周波数を異なる大きさとして知覚する。全帯域にわたり知覚がほぼ均衡するのは約 80～85 dB であり、それより低いレベルでは低音、そしてより弱い程度で高音が後退する。実用上の結果：静かな比較は、低音と高音が多いラウドスピーカーを体系的に有利にする。したがって音色バランスは約 85 dB（C 特性）で判断し、小音量リスニングは欠点探し（粗さ、歪み）にのみ使う。

Group delay

周波数依存の時間ずれ。特に低音域の大きなピークは、ベースラインをぼやけさせ、キックに引きずる尾を残す。

Precedence effect

早く到達する直接音が定位を支配する。強すぎる初期反射は定位をにじませる。

注：本書はリスニングと実践のガイドである。測定は助けになるが、自分の部屋での制御されたリスニング実践を置き換えるものではない。

APANI WAY：“As Pure As Nature Intended”とは、レベル、部屋、タイミング、ノイズが浄化されたとき、ラウドスピーカーが物語であることをやめ、音楽が物語になる、という意味である。

APANI Quick Reference Sheets

12 軸一覧

軸	評価すること - 短く
Tonality	自然な音色。ピークや穴のないバランス。
Microdynamics	最小の変調。低レベルのディテールが理解可能なまま残る。
Macrodynamics	パンチ、クレッシェンド、大きな跳躍がストレスや圧縮なしに出る。
Transients	Attack/decay。清潔なインパクト、リングングやオーバーハングがない。
Focus	イメージング精度、点音源、正確なファントムセンター。
Stability	小さな頭の動きでもステージが安定している。
Width	ラウドスピーカーを越えて広がるステージ。左右の「空気」。
Depth	前景/中景/背景が分離し、リバーブが奥に座る。
Height	信じられる垂直方向のサイズ。
Texture	サステイン/リバーブの微細構造。疑似的な鋭さのない層。
Coherence	マルチウェイ・ラウドスピーカーが一体として鳴る。クロスオーバーが聴こえない。
Quiet	黒い背景。ハムやホイーンがなく、「呼吸する」ノイズフロアがない。

APANI 分類

総合スコア	分類	意味
0～39	問題/効果スピーカー	明確な問題が支配し、音楽が損なわれる。
40～59	通常の hi-fi ラウドスピーカー	使えるが、自然さ、タイミング、空間の限界が明らか。
60～74	ハイエンド・ラウドスピーカー	明らかに良いが、ときにまだ機器として聴こえる。
75～89	Music Transformer	システムは録音を繰り返し、信じられる音楽的イベントへ変える。
90～100	Reference Music Transformer	まれ。純度、タイミング、空間、疲労のないリアリズムがあなたの部屋で一体化する。

評価シート

軸	スコア 0～10	メモ：どう聴こえたか
Tonality		
Microdynamics		
Macrodynamics		
Transients		
Focus		
Stability		
Width		
Depth		
Height		
Texture		
Coherence		
Quiet		

APANI WAY：Music Transformer が残されるのは、ラウドスピーカーが注意の対象であることをやめ、音楽がイベントになるときだけである。

[illegible]

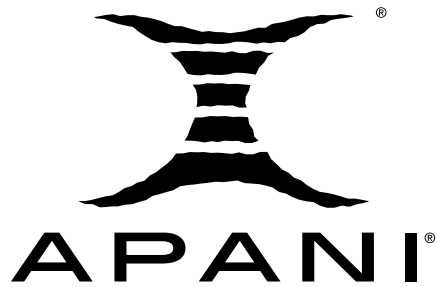
Session notes - free text

[illegible]

[illegible]

Session notes - free text

[illegible]



**As Pure As Nature Intended®
Audiophile**

IMPRINT

Apani – As Pure As Nature Intended AG Audiophile
Breitenstrasse 51
8832 Wilen bei Wollerau
Switzerland

CONTACT:

Email: info@apani.ch
Website: www.apani-life.com

REPRESENTED BY

PROF. DR. BODO W. LAMBERTZ
ENG. DR. SABRINA SALVADORI

AUTHOR / CONTRIBUTOR:

Prof. Dr. Bodo W. Lambertz

COMPANY REGISTRATION

Registered with the Commercial Register
of the Canton of Schwyz
Registration number: CHE-134.288.704

DISCLAIMER / LIABILITY FOR CONTENT

The contents of our website have been created with the utmost care. However, we cannot guarantee the accuracy, completeness, or timeliness of the information provided.

LIABILITY FOR LINKS

Our website may contain links to external third-party websites. We have no influence over the content of those websites and therefore cannot accept any liability for such external content.

COPYRIGHT

All content and works published on this website are subject to copyright laws. Any duplication, processing, distribution, or any form of commercialization beyond the scope of copyright law requires prior written consent of the respective author or creator.

AUTHOR

PROF. DR. BODO W. LAMBERTZ

DESIGN & VISUALIZATION

technical drawings and renderings
by Jean-Paul Stoll | info@stollwerk-design.de

Version 07-26



licenses by



RESEARCH DEVELOPMENT + DESIGN COMMUNICATION

THE MUSIC TRANSFORMER

APANI 贈る、完全なるオーディオフィール・アコースティック作品。
スイス製のアクティブ型、時間整合リスニング・インストゥルメントのファミリー。

再生ではなく、臨在。

機材ではなく、体験。

ラウドスピーカーではなく、Music Transformer。



APANI®

As Pure As Nature Intended®
Audiophile



HANDCRAFTED IN GERMANY · WWW.APANI-LIFE.COM